



SunPCi™ III 3.0 ユーザーマニュアル

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054 U.S.A.
650-960-1300

Part No. 817-1940-10
2003 年 3 月、Revision A

このマニュアルに関するコメントは次のアドレスまで。docfeedback@sun.com

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

本書に記載される製品に含まれる技術に関連する知的所有権は、サンマイクロシステムズ株式会社に所属します。特に、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に一覧表示された、米国における特許権を無制限に含むことがあり、また米国ならびに他の国におけるその他の特許権または出願中の係属特許を含む場合があります。

本書およびそれに関連する製品は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限する使用許諾に基づいて頒布されます。サンマイクロシステムズおよびその使用許諾者の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられています。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者から使用許諾を受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学が使用許諾権を持つ Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的に使用許諾権を持つ、米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、AnswerBook2、docs.sun.com、SunPCI、OpenBoot、SunBlade、Sun Enterprise、SunSolve、Access1、および Solaris は、米国ならびに他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. の使用許諾を受けて使用している、同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および Sun® Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよび使用許諾を受けるユーザー向けに開発したものです。Sun は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェイスの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的使用許諾を取得しており、この使用許諾は、米国 Sun Microsystems 社が、OPEN LOOK GUI の使用およびその他の書面による使用許諾契約を与える使用被許諾者にも適用されます。

アメリカ合衆国政府権限 - 商用ソフトウェア政府機関ユーザーは、米国 Sun Microsystems, Inc. の一般使用許諾契約の条件、および連邦政府調達規則ならびに附則に基づく調達を適用されるものとします。

本書の提供は無保証であり、商品性に対する黙示の保証、および特定目的への適合性または非背反性に対する黙示の保証を含む、すべての明示的または黙示的な条件、表示、および保証については、免責に違法性が認められる場合を除いて、すべて免責事項とします。



リサイクルに
ご協力を



Adobe PostScript

安全への準拠に関する情報

手順を開始する前に、この項をお読みください。この項では、サンマイクロシステムズの製品を安全に設置していただくための注意事項について説明します。

安全上の注意事項

装置を設置する場合には、次の点に注意してください。

- 装置上に記載されているすべての注意事項や指示に従ってください。
- ご使用の電源の電圧や周波数が、装置の電気定格表示と一致していることを確認してください。
- 装置の開口部に異物を差し込まないでください。内部は高電圧になることがあり危険です。金属などの導体を入れるとショートして、発火、感電、装置の損傷の原因となることがあります。

記号について

このマニュアルでは、以下の記号を使用しています。



注意 - 人身への事故や装置の故障が発生する危険性があります。指示に従ってください。



注意 - 表面が高温になっています。触れないでください。触れると火傷をする危険性があります。



注意 - 高電圧です。感電やケガを防ぐため、説明に従ってください。



オン - システムに AC 電源を供給します。

装置の電源スイッチの種類により、次の記号のいずれかが使用されます。



オフ - システムへの AC 電源の供給を停止します。



スタンバイ・システムはスタンバイモードになっています。

装置の改造

装置に機械的または電氣的な改造を行わないでください。改造が行われた場合、サンマイクロシステムズは、規制への準拠に関して責任を負いません。

サン製品の設置



注意 - 装置の開口部を塞いだり覆ったりしないでください。また、装置の近くに放熱機器を置かないでください。装置が過熱すると、信頼性が損なわれます。



注意 - DIN 45 635 第 1000 項で規定されている現場騒音レベルが 70Db(A) 以下でなければなりません。

SELV 準拠

I/O 接続の安全状態は、SELV (Safety Extra Low Voltage) の要件に準拠しています。

電源コードの接続



注意 - サンの製品は、アースされた中性線を持つ単相電力系を使用する設計になっています。感電の危険を避けるため、これ以外の電力系にサン製品を接続しないでください。建物に供給されている電力の種類がわからない場合は、施設管理者や資格を持った電気技師に問い合わせてください。



注意 - 電源コードによって定格電流は異なります。家庭用延長コードには過負荷保護がなく、コンピュータシステムでの使用を意図したものではありません。家庭用延長コードをサンの製品に使用しないでください。



注意 - サンの製品は、アース付き (3 線式) の電源コードが付属しています。感電の危険を避けるため、必ずアースしたコンセントに電源コードを接続してください。

次の警告は、スタンドバイ電源スイッチ付きの装置にのみ該当します。



注意 - この製品では、電源スイッチを切った場合でもスタンバイ状態が保たれています。完全に電源を切るには、電源プラグを抜いてください。設置場所の側にあるアース付きの電源コンセントに電源プラグを差し込んでください。システムシャーシから電源装置を取り外したら、電源プラグは差し込まないでください。

リチウム電池



注意 - サンの CPU ボードにある実時間時計 (SGS No. MK48T59Y, MK48TXXB-XX, MK48T18-XXXPCZ, M48T59W-XXXPCZ, MK48T08) には、リチウム電池が埋め込まれています。ユーザーがこのリチウム電池を交換することはできません。取り扱いを誤ると、爆発の危険があります。電池を火の中に投入しないでください。また、リチウム電池を分解したり充電したりしないでください。

電池パック



注意 - SunPCi III ユニットには、密閉鉛蓄電池が入っています (ポータブルエネルギー製品番号: TLC02V50)。電池パックの取り扱いを誤ったり、交換が不相当だと、爆発の危険があります。サンマイクロシステムズの同種の電池パックのみと交換してください。また、鉛蓄電池を分解したり、システムから出して充電したりしないでください。電池を火の中に投入しないでください。電池は、各地域の規定に従って廃棄してください。

システム本体のカバー

カード、メモリ、内部記憶装置を追加する際には、サンコンピュータシステム本体のカバーを取り外す必要があります。作業後は、必ずカバーを元どおりに取り付けてから、電源を入れてください。



注意 - サン製品を操作する前に必ずカバーを元に戻してください。カバーを開けたままサン製品を使用するのは危険です。人身事故やシステム故障の原因になることがあります。

レーザー準拠通知

レーザー技術を使用するサン製品は、クラス 1 レーザー条件に準拠しています。

Class 1 Laser Product
Luokan 1 Laserlaite
Klasse 1 Laser Apparat
Laser Klasse 1

CD-ROM



注意 - 指定された以外の手順で制御、調整、操作を行った場合、被爆の可能性があります。

GOST-R Certification Mark



Regulatory Compliance Statements

Your Sun product is marked to indicate its compliance class:

- Federal Communications Commission (FCC) — USA
- Industry Canada Equipment Standard for Digital Equipment (ICES-003) — Canada
- Voluntary Control Council for Interference (VCCI) — Japan
- Bureau of Standards Metrology and Inspection (BSMI) — Taiwan

Please read the appropriate section that corresponds to the marking on your Sun product before attempting to install the product.

FCC Class A Notice

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy, and if it is not installed and used in accordance with the instruction manual, it may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

Shielded Cables: Connections between the workstation and peripherals must be made using shielded cables to comply with FCC radio frequency emission limits. Networking connections can be made using unshielded twisted-pair (UTP) cables.

Modifications: Any modifications made to this device that are not approved by Sun Microsystems, Inc. may void the authority granted to the user by the FCC to operate this equipment.

FCC Class B Notice

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/television technician for help.

Shielded Cables: Connections between the workstation and peripherals must be made using shielded cables in order to maintain compliance with FCC radio frequency emission limits. Networking connections can be made using unshielded twisted pair (UTP) cables.

Modifications: Any modifications made to this device that are not approved by Sun Microsystems, Inc. may void the authority granted to the user by the FCC to operate this equipment.

ICES-003 Class A Notice - Avis NMB-003, Classe A

This Class A digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Cet appareil numérique de la classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

ICES-003 Class B Notice - Avis NMB-003, Classe B

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

VCCI 基準について

クラス A VCCI 基準について

クラス A VCCI の表示があるワークステーションおよびオプション製品は、クラス A 情報技術装置です。これらの製品には、下記の項目が該当します。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

クラス B VCCI 基準について

クラス B VCCI の表示  があるワークステーションおよびオプション製品は、クラス B 情報技術装置です。これらの製品には、下記の項目が該当します。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

BSMI Class A Notice

The following statement is applicable to products shipped to Taiwan and marked as Class A on the product compliance label.

警告使用者：

這是甲類的資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當的對策。



Declaration of Conformity

Compliance Model Number: BLPN
Product Name: SunPCi III (2134A, X2134A)

EMC

USA—FCC Class B

This equipment complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This equipment may not cause harmful interference.
2. This equipment must accept any interference that may cause undesired operation.

European Union

This equipment complies with the following requirements of the EMC Directive 89/336/EEC:

As Telecommunication Network Equipment (TNE) in both Telecom Centers and Other Than Telecom Centers per (as applicable):

EN300-386 V.1.3.1 (09-2001)	Required Limits:
EN55022/CISPR22	Class B
EN61000-3-2	Pass
EN61000-3-3	Pass
EN61000-4-2	6 kV (Direct), 8 kV (Air)
EN61000-4-3	3 V/m 80-1000 MHz, 10 V/m 800-960 MHz and 1400-2000 MHz
EN61000-4-4	1 kV AC and DC Power Lines, 0.5 kV Signal Lines,
EN61000-4-5	2 kV AC Line-Gnd, 1 kV AC Line-Line and Outdoor Signal Lines, 0.5 kV Indoor Signal Lines > 10m.
EN61000-4-6	3 V
EN61000-4-11	Pass

As Information Technology Equipment (ITE) Class B per (as applicable):

EN55022:1998/CISPR22:1997	Class B
EN55024:1998 Required Limits:	
EN61000-4-2	4 kV (Direct), 8 kV (Air)
EN61000-4-3	3 V/m
EN61000-4-4	1 kV AC Power Lines, 0.5 kV Signal and DC Power Lines
EN61000-4-5	1 kV AC Line-Line and Outdoor Signal Lines, 2 kV AC Line-Gnd, 0.5 kV DC Power Lines
EN61000-4-6	3 V
EN61000-4-8	1 A/m
EN61000-4-11	Pass
EN61000-3-2:1995 + A1, A2, A14	Pass
EN61000-3-3:1995	Pass

Safety

This equipment complies with the following requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC:

EC Type Examination Certificates:

EN60950, 2nd Edition, +A1 +A2 +A3 +A4 +A11:1998

EN60950:2000, 3rd Edition,

Evaluated to all CB Countries

UL 60950 3rd Edition: 2000, CSA C22.2 No 60950-00

TÜV Rheinland Certificate No.

CB Scheme Certificate No

File: _____ Vol. _____ Sec. _____

Supplementary Information: This product was tested and complies with all the requirements for the CE Mark.

/S/

/S/

Dennis P. Symanski DATE
Manager, Compliance Engineering
Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle, MPK15-102
Santa Clara, CA 95054 USA
Tel: 650-786-3255
Fax: 650-786-3723

Pamela J. Dullaghan DATE
Quality Program Manager
Sun Microsystems Scotland, Limited
Springfield, Linlithgow
West Lothian, EH49 7LR
Scotland, United Kingdom
Tel: +44 1 506 672 395
Fax: +44 1 506 670 011

目次

序文 xxix

1. **SunPCi III 3.0** ハードウェアおよびソフトウェアの紹介 1
 - サポートされている Microsoft Windows オペレーティングシステム 1
 - SunPCi III 3.0 の機能 2
 - PC ユーザーに対する利点 3
 - Solaris ユーザーに対する利点 4
 - サポートされている Citrix MetaFrame ソフトウェア 5
 - SunPCi III ソフトウェアのヘルプの表示 6
 - ▼ Solaris マニュアルページの表示方法 6
 - Microsoft Windows ソフトウェアヘルプの表示 7
 - PDF ファイルマニュアルの表示 7
 - Microsoft Windows ソフトウェアの削除 8
2. はじめに 9
 - システム必要条件 10
 - 複数の SunPCi III カードの構成 11
 - SunPCi III ソフトウェアの起動と終了 11
 - ▼ SunPCi III ソフトウェアの起動方法 11
 - ▼ SunPCi III ソフトウェアの終了方法 12

- ▼ SunPCi III ソフトウェアのシャットダウン -- 方法 1 12
- ▼ SunPCi III ソフトウェアのシャットダウン -- 方法 2 13
- エミュレートドライブおよび SunPCi III ソフトウェア 13
- エミュレートハードドライブの作成 14
 - ▼ 新規エミュレートドライブの作成方法 15
 - ▼ 既存のエミュレートドライブを C: または D: ドライブとして接続する方法 19

既存のエミュレートハードドライブの拡張 20

Microsoft Windows Service Pack 22

3. 複数の SunPCi III カードの使用 23

構成に入る前に 24

 詳細な SunPCi III 複数カードのサーバーの構成 24

SunPCi III ソフトウェアでの複数カードの構成 24

 デフォルトの .ini 構成ファイル 25

 複数のカードを使用している際の .ini ファイルの命名 25

 ▼ -n オプションを使用した .ini ファイルの作成方法 26

カードとエミュレートドライブの使用 27

 ▼ カード名の識別方法 28

 ▼ 特定の .ini ファイルの起動方法 29

 ▼ 特定のカードの起動方法 30

特定のディスクイメージファイルの起動 30

 ▼ 特定のイメージと特定のカードの起動方法 31

 ▼ 各カードウィンドウのタイトルバーの指定方法 31

 ▼ SunPCi III カード構成の更新方法 32

イメージとカードの再バインド 32

複数のカードの動作 33

 複数のカードでのネットワーク 33

複数カードでのフロッピーディスクドライブの使用 33

複数カードでの CD-ROM ドライブの使用 33

4. SunPCi III ハードウェアおよびソフトウェアによるネットワーク 35

SunPCi III ハードウェアおよびソフトウェアによるネットワーク 35

SunPCi III ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定 37

▼ TCP/IP プロパティの設定方法 37

▼ 物理 Ethernet ネットワークの設定方法 38

▼ 仮想 Ethernet ネットワークの設定方法 38

5. Windows XP Professional の使用 41

Windows XP Professional のインストール 42

インストールに関する注意 42

▼ カスタムインストールの実行方法 43

▼ Windows XP Professional の再インストール方法 45

Windows XP Professional へのアップグレード 45

アップグレードに関する注意 45

Windows NT4 WS から Windows XP Professional へのアップグレード 46

アップグレードに入る前に 46

▼ Windows NT4 WS から Windows XP Professional への
アップグレード 47

Windows 2000 Professional から Windows XP Professional への
アップグレード 48

アップグレードに入る前に 48

▼ Windows 2000 Professional から Windows XP Professional への
アップグレード方法 49

Windows 98 から Windows XP Professional へのアップグレード 50

アップグレードに入る前に 50

- ▼ Windows 98 から Windows XP Professional へのアップグレード方法 51

日本語版 Windows XP Professional のインストール 52

- ▼ 自動インストールの実行方法 52
- ▼ 手動インストールの実行方法 53

Windows XP Professional での仮想 Ethernet ネットワークの構成 55

- ▼ 静的 IP アドレスを削除する方法 55
- ▼ 仮想ネットワークアダプタを追加する方法 56
- ▼ Windows XP Professional でネットワークを構成する方法 58
- ▼ 物理 Ethernet のネットワークアダプタを再構成する方法 60
- ▼ 外部ビデオドライバを構成する方法: Windows XP Professional 61
- ▼ Windows XP Professional で外部モニタの使用を構成する方法 63
- ▼ ディスプレイを外部モニタからシステムモニタへ戻す方法 65

6. Windows 2000 Professional および Windows 2000 Server の使用 67

Windows 2000 のインストール 68

インストールに関する注意 69

- ▼ カスタムインストールの実行方法 69
- ▼ Windows 2000 の再インストール方法 71

Windows NT から Windows 2000 へのアップグレード 71

アップグレードに関する注意 72

Windows NT4 WS から Windows 2000 Professional へのアップグレード 72

アップグレードに入る前に 72

- ▼ Windows NT4 WS から Windows 2000 Professional へのアップグレード方法 73

Windows NT4 TS から Windows 2000 Server へのアップグレード 74

アップグレードに入る前に 74

- ▼ Windows NT4 TS から Windows 2000 Server へのアップグレード方法 75

Windows 2000 での 仮想 Ethernet ネットワークの構成 77

- ▼ 静的 IP アドレスを削除する方法 77
- ▼ 仮想ネットワークアダプタを追加する方法 78
- ▼ Windows 2000 でネットワークを構成する方法 81
- ▼ 物理 Ethernet のネットワークアダプタを再構成する方法 82
- ▼ 外部ビデオドライバを構成する方法: Windows 2000 83
- ▼ Windows 2000 で外部モニタの使用を構成する方法 86
- ▼ ディスプレイを外部モニタからシステムモニタへ戻す方法 87
- ▼ マウスキー機能の構成方法 88

7. Windows NT Workstation、Windows NT Server、または Windows NT 4.0 Terminal Server の使用 91

インストール Windows NT 92

インストールに関する注意 92

- ▼ カスタムインストールの実行方法 93
- ▼ Windows NT の再インストール方法 95

Windows NT での 仮想 Ethernet ネットワークの構成 95

- ▼ SunNDIS アダプタのインストール方法 96
- ▼ SunNDIS アダプタを削除する方法 97
- ▼ 外部ビデオを構成する方法: Windows NT 98
- ▼ ディスプレイを外部モニタからシステムモニタに戻す方法 101

- 8. Windows 98 の使用 103**
 - インストール Windows 98 104
 - インストールに関する注意 104
 - ▼ Windows 98 の再インストール方法 104
 - Windows 98 でのネットワークの構成 105
 - ▼ Windows 98 での物理 Ethernet ネットワークの構成 105
 - ▼ Windows 98 での仮想 Ethernet ネットワークの構成 106
 - ▼ 外部ビデオを構成する方法: Windows 98 107
 - ▼ ディスプレイを外部モニタからシステムモニタへ戻す方法 108

- 9. サーバーソフトウェアのインストールと構成 111**
 - SunFSD を使用した Solaris と Microsoft Windows の間の割り当て 112
 - ▼ SunFSD 割り当てを有効にする方法 113
 - ▼ SunFSD 割り当てを無効にする方法 114

- 10. ドライブの使用と周辺装置の構成 115**
 - SunPCi III ソフトウェアでのフロッピーディスクドライブの使用 116
 - SunPCi III ソフトウェアでの CD/DVD ドライブの使用 117
 - ▼ CD-ROM ドライブをマウントする方法 117
 - ▼ CD-ROM ドライブから CD を取り出す方法 119
 - 周辺装置の接続 119
 - LED インジケータの使用 119
 - オーディオデバイスの接続 120
 - USB デバイスの接続 120
 - Ethernet デバイスの接続 121
 - 外部モニタの接続 121
 - 追加の USB および 1394 Firewire デバイスの接続 122
 - Firewire デバイスの接続 123

シリアルポートおよびパラレルポートデバイスの接続	124
シリアルデバイスの接続	125
▼ 外部モニタのシリアルマウスを構成する方法	125
11. SunPCi III ソフトウェアの使用	127
sunpci コマンドとオプション	128
SunPCi III メニュー	132
[ファイル] メニュー	132
[オプション] メニュー	133
Intel ドライバの更新	134
Intel ドライバの自動更新	134
▼ 既存の Windows NT、Windows 2000、または Windows XP Professional C: ドライブでの Intel ドライバの手動更新方法	135
▼ 既存の Windows 98 C: ドライブでの Intel ドライバの 手動更新方法	136
Boot@Boot サポート	137
SunPCi デーモン	137
Virtual Network Computing (VNC)	138
Boot@Boot サポートの構成と使用	140
VNC への Boot@Boot サポートの構成	140
Boot@Boot サポートのための SunPCi III カードの準備	142
Boot@Boot サポートのための SunPCi III カードの構成	143
Boot@Boot セッションのリスト	145
VNC または SunPCi III カードの Boot@Boot サポートを無効にする	145
VNC または SunPCi III セッションのシャットダウン	146
SunPCi デーモンプロセスのシャットダウン	146
手動による Boot@Boot 構成の変更	147

Xvnc 以外の X サーバーの使用	148
▼ リモートクライアントから VNC を操作する方法	148
拡張ドライブおよび SunPCi III ソフトウェア	149
ファイルシステムドライブ	149
ネットワークドライブ	149
▼ Windows 98 で Solaris ファイルおよびディレクトリへ アクセスする方法	150
▼ Windows 98 で長いパス名を持つディレクトリに ドライブを割り当てる方法	151
拡張ドライブへの Windows 98 アプリケーションのインストール	152
▼ Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT で Solaris ファイルおよびディレクトリにアクセスする方法	153
コピーおよび貼り付けコマンドの使用	154
▼ Microsoft Windows と Solaris 間で日本語コピーと貼り付けを 可能にする方法	154
Solaris プリンタを使用して Microsoft Windows から印刷する	155
▼ Microsoft Windows から Solaris プリンタを設定する方法	156
スクリーンセーバーの使用	157
A. トラブルシューティング	159
問題のサポート	159
SunPCi III ハードウェアの問題	160
ハードウェアエラーメッセージ	161
マウスの問題	162
フロッピーディスクドライブの問題	162
CD-ROM ドライブの問題	164
CD-ROM ドライブのセットアップ	165

ビデオディスプレイの問題	165
Sun Blade 100 の 24 ビットディスプレイ	166
外部ビデオ解像度	167
外部モニタと Windows NT	167
電源管理メッセージの問題	168
USB と Firewire 接続の問題	168
SunPCI IIIソフトウェアの問題	168
インストールエラーメッセージ	170
ソフトウェア起動エラーメッセージ	171
エミュレートハードドライブの問題	172
FAT16 ファイルシステムの制限の問題	174
ファイルシステムの互換性の問題	175
Windows NT4 TS の大容量エミュレートドライブファイルシステムの パーティション	176
エミュレートドライブと Windows XP Professional、Windows 2000、および Windows NT の問題	177
エミュレート C: ドライブをバックアップする方法	177
複数の Microsoft Windows オペレーティングシステムの使用	178
起動パーティションの作成	178
Solaris の不要なリンクの問題	179
プリンストール機種で Master.ini ファイルが見つからない	179
Sun Blade ワークステーションと Sun Enterprise サーバーの問題	180
複数のカードと Microsoft Windows の問題	180
SunPCI III ソフトウェアを使用した仮想ネットワークの構成	181
Xinerama ディスプレイの問題	181
CD-ROM からの Microsoft Windows のインストール	181
Solaris ファイルシステムにアプリケーションをインストールする際の 問題	182

ファイル番号の表示	182
システムクロックとサマータイムの問題	183
日本語のコピーと貼り付け機能に関する問題	183
ネットワークと SunFSD に関する問題	184
SunFSD へのアプリケーションのインストール	184
拡張ドライブ (SunFSD) の問題	185
構成後のネットワークの起動が遅い	185
他のシステムに接続できない	185
SunFSD ソースディレクトリからのアプリケーションのインストール	186
SunFSD ターゲットディレクトリへのアプリケーションのインストール	187
ネットワークコンピュータの問題	187
ネットワークドライブを参照する際に、ソフトウェアが ハングアップしたように見える	188
ネットワークドライブの問題	189
速度が遅いネットワークでのプリンタの追加インストール	190
Windows XP Professional と Windows 2000 の問題	190
カスタムディスプレイモードの問題	191
2つのマウスポインタの問題	192
ファイルシステムドライブの問題	194
Microsoft DirectDraw パフォーマンスの問題	194
Windows XP Professional および Windows 2000 の問題の トラブルシューティング	195
Easy CD Creator の問題	196
セーフモードで起動するとマウスが使用できない	197
D: ドライブ追加後の間違ったパス名	197
CD-ROM ドライブの問題	197
SunFSD ドライブの割り当てを解除できない	198
RealPlayer 6.0 が新しい CD-ROM ドライバのインストールを試行する	198

Windows Media Player 8 および 9 とオーディオ CD の問題	198
Windows Media Player 8 および 9 と仮想 CD-ROM の問題	199
Windows NT の問題	200
外部ビデオの問題	200
ネットワークドライブへのアプリケーションのインストール	200
Windows NT の自動実行オプションからの回復	201
ファイルシステムドライブの問題	201
Windows NT 修復ディスクの作成	202
Windows NT 修復ディスクの使用	204
Service Pack とシリアルマウスのメッセージ	205
UNC パス名を使用したファイルの検索	205
ディレクトリ列挙の問題	206
Windows NT4 TS での Citrix MetaFrame のインストール	206
外付 CD-RW ドライブの問題	206
Windows NT4 TS エディションで Office 2000 のインストールが フリーズする	207
Windows 98 の問題	207
[スタンバイ] オプションが使用できない	208
インストール完了前の CD-ROM ドライブからの CD の取り出し	208
McAfee 6.0 のインストールの問題	208
Backspace キーの問題	208
クリーンインストール後に初期画面が表示されない	209
Microsoft Windows アプリケーションの問題	209
Microsoft Windows アプリケーションのトラブルシューティング	210
Microsoft Windows アプリケーションと SunFSD の問題の トラブルシューティング	213
Windows XP Professional のインストールと SunFSD	213

Windows 2000 Professional での Microsoft Office XP のインストールと
SunFSD 214

Windows XP Professional での WordPerfect 9 のインストールと
SunFSD 214

Retrospect ソフトウェアと SunFSD 214

Windows 2000、Windows XP Professional、および Windows NT での
Norton Antivirus ソフトウェアのウィルススキャンと
SunFSD 215

Windows XP Professional での Adobe Photoshop のインストールと
SunFSD 215

B. SunPCi III 各国語のサポート 217

各国語のサポート 217

キーボード環境変数の使用 218

KBTYPE 環境変数の設定 218

KBCP 環境変数の設定 219

▼ 環境変数の設定方法 220

▼ 環境変数をオフにする方法 220

▼ Microsoft Windows 用にキーボードをセットアップする方法 221

DOS 環境でのインターナショナルキーボードの使用 221

インターナショナルキーボード 221

DOS 文字セット 222

コードページの使用と SunPCi III ソフトウェア 223

コードページテーブル 223

言語サポートコード 224

\$LANG 変数 225

C. SunPCi III オンラインサポート 227

SunPCi III の製品 Web ページ 227

SunPCi III マニュアル 228

D. SunPCi III パフォーマンス向上のヒント	229
SunPCi III 構成の調整	230
システムメモリの増設	230
エミュレートドライブの指定	230
ビデオパフォーマンスの向上	231
SunPCi III プラットフォームでのゲームソフトウェアの実行	231
▼ ビデオメモリの増設方法	232
ビデオディスプレイの出力	233
SunPCi III ソフトウェアでの Palm Pilot の使用	233

図目次

- 図 2-1 「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックス 16
- 図 2-2 「既存のエミュレートドライブの拡張」ダイアログボックス 21
- 図 3-1 「既存のエミュレートドライブの接続」ダイアログボックス 27
- 図 10-1 SunPCi III メインカード背面板にあるコネクタ 121
- 図 10-2 SunPCi III のUSB/Firewire 用カード背面板にあるコネクタ 123
- 図 10-3 SunPCi III シリアル/パラレルポート用背面板のコネクタ 124

表目次

表 2-1	SunPCi III 3.0 ソフトウェアに必要な Microsoft Service Pack	22
表 3-1	複数カード構成におけるファイル名の例	26
表 10-1	LED の色と状態	119
表 11-1	SunPCi III コマンドラインオプション	129
表 11-2	[ファイル] メニューコマンド	132
表 11-3	[オプション] メニューコマンド	133
表 A-1	SunPCi III エラーメッセージ	161
表 A-2	マウスの問題	162
表 A-3	CD-ROM ドライブの問題	164
表 A-4	ソフトウェアの外部ビデオ解像度 (VIA S3 Graphics ProSavage DDR)	167
表 A-5	インストールエラーメッセージ	170
表 A-6	ソフトウェア起動エラーメッセージ	171
表 A-7	エミュレートハードドライブの問題	172
表 A-8	変換されたファイルシステム間のアクセス可能性	175
表 A-9	Windows XP Professional および Windows 2000 の問題	195
表 A-10	Microsoft Windows アプリケーションのトラブルシューティング	210
表 B-1	KBTYPE 値	218
表 B-2	KBCP 値	219
表 B-3	言語サポート	224
表 B-4	\$LANG 変数設定	225

序文

『SunPCi III 3.0 ユーザーマニュアル』は、SunPCi ソフトウェアのセットアップおよび操作について説明します。このマニュアルは、UltraSPARC® システムに SunPCi III カードと SunPCi III 3.0 ソフトウェアをインストールした後に参照してください。

さらに、このマニュアルでは、SunPCi III カードで使用する次の Microsoft Windows オペレーティングシステムのインストール方法についても説明します。

- Microsoft Windows XP Professional
- Microsoft Windows 2000 Professional
- Microsoft Windows 2000 Server Edition
- Microsoft Windows NT 4.0 Workstation
- Microsoft Windows NT 4.0 Server
- Microsoft Windows NT 4.0 Terminal Server
- Microsoft Windows 98 Second Edition

このマニュアルに記載されている情報を有効に使用するため、まず、SunPCi III カードおよび SunPCi III 3.0 ソフトウェアパッケージを UltraSPARC システムにインストールします。カードと SunPCi III 3.0 ソフトウェアのインストールの詳細については、『SunPCi III クイックスタートインストールマニュアル』を参照してください。

このマニュアルの対象読者

このマニュアルは、SunPCi III ソフトウェアを使用するすべてのユーザーを対象としています。Microsoft Windows オペレーティングシステムとの SunPCi III ソフトウェアの使用については、このマニュアルを参照してください。

このマニュアルの説明は、一般ユーザーが理解できるように書かれています。ただし、Solaris(TM) オペレーティング環境、DOS オペレーティングシステム、および目的のバージョンの Microsoft Windows ソフトウェアに関する基本的な知識は必要です。

注 - カードで使用する UltraSPARC システム上への Microsoft Windows のインストールは、PC へのインストールとは異なります。したがって、Microsoft Windows のインストールの手順をよく理解している場合でも、このマニュアルの手順に従ってください。

このマニュアルの構成

このマニュアルは、次の章と付録から構成されます。

第 1 章では、SunPCi III 製品とその特徴について説明します。

第 2 章では、SunPCi III パッケージに含まれる内容をリストし、SunPCi III ソフトウェアをインストールして実行するために必要なシステムの必要条件について説明します。

第 3 章では、システムにインストールされた複数の SunPCi III カードを構成して使用する方法について説明します。

第 4 章では、SunPCi III 製品でネットワークを構成して使用する方法について説明します。

第 5 章では、Windows XP Professional ソフトウェアを構成して使用する方法について説明します。

第 6 章では、Windows 2000 Professional と Windows 2000 Server ソフトウェアを構成して使用する方法について説明します。

第 7 章では、Microsoft Windows NT Workstation、Windows NT Server、および Microsoft Windows NT 4.0 Terminal Server ソフトウェアを構成して使用する方法について説明します。

第 8 章では、Windows 98 ソフトウェアを構成して使用する方法について説明します。

第 9 章では、サーバー製品のインストールと構成、および SunFSD の問題について説明します。

第 10 章では、周辺装置 (プリンタ、シリアルデバイス、オーディオデバイスなど) を SunPCi III カードに接続する方法について説明します。

第 11 章では、SunPCi III ソフトウェアのさまざまな使用方法について概要を説明します。またこの章には、sunpci コマンドと VNC についても説明します。

付録 A では、既知の問題について説明し、解決へのトラブルシューティングを行います。

付録 B では、インターナショナルキーボードを使用できるように SunPCi III を構成する方法について説明します。

付録 C では、SunPCi Web サイトとリソースにアクセスして、オンラインで使用する方法について説明します。

付録 D には、SunPCi III のパフォーマンスを向上させるヒントが記載されています。

UNIX コマンドの使用

このマニュアルには、システムのシャットダウンや起動、デバイスの構成など、基本的な UNIX® のコマンドや手順に関する情報は記載されていません。このような情報については、次を参照してください。

- 『Sun 周辺機器使用のための Solaris ハンドブック』
- オンライン AnswerBook2™ (Solaris オペレーティング環境について)
- システムに付属のその他のソフトウェアマニュアル

マニュアルの規則

このマニュアルの表記には、いくつかの規則があります。この項では、これらの表記規則とその意味について説明します。

Solaris コマンドウィンドウ

このマニュアルでは、さまざまな作業を実行する際に、コマンドウィンドウを開くようにと指示されることがあります。Solaris 共通デスクトップ環境 (CDE) では、これらのコマンドウィンドウは、コンソールまたは端末エミュレータと呼ばれます。OpenWindows™ 環境においては、Solaris コマンドツールウィンドウを使用することも、シェルツールウィンドウを使用することもできます。コマンドウィンドウは、UNIX コマンドを入力する、Solaris オペレーティングシステムの標準部分です。

表記規則

フォント	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、-画面上のコンピュータ出力	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>% You have mail.</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	<code>% su</code> <code>Password:</code>
『AaBbCc123』 AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語など	『ユーザーマニュアル』第6章を参照。これは、 クラスオプション と呼ばれます。これを実行するには、スーパーユーザーとしてログインする 必要があります 。
	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	ファイルを削除するには、 <code>rm</code> ファイル名 と入力します。

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	マシン名%
C シェル スーパーユーザー	マシン名#
Bourne シェルと Korn シェル	\$
Bourne シェルおよび Korn シェル スーパーユーザー	#

SunPCi III キーボードショートカット

SunPCi III ソフトウェアでは、SunPCi III ウィンドウ上部にあるメニューのさまざまな機能をキーボードショートカットで実行できます。SunPCi III コマンドで使用できるショートカットを表示するには、メニュー上で左マウスボタンを押し、ドロップダウンメニューを開きます。各コマンドの横に、対応するキーボードショートカットが表示されます。

CDE と OpenWindows 環境では、キーボードのショートカットは Meta キー (図 P-1) ともう 1 つのキーを組み合わせで使用します。Meta キーはキーボードのスペースバーの右側と左側にあります。ショートカットを使用するには、Meta キーを押しながらもう 1 つのキーを押します。たとえば、Meta-E キーの組み合わせは、Meta キーと E キーを同時に押すことを意味しています。



図 P-1 Sun キーボードの Meta キー

注 - この項での説明は、SunPCi III ソフトウェアのキーボードショートカットにのみ該当します。Microsoft Windows の各バージョンのキーボードショートカットについては、各オペレーティングシステムのマニュアルに説明されています。

SunPCi III ソフトウェアおよび Microsoft Windows を実行する際、コピー/貼り付け操作を可能にするため、Sun システムキーボードの Find、Undo、Copy、Paste、Cut キーが Microsoft Windows での該当アクションに割り当てられています。

カスタマーサポート

必要な情報がこのマニュアルに記載されていない場合は、SunPCi III の販売店またはサポートセンターにご連絡ください。米国以外にお住まいの場合は、Sun の販売元にご連絡ください。

関連マニュアル

ご使用の Microsoft Windows のバージョンの詳細とヘルプについては、関連する Microsoft Windows のマニュアルを参照するか、サービスプロバイダにお問い合わせください。

次の表には、SunPCi III 製品に関連する Sun のマニュアルを説明しています。

アプリケーション	タイトル	Part No.
SunPCi III ハードウェアとソフトウェアのインストール	『SunPCi III クイックスタートインストールマニュアル』	817-1931-10
SunPCi III 製品についての重要な最新情報と注意	『SunPCi III 3.0 プロダクトノート』	817-0359-10
オプションメモリのインストールに関する情報	『SunPCi III SODIMM インストールマニュアル』	817-0888-10

次の表は、SunPCi III 3.0.1 リリースの CD で、各カ国語版のマニュアルが Docs ディレクトリ内のどのディレクトリに収録されているかを示しています。マニュアルを表示する方法については、7 ページの『PDF ファイルマニュアルの表示』を参照してください。

ディレクトリ名	言語	ディレクトリ名	言語
C	英語	ja	日本語
de	ドイツ語	ko	韓国語
es	スペイン語	sv	スウェーデン語
fr	フランス語	zh	中国語簡体字
it	イタリア語	zh_TW_Big5	中国語繁体字

注 – 各カ国語のマニュアルは SunPCi III 3.0.1 から使用可能です。

Sun マニュアルへのオンラインアクセス

次の URL の Web サイトでは、各カ国語版を含む数多くの Sun のマニュアルの表示、印刷、購入が可能です。

<http://www.sun.com/documentation>

SunPCi III 製品に関するさまざまなオンラインリソースやマニュアルにアクセスすることができます。SunPCi III のオンラインリソースのリストについては、付録 C を参照してください。

ご意見・ご要望の送付先

Sun では、マニュアルをより使いやすくするため、皆様のご意見やご要望を受け付けています。下記のアドレスまで電子メールにてお送りください。

docfeedback@sun.com

電子メールの件名に、マニュアルの Part No. (817-1940-10) をお書き添えください。

第1章

SunPCi III 3.0 ハードウェアおよびソフトウェアの紹介

SunPCi III 3.0 ハードウェアおよびソフトウェアは、Solaris オペレーティング環境を実行する PCI ベースの UltraSPARC システム上にパーソナルコンピュータ (PC) 環境を形成し、2 つの環境を統合します。PC は、Solaris デスクトップの共通デスクトップ環境 (CDE) の X ウィンドウ、または SunPCi III カードに接続されている別のモニタから操作できます。SunPCi III 3.0 製品では、最大 40 ギガバイトのエミュレートディスクを作成できます。

この章では、次の項目について説明します。

- 『サポートされている Microsoft Windows オペレーティングシステム』 - 1 ページ
- 『SunPCi III 3.0 の機能』 - 2 ページ
- 『サポートされている Citrix MetaFrame ソフトウェア』 - 5 ページ
- 『SunPCi III ソフトウェアのヘルプの表示』 - 6 ページ
- 『Microsoft Windows ソフトウェアヘルプの表示』 - 7 ページ

サポートされている Microsoft Windows オペレーティングシステム

SunPCi III 3.0 製品では、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムと Service Pack がサポートされています。

- Microsoft Windows XP Professional (Windows XP Professional) Service Pack 1
- Microsoft Windows 2000 Professional (Windows 2000 Professional) Service Pack 3
- Microsoft Windows 2000 Server Edition (Windows 2000 Server) Service Pack 3

- Microsoft Windows NT 4.0 Workstation (Windows NT4 WS) Service Pack 6a
- Microsoft Windows NT 4.0 Server (Windows NT4 Server) Service Pack 6
- Microsoft Windows NT 4.0 Terminal Server (Windows NT4 TS) Service Pack 6
- Microsoft Windows 98 Second Edition (Windows 98)

注 – SunPCi III 3.0 は Microsoft Windows 95、オリジナル版の Windows 98、および Microsoft Windows ME をサポートしていません。

SunPCi III 3.0 の機能

この項では、Solaris デスクトップで使用する SunPCi III 3.0 製品の機能を説明します。

- **Solaris デスクトップ上での PC - システムにインストールされた各 SunPCi III カードで、その PC アプリケーションを Solaris デスクトップのウィンドウで使用できます。**
- **Microsoft Windows オペレーティングシステムの自動インストール** - 「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスにより、さらに簡単に Windows オペレーティングシステムを選択、インストールすることができます。エミュレートドライブの作成では、Windows NT、Windows 2000、および Windows XP Professional オペレーティングシステムの NT ファイルシステム (NTFS) もサポートしています。
- **エミュレートハードディスクの拡張** - 「既存のエミュレートドライブの拡張」ダイアログボックスにより、ハードディスクのサイズを拡張し、容量を大きくすることができます。
- **Intel ドライバの自動更新** - リリース 3.0 から、SunPCi および Solaris ドライバの新しいバージョンがインストールされた後に、SunPCi ソフトウェアで使用される Intel ドライバが自動的に更新されるようになりました。3.0 以降のリリースがインストールされるまで、更新が表示されることはありません。これは Windows 98 には該当しません。
- **Microsoft Windows アプリケーション対応の高解像度 VGA ディスプレイ** - SunPCi III ソフトウェアには、2 つの Microsoft Windows super-VGA ディスプレイドライバが含まれます。1 つは画面上の X ウィンドウで Microsoft Windows デスクトップを表示するためのドライバで、もう 1 つは外部 VGA モニタ用です。どちらのドライバをインストールするか選択することができます。

- **使い慣れた PC 周辺装置** - SunPCi III 製品は、Microsoft マウスと IBM PC キーボードのエミュレーション、さらにプリンタやモデムなど外部周辺装置へのアクセスを提供します。SunPCi III カードおよびオプションのシリアル/パラレルポート用背面板 (付属)、オプションの USB/Firewire カードおよび背面板 (付属) には、PC 周辺装置に接続するための物理コネクタがあります。追加されるコネクタには、USB コネクタおよび 1394a Firewire コネクタが含まれています。
- **LED インジケータ** - メインの背面板には LED インジケータが付属するようになり、これがシステムの状態を表示します。
- **ネットワークサービス、ファイル、プリンタへのアクセス** - SunPCi III 製品を使用すると、Ethernet ネットワークに接続することができます。また、物理または仮想ネットワーク接続を使用して、ネットワーク上の Solaris ファイルやプリンタにアクセスすることもできます。
- **複数の SunPCi III カードのサポート** - 複数のカードをインストールし、Sun UltraSPARC システムからワークステーションまたはサーバー PC アプリケーションに同時にアクセスすることができます。
- **大容量ディスクのサポート** - SunPCi III 3.0 は、最大 40 ギガバイトのエミュレートディスクをサポートします。
- **Boot@Boot のサポート** - Boot@Boot では、SunPCi カードがインストールされている Solaris サーバーを起動するとき、自動的に SunPCi III 3.0 ソフトウェアを起動するように構成することができます。

SunPCi III ソフトウェアパッケージには、Caldera OpenDOS 7.01 オペレーティングシステムが含まれます。

注 - Microsoft Windows オペレーティングシステムソフトウェアや PC アプリケーションに関しては、別に購入する必要があります。

PC ユーザーに対する利点

SunPCi III ハードウェアおよびソフトウェアは、PC を通常利用しているユーザーに対し次のような利点をもたらします。

- ローカルの PC ハードドライブのように機能する、エミュレートハードドライブ
- PC ハードドライブのサイズを大きくできる、拡張可能なハードドライブ
- PC 上のネットワークドライブに類似した拡張ドライブ

- IBM PC と PC キーボードのエミュレーション
- SunPCi オプションのシリアル/パラレルポート用および USB/Firewire 用背面板に接続した、プリンタ、スキャナ、デジタルカメラなどのシリアル、パラレル、Firewire 1394a、USB 2.0 周辺装置へのアクセス
- 256 MB の SODIMM (1 スロットでの標準) および追加メモリ用の第 2 スロット(合計で最大 2 GB までの増設が可能)
- ファイルやプリントサーバーなど、PC ベースサーバー、ワークステーション、ネットワークへのアクセス
- オプションでの外部 VGA モニタの使用
- 個別の Ethernet 接続を使用した物理 Ethernet、または UltraSPARC システムのネットワーク機能を使用した仮想 Ethernet (仮想ネットワークは、複数の SunPCi カード環境では使用できません)
- ステレオスピーカーまたはヘッドフォン出力ジャックでの PC オーディオ、およびモノラルのマイクロフォン入力ジャック

Solaris ユーザーに対する利点

SunPCi III ハードウェアおよびソフトウェアは、UltraSPARC システムを通常使用しているユーザーに対し次のような利点をもたらします。

- 数多くの PC アプリケーションへの安定したアクセス
- super-VGA グラフィックを 16 ビットおよび 24 ビットカラーで表示する機能
- プリンタやファイルなど、ネットワークリソースを PC と Solaris 環境間で共有できる機能
- Microsoft Windows と OpenWindows/CDE アプリケーション間でのテキストのコピーおよび貼り付け機能 (この機能は Microsoft Windows サーバー製品では使用できません)
- Novell NetWare ファイルやプリントサーバーなど、PC ベースのネットワークへのアクセス (カードが複数インストールされている場合、物理ネットワークのみがサポートされています。仮想ネットワークはサポートされていません)

サポートされている Citrix MetaFrame ソフトウェア

Citrix MetaFrame ソフトウェアを使用すると、Solaris クライアントは、リモートホストで Windows 2000 Server または Windows NT4 TS オペレーティングシステムを実行している SunPCi III 3.0 ソフトウェアを表示し、使用することができます。Citrix サーバーソフトウェアは、SunPCi III カードに接続する Windows 2000 Server または Windows NT4 TS オペレーティングシステムソフトウェアがインストールされているエミュレートドライブにインストールする必要があります。

サーバーで Virtual Network Computing (VNC) の使用を構成している場合は、サーバーの起動時に SunPCi III ソフトウェアを起動することができます。この構成を使用すると、クライアント側で SunPCi III ソフトウェアを起動する必要はなくなります。

SunPCi III 3.0 ハードウェアおよびソフトウェアは、次の Citrix MetaFrame 製品をサポートしています。

- Citrix MetaFrame 1.8 for Microsoft Windows 2000 Servers
- Citrix MetaFrame 1.8 for Microsoft Windows NT 4.0 Servers
- Citrix MetaFrame XP for Microsoft Windows

Citrix MetaFrame ソフトウェアの購入と使用方法については、次の URL を参照してください。

<http://www.citrix.com>

SunPCi III ソフトウェアのヘルプの表示

SunPCi III コマンドに関するヘルプは、オンラインで Solaris マニュアルページから、および SunPCi III 3.0 製品 CD の PDF ファイルのマニュアルから入手することができます。

▼ Solaris マニュアルページの表示方法

マニュアルページを利用して、Solaris オペレーティングシステムや Solaris ソフトウェアに関連付けられたコマンドに関する情報を得ることができます。Solaris オンラインマニュアルページを表示するには、次の手順に従います。

1. `MANPATH` 変数を次のように設定します。

```
$MANPATH:/opt/SUNWspci3/man
```

2. `man` と入力し、続いてヘルプを表示するコマンド名を入力します。

たとえば、`sunpci` コマンドに関するヘルプを表示するには、次のようにコマンドを入力します。

```
% man sunpci
```

「ページの再フォーマット中。お待ちください。」というメッセージが表示された後に、端末エミュレータにマニュアルページの 1 項目が表示されます。マニュアルページをスクロールするには、任意のキーを押します。マニュアルページを終了するには、`Ctrl-C` キーを押します。

SunPCi III `man` ページディレクトリを `MANPATH` 環境変数に追加する方法については、Solaris のマニュアルを参照してください。

Microsoft Windows ソフトウェアヘルプの表示

Microsoft Windows オペレーティングシステムで作業中に Microsoft Windows 製品に関するヘルプを表示するには、次のいずれかの操作を実行します。

- F1 キーを押す。
- [スタート] ボタンをクリックし、[ヘルプ] を選択する。

オペレーティングシステムの対応するヘルプファイルが表示されます。

注 – Microsoft Windows ヘルプには SunPCi III アプリケーションに関するヘルプは含まれていません。SunPCi III アプリケーションソフトウェアのヘルプに関しては、6 ページの『Solaris マニュアルページの表示方法』で説明した Solaris マニュアルページを参照してください。

Microsoft Windows アプリケーションソフトウェアのヘルプに関しては、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

PDF ファイルマニュアルの表示

英語バージョンのマニュアルは PDF (Adobe Acrobat) 形式で SunPCi III 3.0 CD の Docs ディレクトリにあります。CD には次のマニュアルが含まれています。

- 『SunPCi III 3.0 ユーザーマニュアル』 - SunPCi III ソフトウェアを構成して SunPCi III カードを使用する方法、SunPCi カードに Microsoft Windows ソフトウェアをインストールする方法、および SunPCi の問題に関するトラブルシューティングの方法の説明
- 『SunPCi III クイックスタートインストールマニュアル』 - SunPCi III カードおよび SunPCi III ソフトウェアのインストール方法の説明
- 『SunPCi III 3.0 プロダクトノート』 - SunPCi III 製品の最新情報に関する説明

PDF ファイルマニュアルを表示するには、次の手順に従います。

1. SunPCi III 3.0 CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
「CDE ファイルマネージャ」ウィンドウが表示されます。
2. 「ファイルマネージャ」ウィンドウで、目的の言語の PDF ファイルが保存されている SunPCi III 3.0 CD の Docs サブディレクトリをダブルクリックします。
3. 開く Adobe Acrobat PDF ファイルをダブルクリックします。
数秒後に Adobe Acrobat 初期画面が表示され、ダブルクリックしたファイルを Adobe Acrobat が表示します。

注 – 必要な場合は、Adobe Acrobat Reader は次の Adobe Web サイトから無料でダウンロードできます。

<http://www.adobe.com/products/acrobat/alternate.html>

Microsoft Windows ソフトウェアの削除

エミュレートドライブから Microsoft Windows ソフトウェアを削除するには、Microsoft Windows マニュアルを参照してください。

第2章

はじめに

この章の説明は、UltraSPARC システムへの SunPCi III カードのインストール、および SunPCi III 3.0 ソフトウェアパッケージのインストールが終了していることを前提にしています。まだインストールしていない場合は、『SunPCi III クイックスタートインストールマニュアル』を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- 『システム必要条件』 - 10 ページ
- 『複数の SunPCi III カードの構成』 - 11 ページ
- 『SunPCi III ソフトウェアの起動と終了』 - 11 ページ
- 『エミュレートドライブおよび SunPCi III ソフトウェア』 - 13 ページ
- 『エミュレートハードドライブの作成』 - 14 ページ
- 『既存のエミュレートハードドライブの拡張』 - 20 ページ
- 『Microsoft Windows Service Pack』 - 22 ページ

この章では、次の作業を完了する方法について説明します。

- 『SunPCi III ソフトウェアの起動方法』 - 11 ページ
- 『SunPCi III ソフトウェアの終了方法』 - 12 ページ
- 『新規エミュレートドライブの作成方法』 - 15 ページ
- 『既存のエミュレートドライブを C: または D: ドライブとして接続する方法』 - 19 ページ

システム必要条件

SunPCi III 3.0 ソフトウェアをインストールして使用するには、次の環境が必要です。

- 1 枚以上の SunPCi III カードがインストールされている PCI ベースの UltraSPARC コンピュータ。サポートされているシステムの完全なリストについては、『SunPCi III クイックスタートインストールマニュアル』または『SunPCi III 3.0 プロダクトノート』を参照してください。
- Solaris 7、Solaris 8 または Solaris 9 オペレーティング環境。
- Common Desktop Environment (CDE) X ウィンドウマネージャ。
- ローカル (使用しているシステムに接続) またはリモート (ネットワーク上の別のコンピュータに接続) の CD-ROM ドライブ。

注 - SunPCi III ソフトウェアのインストールには Sun CD-ROM ドライブを使用する必要があります。SunPCi III のインストール後は、他の製品やアプリケーション用にサードパーティ製の CD-ROM を使用することができます。

- ローカルまたはリモート (ローカルを推奨) のハードディスク。SunPCi III パッケージ用に最低 60 MB と、各オペレーティングシステム用に 4096 MB の空き容量が必要です。
- SunPCi III カードには、256 MB のオンボード RAM が搭載されています。SunPCi III システムでサポートされる Microsoft Windows オペレーティングシステムのいずれかを使用するには、SunPCi III カードに 256 MB の RAM がインストールされている必要があります。

Windows NT4 Server または Windows NT4 TS に必要なメモリは、接続するユーザーの人数とタイプにより異なります。詳細については、SunPCi Web サイトの次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/desktop/products/sunpci>

複数の SunPCi III カードの構成

UltraSPARC サーバーまたはワークステーションに複数の SunPCi III カードをインストールすることができます。複数のカードを構成するには、次の手順に従ってください。

1. 以前のバージョン (バージョン 1.x または 2.x) の SunPCi カードをすべて削除します。
2. 以前のバージョンの SunPCi ソフトウェアをすべて削除します。
3. 使用する SunPCi III カードをすべてインストールします。
4. システムに SunPCi III 3.0 ソフトウェアをインストールします。
5. 1 枚のカード、およびそのエミュレートドライブソフトウェアを完全に構成します。
6. 残りの SunPCi III カードを構成します。

手順の詳細については、『SunPCi III クイックスタートインストールマニュアル』を参照してください。

SunPCi III ソフトウェアの起動と終了

この項では、SunPCi ソフトウェアの起動と終了について説明します。

▼ SunPCi III ソフトウェアの起動方法

- SunPCi ソフトウェアを起動するには、端末エミュレータを開き、% プロンプトに次のコマンドを入力します。

```
% /opt/SUNWspci3/bin/sunpci
```

SunPCi III ソフトウェアを初めて起動すると、ソフトウェアにより ~/pc というディレクトリが作成され、このディレクトリに数個の SunPCi III ファイルがインストールされます。

その後 SunPCi の起動画面が表示され、SunPCi ウィンドウが開きます。

注 – sunpci コマンドの完全なパスを入力しないでソフトウェアを実行するには、.login ファイルの \$path ステートメントを変更します。SunPCi パスのカスタマイズ方法については、Solaris ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

▼ SunPCi III ソフトウェアの終了方法

SunPCi ソフトウェアを終了するには 2 段階の操作が必要です。まず Microsoft Windows をシャットダウンし、次に SunPCi ソフトウェアをシャットダウンします。



注意 – SunPCi ソフトウェアを終了する前に、必ず Microsoft Windows をシャットダウンしてください。そうしないと、ファイルやアプリケーションが破損する可能性があります。

SunPCi III ソフトウェアを正しく終了するには、次の 2 つの方法のどちらかを選択します。

▼ SunPCi III ソフトウェアのシャットダウン -- 方法 1

1. [スタート] ボタンをクリックし、[シャットダウン] を選択します。

「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

2. [シャットダウン] オプションをクリックします。
3. [OK] をクリックします。

Microsoft Windows がシャットダウンし、SunPCi の起動画面に「You may now exit or reset SunPCi.」というメッセージが表示された SunPCi ウィンドウの状態になります。

4. SunPCi の [ファイル] メニューから [終了] を選択します。

「SunPCi の終了」ダイアログボックスに、[終了]、[Windows をシャットダウンして SunPCi を終了]、および [キャンセル] の選択肢が表示されます。

5. [終了] をクリックします。

SunPCi がシャットダウンします。

注 – Windows XP Professional では、使用される用語は上の説明と異なりますが、手順はほぼ同様です。

▼ SunPCi III ソフトウェアのシャットダウン -- 方法 2

1. SunPCi の [ファイル] メニューから [終了] を選択します。

「SunPCi の終了」ダイアログボックスに、[終了]、[Windows をシャットダウンして SunPCi を終了]、および [キャンセル] の選択肢が表示されます。

2. [Windows をシャットダウンして SunPCi を終了] をクリックし、Microsoft Windows および SunPCi アプリケーションを終了します。

Microsoft Windows および SunPCi の両方が正しくシャットダウンします。



注意 – Microsoft Windows をシャットダウンするとき、[サスペンド] オプションは選択しないでください。SunPCi ソフトウェアは、サスペンドコマンドをサポートしていません。

エミュレートドライブおよび SunPCi III ソフトウェア

PC をエミュレートするために、SunPCi III ソフトウェアは Solaris ソフトウェア内でファイルを作成し、OpenDOS と Microsoft Windows がそのファイルを物理ハードドライブとして参照するよう構成します。このようなファイルを SunPCi III エミュレートハードドライブと呼びます。

SunPCi III ソフトウェアをインストールした後、デフォルトの C: ドライブを作成し、これをエミュレートドライブファイルに割り当てます。これにより、デフォルトですべての SunPCi III ウィンドウはこのドライブ C: から起動し、このドライブ上の起動ファイルを使用します。

注 – 異なるアプリケーションや構成を持つ複数の C: および D: ドライブファイルを作成し、必要に応じてドライブに割り当てることができます。一度に C: ドライブと D: ドライブをそれぞれ 1 つだけ有効にできます。また、1 つのファイルが同時に C: ドライブおよび D: ドライブとして機能することはできません。

エミュレートハードドライブの作成

SunPCi ソフトウェアを初めて起動すると、エミュレート C: ドライブの作成を求めるダイアログボックスが表示されます。[作成] をクリックすると、「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、次の処理を行うことができます。

- 自動インストールするオペレーティングシステムの選択
- エミュレートドライブのサイズの指定
- エミュレートドライブを C: または D: ドライブとして接続するか、またはそのどちらにも接続しないかの指定
- エミュレートドライブのディレクトリおよび名前の指定

このダイアログボックスで自動インストールするオペレーティングシステムを選択すると、Microsoft Windows のインストールを簡単に行うことができます。SunPCi ソフトウェアには、カスタマイズされたインストールファイルが必要です。これらのファイルの場所は、Windows オペレーティングシステムの種類によって異なります。「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスで自動インストールするオペレーティングシステムを指定すると、オペレーティングシステムに対応したセットアップファイル、起動ファイル、システムファイル、およびドライバが自動的に検索およびコピーされます。SunPCi が再起動すると、Windows セットアップが起動します。

追加のハードドライブを作成して、C: または D: ドライブとして使用することもできます。

エミュレートドライブは、SunPCi が Solaris 環境に作成する 1 つのファイルです。デフォルトでは、このファイルには c.<OSNAME> という名前が付けられ、ホームディレクトリの ~/pc サブディレクトリに保存されます。

エミュレートドライブは、Solaris 環境におけるファイルであるため、エミュレートドライブ (複数作成することも可) は、どの SunPCi III カードでも接続先にすることができます。各ドライブに異なる Windows オペレーティングシステムをインストールし、そのドライブに接続してそこから起動し、SunPCi III カード上のオペレーティングシステムを実行することができます。SunPCi III カードは、PC と同様に Microsoft Windows オペレーティングシステムを一度に 1 つだけ起動することができます。

SunPCi III カードを 1 枚だけインストールしている場合、標準インストールでは、エミュレートドライブにデフォルトのファイル名が使用されます。複数のカードがインストールされている場合は、24 ページの『SunPCi III ソフトウェアでの複数カードの構成』を参照してください。構成ファイル、ドライブ名、および関連カード名の管理を簡単にするため、名前を付ける際に規則を設けることをお勧めします。

DOS 固有の制限のため、最大 40 GB のエミュレートドライブを作成しても、FAT16 ファイルシステムを使用すると、最初の 2 GB 以外の部分には DOS からアクセスできません。どの Microsoft Windows オペレーティングシステムでも FAT16 のディスクが使用できますが、FAT16 形式で使用できるのは最大 2 GB までに限られます。Microsoft Windows オペレーティングシステムをインストールした後に、エミュレートハードドライブを再フォーマットして変換したり、パーティションの構成を変更したりして、2 GB を超える部分にアクセスすることができます。

参照 – NTFS を使用した Microsoft Windows オペレーティングシステムの自動インストールを選択した場合は、DOS の制限を受けることはありません。

注 – 3.0 より前のバージョンの SunPCi ソフトウェアで作成した C: ドライブファイルは、起動ドライブとして使用することはできません。ただし、そのファイルを D: ドライブとして接続することはできます。同様に、SunPCi III 3.0 ソフトウェアで作成した C: ドライブを前のバージョンの SunPCi ソフトウェアで使用することはできません。

▼ 新規エミュレートドライブの作成方法

1. SunPCi III ソフトウェアを起動します。

SunPCi III カードのエミュレートハードドライブを作成していない場合は、「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスが自動的に表示されます。手順 2 に進みます。

2. SunPCi ウィンドウの [オプション] メニューから、[新規エミュレートドライブの作成] を選択します。

「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスが表示されます。図 2-1 を参照してください。

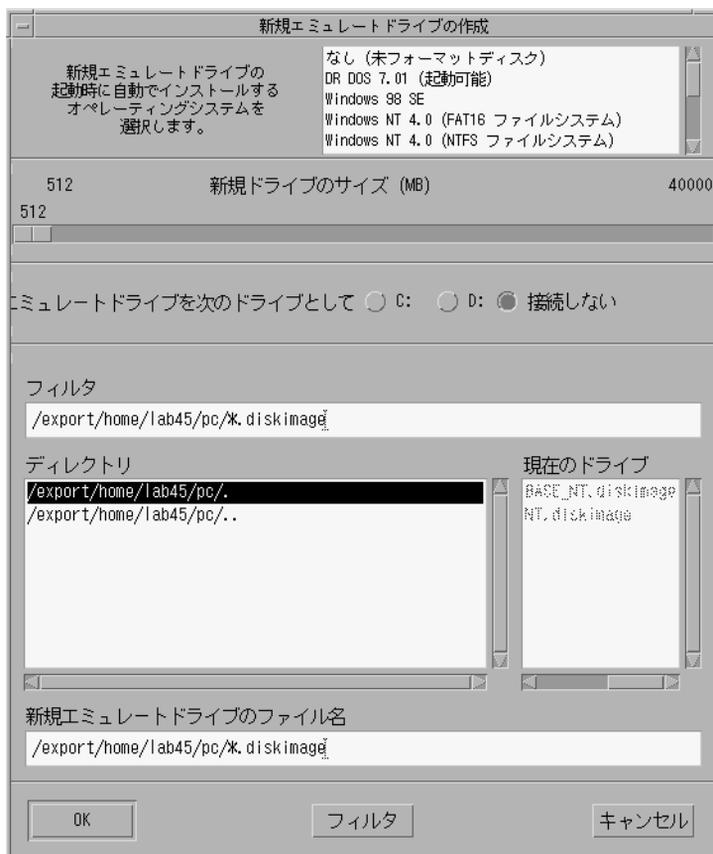


図 2-1 「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックス

3. ダイアログボックスの一番上の画面で、新しいドライブを起動するとき自動インストールするオペレーティングシステムを選択します。

- 起動できないドライブ (D: ドライブ) を作成する場合は、[なし] (未フォーマットディスク) を選択します。ドライブを使用するためには、まずドライブをフォーマットする必要があります。フォーマットについては、Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。
- 後で Microsoft Windows オペレーティングシステムのカスタムインストールを予定している場合は、DR DOS 7.01 (起動可能) を選択します。オペレーティングシステムをインストールする手順は、このガイドの対応する章の説明に従ってください。
- リストボックスから自動インストールする Microsoft Windows オペレーティングシステムを 1 つ選択します。



注意 - 「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスで自動インストールするオペレーティングシステムを指定し、CD-ROM ドライブに適切な Microsoft Windows CD を挿入すると、オペレーティングシステムに対応したセットアップファイル、起動ファイル、システムファイル、およびドライバが自動的に検索およびコピーされます。SunPCi ソフトウェアの再起動の際に Windows セットアップが開始します。カスタムインストールスクリプトを使用しない場合は、カスタムインストールを実行しないでください。

ほとんどのオペレーティングシステムで、ディスクを FAT16 ファイルシステムと NTFS ファイルシステムのどちらで作成するか選択できます。NTFS ファイルシステムでフォーマットした C: ドライブで OpenDOS を起動することはできません。これは既知の制限です。詳細については、174 ページの『FAT16 ファイルシステムの制限の問題』を参照してください。

4. ダイアログボックスの 2 番目の画面でスライダをドラッグし、新規ドライブのサイズを MB 単位で設定します。

スライダは、推奨のデフォルトサイズに自動的に設定されています。スケールの左端は、選択したオペレーティングシステムに必要な最小のドライブサイズです。

注 - 最高の性能を得るには、Microsoft Windows アプリケーションの一部をローカルのドライブ C: または D: にインストールすることをお勧めします。

5. ダイアログボックスの 3 番目の画面で、新しいドライブを接続する方法を選択します。

ドライブを作成してもすぐに接続しない場合は、[接続しない] ボタンをクリックします。すぐに接続する場合は、C: または D: の横のラジオボタンをクリックします。

6. ダイアログボックスの一番下の画面で、新しいドライブで使用するパスとファイル名を入力します。

既存のファイルを参照するには、[フィルタ] フィールドとボタンを使用します。エミュレートドライブには新しい名前を指定する必要があります。

注 – 最高の性能を得るために、エミュレートドライブをワークステーションまたはサーバーのローカルハードディスクに作成することをお勧めします。Microsoft Windows のパフォーマンスを大幅に向上させるには、ローカルハードドライブ上に置くことをお勧めします。

7. [OK] をクリックします。

ディスクファイル作成の進行状況を示すウィンドウが表示されます。

8. オペレーティングシステムの自動インストールを選択した場合は、オペレーティングシステムのインストール CD を CD-ROM ドライブに挿入し、SunPCi ウィンドウの指示に従います。

注 – Meta-M キーを押すと、SunPCi ウィンドウにマウスを接続でき、さらに Meta-M キーをもう一度押すと他のウィンドウでマウスを使用することができます。

注 – システムに複数のカードをインストールする場合には、23 ページの『複数の SunPCi III カードの使用』を参照してください。インストールを続行する前に、複数カードの構成に関する項を読んで下さい。カードを 1 枚だけ構成する場合と複数構成する場合とでは、大きな違いがあります。

▼ 既存のエミュレートドライブを C: または D: ドライブとして接続する方法

注 – 使用するドライブがすでに接続されている場合は、この手順を省略してください。

エミュレートドライブを SunPCi カードに接続されていない C: または D: ドライブとして使用する場合は、ドライブを接続する必要があります。

既存のエミュレートドライブを接続するには、次の手順を実行します。

1. SunPCi III ソフトウェアを起動します。
2. [オプション] メニューから [既存のエミュレートドライブの接続] を選択します。
「SunPCi で既存のエミュレートドライブを接続」ダイアログボックスが表示されます。
3. C: または D: の横のラジオボタンをクリックして、ドライブの接続方法を指定します。
4. 15 ページの『新規エミュレートドライブの作成方法』で作成したエミュレートドライブファイルのパスとファイル名を入力します。
ドライブファイルの名前を忘れた場合は、ドライブファイルのパスを入力し、[フィルタ] をクリックします。ファイルのリストが表示されます。必要なドライブファイルを選択します。
5. [OK] をクリックします。
ドライブは C: または D: として接続されました。
ダイアログボックスが開き、「In order for the drive mapping to take place, SunPCi must be rebooted. Reboot now?」というメッセージが表示されます。
6. Microsoft Windows を実行している場合は、[スタート] メニューを使用してシャットダウンします。
7. [ファイル] メニューから [PC のリセット] を選択します。
「SunPCi の再起動」ダイアログボックスが表示されます。
8. [OK] をクリックします。
SunPCi ソフトウェアが再起動して、新しく接続したドライブを使用します。

既存のエミュレートハードドライブの拡張

ディスクの拡張を実行すると、Microsoft Windows のハードドライブのディスクスペースを大きくすることができます。

新しく追加されたこのエミュレートハードドライブのスペースを使用するには、新規パーティションを作成して新しいファイルシステムにフォーマットするか、既存のパーティションを新しく作成されたディスクスペースまで拡張するか、いずれかを実行する必要があります。これらの 2 つのいずれかを完了すると、Microsoft Windows は新しく追加されたディスクスペースを認識します。

新しいディスクスペースをフォーマットするには、適切な Windows ユーティリティを使用するか、この項目の最後に記載されたサードパーティ製のソフトウェアを使用します。

ハードドライブのスペースを拡張するには、SunPCi ウィンドウで次の手順に従います。

1. SunPCi III ソフトウェアを起動します。
2. [オプション] メニューから [既存のエミュレートドライブの拡張] を選択します。
「既存のエミュレートドライブの拡張」ダイアログボックスが表示されます。

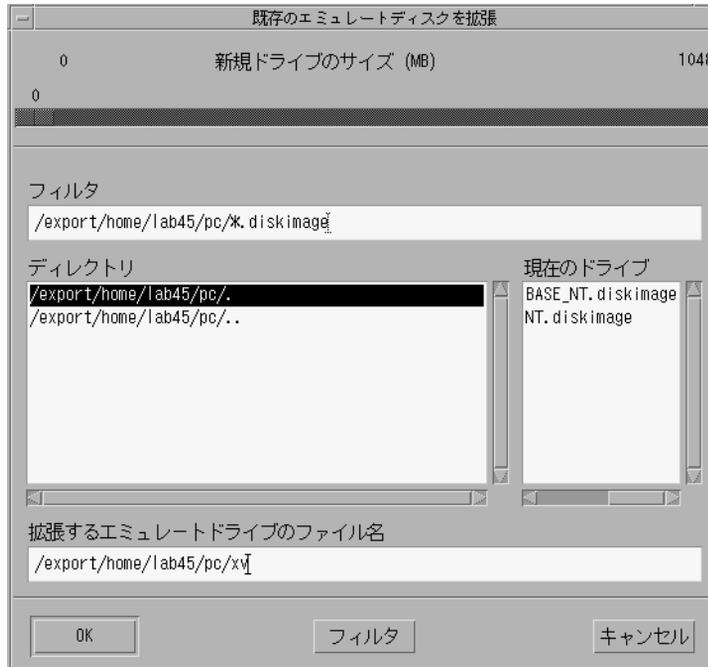


図 2-2 「既存のエミュレートドライブの拡張」 ダイアログボックス

3. [現在のドライブ] グループボックスから、拡張するハードドライブを選択します。
4. [新しいドライブサイズ (MB)] 水平スライダを、ハードドライブの新しいサイズまでドラッグします。

注 - ここで選択するサイズはエミュレートハードドライブ全体のサイズで、元のドライブのスペースと新しく追加するスペースが含まれています。追加するハードディスクのサイズだけではありません。

5. [OK] をクリックします。
新規のエミュレートハードドライブのパーティションの状態と、拡張したハードドライブの容量によって、ダイアログボックスが表示される場合があります。
6. [OK] をクリックします。
7. Microsoft Windows を再起動します。



注意 – 作成して拡張したハードドライブのスペースは、次の操作を完了するまでは使用することができません。

ハードドライブの拡張後は、次のオプションのうち 1 つを実行して、手順を完了する必要があります。

- DOS の fdisk ユーティリティを使用して拡張したスペースに新しいパーティションを作成し、Microsoft Windows エクスプローラでフォーマットして新しいドライブを作成する。
- PartitionMagic などのサードパーティ製のソフトウェアを使用して、現在のディスクドライブを拡張する。

Microsoft Windows Service Pack

Microsoft Windows オペレーティングシステムソフトウェアをインストールした後、Microsoft Service Pack のインストールが必要になります。

表 2-1には、サポートされる Windows オペレーティングシステム別に SunPCi III 3.0 ソフトウェアに必要な Service Pack がリストされています。指定バージョン以降の Service Pack をインストールしてください。

表 2-1 SunPCi III 3.0 ソフトウェアに必要な Microsoft Service Pack

Windows オペレーティングシステム	必要な Service Pack
Windows XP Professional	Service Pack 1
Windows 2000 Professional	Service Pack 3
Windows 2000 Server	Service Pack 3
Windows NT4 WS	Service Pack 6a
Windows NT4 Server	Service Pack 6
Windows NT4 TS	Service Pack 6
Windows 98*	必要なし

* SunPCi III がサポートするのは Microsoft Windows 98 Second Edition のみで、本書ではこのバージョンを Windows 98 と記述します。

Service Pack を CD または Microsoft の Web サイトからダウンロードしてインストールする方法については、Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。

第3章

複数の SunPCi III カードの使用

この章は、SunPCi III 3.0 ソフトウェアパッケージおよび同時に使用するカードすべてをインストールしており、第 2 章の手順に従って 1 枚目のカードの構成が終了していることを前提にしています。この章では、追加の SunPCi III カードの構成方法を説明します。

SunPCi III カードで使用する Microsoft Windows オペレーティングシステムは、サポートされているものならどれでもインストールすることができます。オペレーティングシステムのリストについては、1 ページの『サポートされている Microsoft Windows オペレーティングシステム』を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- 『構成に入る前に』 - 24 ページ
- 『SunPCi III ソフトウェアでの複数カードの構成』 - 24 ページ
- 『カードとエミュレートドライブの使用』 - 27 ページ
- 『特定のディスクイメージファイルの起動』 - 30 ページ
- 『イメージとカードの再バインド』 - 32 ページ
- 『複数のカードの動作』 - 33 ページ

この章では、次の作業を完了する方法について説明します。

- 『-n オプションを使用した .ini ファイルの作成方法』 - 26 ページ
- 『カード名の識別方法』 - 28 ページ
- 『特定の .ini ファイルの起動方法』 - 29 ページ
- 『特定のカードの起動方法』 - 30 ページ
- 『特定のイメージと特定のカードの起動方法』 - 31 ページ
- 『各カードウィンドウのタイトルバーの指定方法』 - 31 ページ
- 『SunPCi III カード構成の更新方法』 - 32 ページ

構成に入る前に



注意 – SunPCi III カードを以前のバージョンの SunPCi カードと同時に使用することはできません。同じバージョンの SunPCi カードのみをワークステーションまたはサーバーにインストールすることが可能です。

既存のシステムにカードを追加する前に、以前のバージョン (1.x および 2.x) の SunPCi ソフトウェアが削除されていることを確認します。ソフトウェアの構成を最終決定してソフトウェアを起動する前に、構成ファイルとカードを明確に特定する必要があります。これは、カードをインストールするときに行う必要があります。

詳細な SunPCi III 複数カードのサーバーの構成

SunPCi III メモリ、CPU、およびベンチマークの情報に関するさらに詳しい SunPCi III サーバーサポートは、SunPCi Web サイトの次の URL にあるホワイトペーパーを参照してください。

<http://www.sun.com/desktop/products/sunpci>

SunPCi III ソフトウェアでの複数カードの構成

初めて SunPCi III ソフトウェアを起動すると、デフォルトのファイル名 `.ini` 構成ファイルが `~/pc/SunPC.ini` として作成されます。希望のエミュレートドライブ C: または D: を起動するには、この `.ini` ファイルを `sunpci` コマンドラインから指定します。

複数のカードがあるシステムでは、1 つのエミュレートドライブは一度に 1 つのカードにのみ関連付けることができます。必要に応じて特定のカードを指定することもできますが、デフォルトでは、ドライブは次の使用可能なカードに接続されます。

デフォルトの .ini 構成ファイル

エミュレートドライブ C: または D: を起動するには、SunPC.ini という名前のデフォルトの .ini ファイルにそのドライブのファイル名が書き込まれている必要があります。このドライブ名は、SunPCi III ソフトウェアを使用してドライブを作成し、接続する際に自動的に挿入されます。

また SunPC.ini 構成ファイルには、PC コンポーネント名やその他の情報も挿入されます。PC コンポーネントには、ドライブイメージファイル名、CD-ROM デバイスファイル名、フロッピーディスクデバイスファイル名、およびプリンタやその他の周辺装置など、その他のデバイスが含まれます。

次に示すのは、カードが 1 枚インストールされたシステムに作成された、デフォルトの SunPC.ini ファイルの内容例です。

```
[Drives]
A drive=/dev/rdiskette
C drive=/home/user/pc/C.diskimage
CD=/vol/dev/aliases/cdrom0
D drive=/net/host/export/SunPCi_III/D.diskimage
```

複数のカードを使用している際の .ini ファイルの命名

同じシステムに複数の SunPCi カードをインストールする場合には、それぞれのカードに対して .ini ファイルと、エミュレートドライブ C: または D: のドライブイメージが必要です。ただし、特定のカードが必ずしも特定の .ini ファイル名に関連付けられるわけではありません。

.ini ファイルおよびそのファイルと関連付けられている C: および D: ドライブイメージがはっきりと分かるようにファイルやディスクイメージに名前を付けると便利です。1つの .ini ファイルには、2つまでドライブイメージを含めることができます。

名前を付ける際のヒントとしては、.ini ファイルとそのディスクイメージに、ディスクイメージにインストールされた Microsoft Windows オペレーティングシステムなど、判別可能な特徴を使用して名前を付けることが挙げられます。1 つの .ini ファイルには、2 つまでドライブイメージを含めることができます。カード 1 枚に対して一度に実行できるのは、1 つの C: および 1 つの D: ドライブのみです。

表 3-1 複数カード構成におけるファイル名の例

.ini ファイル名	それぞれの .ini ファイル内のディスクイメージ名
SunPC.ini (デフォルト)	C.ディスクイメージ D.ディスクイメージ
win2k.ini	C.win2k.ディスクイメージ
ntts4.ini	C.ntts4.ディスクイメージ

特に指定しない限り、sunpci コマンドと -n オプションを使用した場合、デフォルトの SunPCi III 3.0 グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) の動作では、win2k などのような、指定された .ini ファイル名の最初の部分が、表 3-1 に示されているように、ディスクイメージファイルに組み込まれます。次の手順では、この動作について説明します。

▼ -n オプションを使用した .ini ファイルの作成方法

次の手順は、システムにカードが追加インストールされていることを前提としています。新しい .ini ファイルを作成するには、次の手順に従ってください。

1. Solaris プロンプトに次のコマンドを入力します。

```
% /opt/SUNWspci3/bin/sunpci -n ファイル名.ini
```

デフォルトでは、SunPCi -n オプションを使用して .ini ファイルを作成すると、新しいエミュレートドライブには .ini ファイルと同じ名前がデフォルトで割り当てられ、c.ファイル名.diskimage の形式で命名されます。GUI を使用して、その名前を編集することができます。

「既存のエミュレートドライブを接続」ダイアログボックスが表示されます。例内の変数「ファイル名」は、手順 1 で入力したファイル名に置き換えられます。

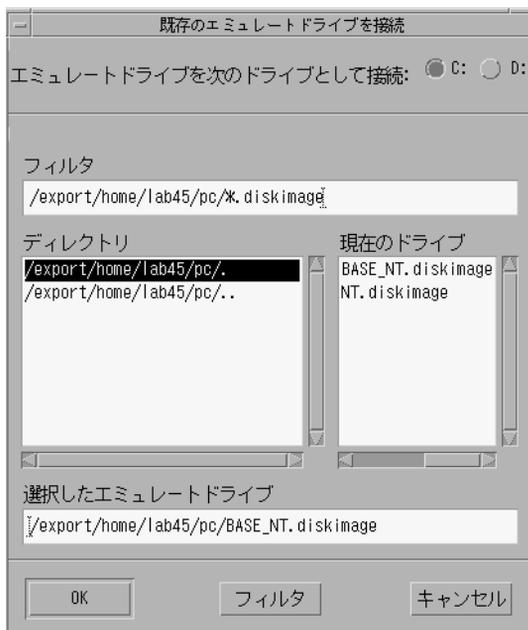


図 3-1 「既存のエミュレートドライブの接続」ダイアログボックス

2. [OK] をクリックして、デフォルトのディスクイメージ名を受け入れます。

カードとエミュレートドライブの使用

エミュレートドライブは SunPCi III カード上で実行する必要がありますが、SunPCi III エミュレートドライブは特定のカードに限定して実行する必要はありません。デフォルトでは、特定の .ini ファイルとその関連ドライブが使用可能なカードで起動され、どのカードが使用されるかはわかりません。ただし、ドライブと特定のカードを一緒に起動することはできます。一緒に起動するには、システムにインストールされたカードを特定する必要があります。

▼ カード名の識別方法

- インストール済みのカード名を識別するには、次のコマンドを入力します。

```
% /opt/SUNWspci3/bin/sunpci -l
```

Card1 などのカード名、/dev ディレクトリにあるカードのデバイスファイル名、カードの種類、カードの説明、カードの ID または Ethernet (MAC) アドレスが表示されます。

次は、2 枚のカードがインストールされたシステムからの出力例です。

```
Name = Card1
Device = /dev/sunpci3drv0
Type = SunPCi III
Description = SunPCi III card
ID = 08:00:20:F9:xx:xx

Name = Card2
Device = /dev/sunpci3drv3
Type = SunPCi III
Description = SunPCi III card
ID = 08:00:20:E7:xx:xx
```

注 - カードのいずれかが実行中の場合には、ID メッセージではなく「(Card In Use)」メッセージが表示されることがあります。

▼ 特定の .ini ファイルの起動方法

デフォルトでは、オプションなしで `sunpci` コマンドを使用すると、SunPCi ソフトウェアは `SunPC.ini` ファイルを使用します。複数カード構成で、別のエミュレートドライブを起動するには、`-p` オプションと共に `sunpci` コマンドを使用します。

- `-p` オプションで特定のファイルと共に SunPCi ソフトウェアを起動するには、次のコマンドを入力します。

```
% /opt/SUNWspci3/bin/sunpci -p ファイル名.ini
```

参照されたディスクイメージを使用して、SunPCi III ソフトウェアが起動します。

ドライブが作成されていないカードでエミュレートドライブを起動すると、次のような Ethernet (MAC) アドレスに関する警告ダイアログボックスが表示されます。

```
This emulated drive image was created on another SunPCi card. This
could cause problems if there was special hardware connected to
that card. It could also cause problems if your installed software
or configuration makes any assumptions about the MAC address.
```

```
Emulated Disk File /pathname/c.diskimage
was created on the card with the MAC address xx:yy:zz:zz:yy:xx
```

```
If you do not wish to see this message in the future, start sunpci
with the -N option.
```

アプリケーション登録やネットワーク構成セットアップに影響がでる場合、`-N` オプションを使用するか、またはディスクイメージに MAC アドレスを再割り当てして、特定のイメージとカードをバインドできます。

MAC アドレスを現在のディスクイメージにバインドするには、`-B sunpci` コマンドオプションを使用します。詳細については、128 ページの『`sunpci` コマンドとオプション』を参照してください。

▼ 特定のカードの起動方法

構成上の理由から、特定の C: ドライブで特定のカードを起動する必要がある場合があります。たとえば、ポートにプリンタが接続されたカードで実行する場合や、メモリを消費するアプリケーションをサポートするために特定のカードで実行する場合などです。

- 特定のカードで SunPCi III ソフトウェアを起動するには、次のコマンドを入力します。

```
% /opt/SUNWspci3/bin/sunpci -c カード名 -p ファイル名.ini
```

上記の**カード名**は、Card1 や Card2 のようなシステムから返されるカードの名前です。

特定のディスクイメージファイルの起動

別のディスクイメージ上で別の Microsoft Windows オペレーティングシステムと共に SunPCi ソフトウェアを使用する場合には、必要な数だけオペレーティングシステムの C: ドライブイメージファイルを作成することができます。オペレーティングシステムのインストールについては、このマニュアルの該当する章を参照してください。

別の Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行するには、使用しているオペレーティングシステムの [シャットダウン] を選択し、SunPCi III GUI を終了します。次に、sunpci コマンドラインと -p オプションを使用して必要なディスクイメージを起動します。

注 - ディスクイメージファイルを接続し、それを SunPCi GUI から実行すると、イメージを接続するカードの MAC アドレスが .ini ファイルのヘッダー情報内で上書きされます。Ethernet (MAC) アドレスに関する警告ダイアログボックスは表示されません。詳細については、29 ページの『特定の .ini ファイルの起動方法』を参照してください。

▼ 特定のイメージと特定のカードの起動方法

特定のイメージと特定のカードを起動すると、イメージとカードをリンクでき、特定のイメージを特定のカード上で実行できます。

注 - カード 1 枚で、一度に 1 つのオペレーティングシステムのみを実行することができます。

- `-p` および `-c` オプションを使用して、特定のファイルと特定のカードと共に SunPCi ソフトウェアを起動するには、次のコマンドを入力します。

```
% /opt/SUNWspci3/bin/sunpci -p ファイル名.ini -c カード名
```

参照されたディスクイメージおよびカードを使用して、SunPCi III ソフトウェアが起動します。

イメージが作成されていないカードでイメージを起動すると、次のような Ethernet (MAC) アドレスに関する警告ダイアログボックスが表示されます。29 ページの『特定の .ini ファイルの起動方法』を参照してください。

▼ 各カードウィンドウのタイトルバーの指定方法

システムで複数のカードを実行している場合、どの Solaris デスクトップウィンドウでどのオペレーティングシステムとカードが実行されているのかがわかると便利です。SunPCi III ウィンドウのタイトルバーにテキストを入力すると、各ウィンドウを判別することができます。

- `sunpci` コマンドと `-title` オプションを使用して SunPCi ウィンドウのタイトルバーにテキスト文字列を追加します。

たとえば、特定の .ini を Card2 と共に起動する `sunpci` コマンドにタイトルを指定するには、次のように入力します。

```
% sunpci -title "Win2k Terminal Server on" -c card2 -p  
~/pc/win2kts.ini
```

これで、SunPCi 端末エミュレータのタイトルバーに、「Win2k Terminal Server on Card2」というテキストが表示されます。`-title` オプションの使用の詳細については、128 ページの『`sunpci` コマンドとオプション』を参照してください。

▼ SunPCi III カード構成の更新方法

定期的に SunPCi III カードの追加、削除、移動、交換が必要となることがあります。この場合、それぞれの作業後に SunPCi III Solaris ドライバを更新するには、次の手順に従ってください。

1. `/etc/Master.ini` ファイルおよび `/etc/Master.bak` ファイルがあれば削除します。
2. スーパーユーザーとしてログインし、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWspci3/drivers/solaris/sunpcload
```

3. Boot@Boot サポートが中止されるため、必要に応じてこのサポートを再構成します。
`-a` および `-e` オプションと共に `sunpcidadm` コマンドを使用して、VNC およびカードを追加し、有効にします。
140 ページの『Boot@Boot サポートの構成と使用』を参照してください。
4. スーパーユーザーアカウントを終了し、通常通りソフトウェアを起動します。

イメージとカードの再バインド

`disk.imagefile` ファイルが作成されると、`disk.imagefile` が作成されたカードの MAC アドレスがそのファイルヘッダーに書き込まれ、カードが `disk.imagefile` にバインドされます。バインドは情報提供を目的とするのみで、別のカードで C: または D: ドライブを実行する障害にはなりません。`sunpci` コマンドの `-B` オプションは、`disk.imagefile` ヘッダーで現在のカードの MAC アドレスを書き換えるため、SunPCi III カードで動作しなくなります。

このスイッチはほとんど使用されません。C: ドライブにおいて、登録またはネットワーク上の理由から、インストールされたアプリケーションによって元のカードの MAC アドレスが使用された場合、これを再割り当てすると、ライセンスおよびネットワーク上の問題が生じることがあります。

ディスクイメージのバインドを構成する前に、`sunpci` と `sunpciflash` コマンドラインオプションの説明を読み、その内容をよく理解してください。詳細については、128 ページの『`sunpci` コマンドとオプション』を参照してください。

複数のカードの動作

次の項目では、同じシステムにインストールされた複数のカードを実行する場合の SunPCi III セッションの制限や機能について説明します。

複数のカードでのネットワーク

複数のカードがインストールされたシステムでは、仮想ネットワークは自動的に無効になります。複数カード構成では、物理ネットワークを使用してください。

複数カードでのフロッピーディスクドライブの使用

1 つのシステムで複数のカードが実行されている場合、ある SunPCi III セッションでフロッピーディスクドライブが使用中であれば、他のセッションでは使用できません。使用中ではない場合は、フロッピーディスクドライブは、それが使用可能になった後に起動された最初の SunPCi III セッションにロックされます。

複数カードでの CD-ROM ドライブの使用

1 つのシステムで複数のカードが実行されている場合、これらのカードはシステム CD-ROM ドライブを共有します。この場合ドライブに CD を挿入すると、すべての実行中の SunPCi セッションで自動実行が起動することがあります。これは頻繁に起こる状況ではありませんが、予期される動作です。

第4章

SunPCi III ハードウェアおよびソフトウェアによるネットワーク

この章は、UltraSPARC システムへの SunPCi III カードのインストール、および SunPCi III ソフトウェアパッケージのインストールが終了しているユーザーに、SunPCi III 3.0 製品で使用可能なネットワークオプションについて説明することを目的としています。

この章では、次の項目について説明します。

- 『SunPCi III ハードウェアおよびソフトウェアによるネットワーク』 - 35 ページ
- 『SunPCi III ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定』 - 37 ページ

この章では、次の作業を完了する方法について説明します。

- 『TCP/IP プロパティの設定方法』 - 37 ページ
 - 『物理 Ethernet ネットワークの設定方法』 - 38 ページ
 - 『仮想 Ethernet ネットワークの設定方法』 - 38 ページ
-

SunPCi III ハードウェアおよびソフトウェアによるネットワーク

各 SunPCi III カードをネットワークに接続するには、2つの方法があります。

- **物理 Ethernet** - SunPCi III カードの背面にある外部 Ethernet コネクタを使用し、別の物理 Ethernet 接続にカードを接続します。
- **仮想 Ethernet** - SunPCi III ソフトウェアの内部ネットワークドライバ (NDIS ドライバ) を使用し、システムの Ethernet 接続を介して接続します。

注 – システムに複数の SunPCi III カードがインストールされている場合には、仮想ネットワークは SunPCi III ソフトウェアによって無効にされます。

物理 Ethernet ネットワークは仮想 Ethernet ネットワークに比べて動作が速いですが、ネットワークに接続するために追加のポートを必要とします。したがって、Solaris システム用と SunPCi III カード用の 2 つの Ethernet 接続が必要となります。

物理 Ethernet ネットワークでは、Solaris システムと SunPCi III カードが TCP/IP を使用して通信するとき、別のホストに出力する必要がなくなります。物理 Ethernet ネットワークをセットアップすると、SunPCi III カードとワークステーションの両方がネットワークホストのリストに表示されます。

注 – SunPCi III ソフトウェアをインストールする際、Windows XP、Windows 2000、および Windows NT ではデフォルトで物理 Ethernet ネットワークが有効になりますが、Windows 98 では有効になりません。

仮想 Ethernet ネットワークでは、2 つめのネットワークポートは必要ありません。システムと SunPCi III カードが 1 つの Ethernet 接続を共有します。仮想ネットワークを使用する場合、ネットワーク接続をセットアップするまでは、SunPCi III カードとホスト Solaris システムとの間のネットワークパスを設定することはできません。複数のカードがインストールされている場合には、仮想 Ethernet ネットワークは常に無効になります。

ご使用の Microsoft Windows のバージョンに対応するネットワークドライバに関する説明は、対応するインストールの章を参照してください。

- Windows XP Professional ドライバのインストールに関しては、第 5 章を参照してください。
- Windows 2000 ドライバのインストールに関しては、第 6 章を参照してください。
- Windows NT ドライバのインストールに関しては、第 7 章を参照してください。
- Windows 98 ドライバのインストールに関しては、第 8 章を参照してください。



注意 – システムに SunPCi III ソフトウェアと SunPCi III カード 1 枚がインストールされている場合、物理ネットワークまたは仮想ネットワークのいずれかを使用できますが、両方を一度に使用することはできません。

注 - システムに複数のカードがインストールされている場合には、仮想ネットワークは自動的に無効になります。また、Microsoft Windows の構成すべてで TCP/IP ネットワークプロトコルを構成する必要があります。

SunPCi III ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定

SunPCi ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定には、TCP/IP プロパティの設定、物理または仮想 Ethernet ネットワークの設定、SunPCi III カードとUltraSPARC システム間のネットワーク接続設定が含まれます。

▼ TCP/IP プロパティの設定方法

TCP/IP を構成する前に、所属先のネットワーク管理者からいくつかの情報を取得する必要があります。

1. 設定を始める前に次の情報を入手してください。
 - SunPCi III コンピュータ名 (Microsoft Windows のインストール時に入力した名前)
 - IP アドレスの取得にダイナミックホスト構成プロトコル (DHCP) を使用していない場合には、次の情報も必要です。
 - SunPCi III カードの IP アドレス。

注 - SunPCi III カードの IP アドレスは、ワークステーションの IP アドレスと異なるものが必要です。

- 所属先のネットワークのサブネットマスク。
- ルーター/ゲートウェイの IP アドレス (使用している場合)。

注 - 仮想ネットワークを使用している場合には、UltraSPARC システムと SunPCi III カードの両方に DHCP を使用することはできません。

- 所属先のドメインネームサービス (DNS) サーバーのホスト名、ドメイン名、IP アドレス (使用している場合)。
2. TCP/IP を構成するには、Microsoft Windows の「コントロールパネル」の [ネットワーク] 機能を使用します。

上のリストの情報を、対応するフィールドに入力します。詳細については、Microsoft Windows に付属のマニュアルを参照してください。

注 – Microsoft Windows では、さまざまな方法でハードウェアをインストールすることができます。ハードウェアをインストールした経験がある場合でも、この項で説明された手順に従ってください。

▼ 物理 Ethernet ネットワークの設定方法

物理 Ethernet ネットワークを構成するには、次の手順を実行します。

1. Ethernet ケーブル (RJ-45 コネクタ付き) の一方の端を、SunPCi III カードの背面にあるポートに接続します。
2. ケーブルのもう一方の端をネットワークの Ethernet ポートに接続します。
3. Microsoft Windows を再起動します。
4. TCP/IP をまだセットアップしていない場合には、前の項を参照してください。

▼ 仮想 Ethernet ネットワークの設定方法

注 – システムに複数の SunPCi III カードがインストールされている場合には、Windows 2000、Windows XP、および Windows NT 上で、仮想ネットワークは SunPCi III ソフトウェアによって無効にされます。

ネットワークやネットワークのプロパティを変更したり、またはインストール時にネットワークを構成しなかった場合には、ネットワークに接続するため、TCP/IP を構成する必要があります。詳細については、使用しているバージョンの Microsoft Windows に付属のマニュアルと37 ページの『TCP/IP プロパティの設定方法』を参照してください。

● 仮想ネットワークの構成

- Windows XP Professional を使用する場合は、55 ページの『Windows XP Professional での仮想 Ethernet ネットワークの構成』を参照してください。
- Windows 2000 を使用する場合は、77 ページの『Windows 2000 での 仮想 Ethernet ネットワークの構成』を参照してください。
- Windows NT を使用する場合は、95 ページの『Windows NT での仮想 Ethernet ネットワークの構成』を参照してください。
- Windows 98 を使用する場合は、106 ページの『Windows 98 での仮想 Ethernet ネットワークの構成』を参照してください。

注 – 仮想ネットワークに DHCP を使用している場合、ネットワークの構成後に Microsoft Windows を再起動すると、ネットワークの起動に数分かかります。これは、ネットワークのセットアップ後に初めて再起動する場合の正常な動作です。

ネットワークの問題を診断するには、付録 A の 159 ページの『トラブルシューティング』を参照してください。

第5章

Windows XP Professional の使用

この章では、SunPCi III システムに Microsoft Windows XP Professional をインストールし、構成する方法について説明します。また、既存のエミュレートドライブを Windows XP Professional へアップグレードする方法についても説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- 『Windows XP Professionalのインストール』 - 42 ページ
- 『Windows XP Professional へのアップグレード』 - 45 ページ
- 『Windows NT4 WS から Windows XP Professional へのアップグレード』 - 46 ページ
- 『Windows 2000 Professional から Windows XP Professional へのアップグレード』 - 48 ページ
- 『Windows 98 から Windows XP Professional へのアップグレード』 - 50 ページ
- 『日本語版 Windows XP Professional のインストール』 - 52 ページ

この章では、次の作業を完了する方法について説明します。

- 『カスタムインストールの実行方法』 - 43 ページ
- 『Windows XP Professional の再インストール方法』 - 45 ページ
- 『Windows NT4 WS から Windows XP Professional へのアップグレード』 - 47 ページ
- 『Windows 2000 Professional から Windows XP Professional へのアップグレード方法』 - 49 ページ
- 『Windows 98 から Windows XP Professional へのアップグレード方法』 - 51 ページ
- 『自動インストールの実行方法』 - 52 ページ
- 『手動インストールの実行方法』 - 53 ページ
- 『静的 IP アドレスを削除する方法』 - 55 ページ
- 『仮想ネットワークアダプタを追加する方法』 - 56 ページ
- 『Windows XP Professional でネットワークを構成する方法』 - 58 ページ
- 『物理 Ethernet のネットワークアダプタを再構成する方法』 - 60 ページ

- 『外部ビデオドライバを構成する方法: Windows XP Professional』 - 61 ページ
- 『Windows XP Professional で外部モニタの使用を構成する方法』 - 63 ページ
- 『ディスプレイを外部モニタからシステムモニタへ戻す方法』 - 65 ページ

この章では、Microsoft Windows XP Professional を Windows XP Professional と表記します。

Windows XP Professionalのインストール

オペレーティングシステムソフトウェアのインストールは、SunPCi [オプション] メニューから [新規エミュレートドライブの作成] を選択してエミュレートドライブを作成する際に行います。13 ページの『エミュレートドライブおよび SunPCi III ソフトウェア』を参照してください。標準の Microsoft インストールスクリプトとは異なるスクリプトを使用してカスタムインストールを実行する場合は、43 ページの『カスタムインストールの実行方法』を参照してください。

参照 – インストールまたはアップグレードを開始する前に、アンチウィルスソフトウェアを無効にしてください。

注 – このリリースでは、システムモニタと外部モニタを使用した Windows XP Professional の同時操作はサポートしていません。

インストールに関する注意

インストールを開始する前に、必ず次のメディアと情報を用意してください。

- 市販の Windows XP Professional インストールソフトウェア CD
- 必要に応じて、カスタムインストールスクリプト
- システムにインストールされている各 SunPCi III カードのネットワークシステム名
- システムにインストールされている各 SunPCi III カードでの Windows XP Professional のワークグループまたはドメイン名

注 – Windows XP Professional へのアップグレードまたはインストールの際に、ディスプレイの設定情報を含むダイアログボックスが表示されることがあります。この時点では、マウスは使用できません。Tab キーおよび Return キーを使用してダイアログボックスのボタンを選択する必要があります。続いて表示される、設定を確認するダイアログボックスでもマウスは使用できません。この手順の完了後、マウスが使用できるようになります。

▼ カスタムインストールの実行方法



注意 – 「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスでオペレーティングシステムの自動インストールを指定すると、オペレーティングシステムに対応したセットアップファイル、起動ファイル、システムファイル、およびドライバが自動的に検索およびコピーされ、SunPCi ソフトウェアの再起動の際に Windows セットアップが開始します。カスタムインストールスクリプトを使用しない場合は、カスタムインストールを実行しないでください。

1. 新しいエミュレートハードドライブを作成し、DR DOS 7.01 オペレーティングシステムソフトウェアを自動インストールします。

13 ページの『エミュレートドライブおよび SunPCi III ソフトウェア』を参照してください。「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスのオプションを次のように設定します。

- 自動インストールするオペレーティングシステムとして、DR DOS 7.01 を選択します。
- ドライブのサイズが 2 GB 以上であることを確認してください。作成した後で必要に応じてドライブを拡張することもできます。
- ドライブを C: ドライブとして接続します。
- 最高の性能を得るために、エミュレートドライブをワークステーションまたはサーバーのローカルハードディスクに作成することをお勧めします。

2. SunPCi III ソフトウェアを再起動するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

SunPCi III ソフトウェアが再起動します。OpenDOS プロンプト (C:¥>) が表示されます。

3. SunPCi III ドライバをインストールします。

Windows XP Professional ファイルのデフォルトの場所は `r:\cdrom\cdrom0\i386` です。Windows XP Professional ファイルがデフォルト以外の場所にある場合は、`/s:` スイッチを使用してファイルの場所を指定する必要があります。たとえば、Windows XP Professional ディスクイメージが Solaris ディレクトリの `/export/home/winxp` にある場合は、OpenDOS で R: ドライブからアクセスします。

注 – インストールを開始する前に、インストール CD ファイルの内容を `winxp` フォルダにコピーします。

次のコマンドを 1 行で入力します。

```
C:> f:\drivers\winxp\setupwpx /s:r:\export\home\winxp\i386
```

セットアップには数分間かかります。SunPCi III ソフトウェアにより、次のメッセージが表示されます。

```
Copying Setup Files...
Copying Boot Files...
Copying System Files...
Copying Optional Files...
Copying Assembly Files...
Copying SunPCi Installation Files...
```

`setupwpx` スクリプトが Windows XP Professional ファイルを C: ドライブにコピーし終わると、SunPCi III ソフトウェアが再起動します。Windows XP Professional のセットアップ画面が表示されます。Windows XP Professional セットアップがファイルのコピーを完了すると、SunPCi III ソフトウェアがもう一度再起動します。

4. SunPCi III ソフトウェアが Windows XP Professional ウィンドウから再起動した後、[オプション] メニューから [マウスの接続] を選択するか、Meta-M を押してマウスを接続します。

これにより、Windows XP Professional のインストール中にマウスが使用できるようになります。インストール中に正しいマウスドライバがインストールされるので、インストール後にマウスを手動で接続する必要はありません。

5. ディレクトリをカスタムインストールスクリプトの場所に変更します。

6. カスタムインストールスクリプトを使用して、インストールを完了します。

▼ Windows XP Professional の再インストール方法



注意 – Windows XP Professional を再インストールする際、自動実行ダイアログボックスの [Windows XP Professional セットアップ] オプションは使用しないでください。このオプションを使用すると、Windows XP Professional のエラーである「ブルースクリーン」が現れ、起動デバイスがアクセス不能であることを示すメッセージが表示されます。

- 標準バージョンの Windows XP Professional を再インストールする必要がある場合は、「コントロールパネル」ウィンドウの [アプリケーションの追加と削除] 機能を使用するか、Windows XP Professional の CD を挿入すると表示される自動実行ダイアログボックスを使用します。

Windows XP Professional へのアップグレード

SunPCi III ソフトウェアでは、エミュレートディスクドライブイメージをアップグレードできます。次のオペレーティングシステム用に構成されている既存の C: ドライブをアップグレードできます。

- 『Windows NT4 WS から Windows XP Professional へのアップグレード』 - 46 ページ
- 『Windows 2000 Professional から Windows XP Professional へのアップグレード』 - 48 ページ
- 『Windows 98 から Windows XP Professional へのアップグレード』 - 50 ページ

アップグレードに関する注意

Windows XP Professional へのアップグレードを開始する前に、必ず次のメディアとディスクドライブの空き容量を用意してください。

- 市販の Windows XP Professional ソフトウェアインストール CD。この CD を CD-ROM ドライブに挿入しないと、インストールは**動作しません**。
- エミュレート C: ドライブに少なくとも 2 GB の空き容量

参照 – アップグレードを実行する前に、既存のエミュレート C: ドライブファイルのバックアップコピーを作成してください。

注 – アップグレードを開始する前に、Intel ドライバを更新する必要があります。詳細については、134 ページの『Intel ドライバの更新』を参照してください。

Windows NT4 WS から Windows XP Professional へのアップグレード



注意 – アップグレードは、この項の説明に従って慎重に行ってください。SunPCi III プログラムのセットアップおよび構成手順には、Microsoft のアップグレード手順と異なる部分があります。Windows XP Professional の CD にある標準の Microsoft アップグレード手順は使用しないでください。標準のアップグレード手順を実行すると、インストールに失敗し、エミュレート C: ドライブが破損する可能性があります。

アップグレードに入る前に

注意 – Windows NT4 WS で外付 CD-RW ドライブを使用している場合は、このデバイスをアンインストールしてください。外付 CD-RW ドライブを取り外し、そのソフトウェアをアンインストールしないと、Windows XP Professional へアップグレードできません。アップグレードした後、デバイスを再インストールしてください。

新しい Windows NT4 WS パッケージから Windows XP Professional へのアップグレードを開始する前に、Intel ドライバを更新する必要があります。ドライバの更新については、134 ページの『Intel ドライバの更新』を参照してください。

注 - Windows NT から Windows XP Professional へアップグレードする際には、空白のダイアログボックスが表示されます。これは Dynamic Update が完了した後、Windows XP Professional インストールウィザードの左画面の [インストールの準備] ラジオボタンが選択されている場合に発生します。このダイアログボックスはすぐに消え、インストールプロセスは通常どおり続行されます。

▼ Windows NT4 WS から Windows XP Professional へのアップグレード

1. Windows XP Professional のCD を、システムの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] から Windows エクスプローラを選択します。

Windows エクスプローラのウィンドウが表示されます。

3. Windows エクスプローラで、次のパスを選択します。

C:\¥sun¥wxpupg¥upgrade.bat

注 - このディレクトリが C: ドライブに見つからない場合は、間違ったバージョンの SunPCi III ソフトウェアをインストールしたか、SunPCi III ドライバを更新していないかのいずれかです。

4. Upgrade.bat をダブルクリックします。

アップグレードプロセスが続行されます。このプログラムによって、使用するネットワークドライブが自動的に割り当てられます。Windows エクスプローラに使用可能なネットワークドライブ文字がない場合、このプロセスは失敗します。

注 - Windows XP Professional の CD が CD-ROM ドライブに挿入されていない場合、アップグレードプロセスはこの段階で失敗します。アップグレードを続行するには、ネットワークドライブの割り当てを解除し、ドライブ文字をこのアップグレードで使用可能にします。

5. 画面のプロンプトに従って、Microsoft Windows が要求する情報を入力します。

たとえば、CD ケースの裏面に記載されている CD キー、管理者のパスワードなどが必要です。

すべての情報の入力完了すると、SunPCi III ソフトウェアが再起動して Windows XP Professional を起動します。

参照 – この手順には、数分間かかることがあります。

Windows 2000 Professional から Windows XP Professional への アップグレード



注意 – アップグレードは、この項の説明に従って慎重に行ってください。SunPCi III プログラムのセットアップおよび構成手順には、Microsoft のアップグレード手順と異なる部分があります。Windows XP Professional の CD にある標準の Microsoft アップグレード手順は使用しないでください。標準のアップグレード手順を実行すると、インストールに失敗し、エミュレート C: ドライブが破損する可能性があります。

アップグレードに入る前に

Windows 2000 Professional から Windows XP Professional へのアップグレードを開始する前に、Intel ドライバを更新する必要があります。ドライバの更新については、134 ページの『Intel ドライバの更新』を参照してください。

▼ Windows 2000 Professional から Windows XP Professional へのアップグレード方法

1. Windows XP Professional のCD を、システムの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] から Windows エクスプローラを選択します。

Windows エクスプローラのウィンドウが表示されます。

3. Windows エクスプローラで、次のパスを選択します。

```
C:\¥sun¥wxpupg¥upgrade.bat
```

注 - このディレクトリが C: ドライブに見つからない場合は、間違ったバージョンの SunPCi III ソフトウェアをインストールしたか、SunPCi III ドライブを更新していないかのいずれかです。

4. Upgrade.bat をダブルクリックします。

アップグレードプロセスが続行されます。このプログラムによって、使用するネットワークドライブが自動的に割り当てられます。Windows エクスプローラに使用可能なネットワークドライブ文字がない場合、このプロセスは失敗します。

注 - Windows XP Professional の CD が CD-ROM ドライブに挿入されていない場合、アップグレードプロセスはこの段階で失敗します。アップグレードを続行するには、ネットワークドライブの割り当てを解除し、ドライブ文字をこのアップグレードで使用可能にします。

5. 画面のプロンプトに従って、Microsoft Windows が要求する情報を入力します。

たとえば、CD ケースの裏面に記載されている CD キー、管理者のパスワードなどが必要です。

すべての情報の入力完了すると、SunPCi III ソフトウェアがもう一度再起動して Windows XP Professional を起動します。

参照 - この手順には、数分間かかることがあります。

Windows 98 から Windows XP Professional へのアップグレード



注意 – アップグレードは、この項の説明に従って慎重に行ってください。SunPCi III プログラムのセットアップおよび構成手順には、Microsoft のアップグレード手順と異なる部分があります。Windows XP Professional の CD にある標準の Microsoft アップグレード手順は使用しないでください。標準のアップグレード手順を実行すると、インストールに失敗し、エミュレート C: ドライブが破損する可能性があります。

アップグレードに入る前に

Windows 98 から Windows XP Professional へのアップグレードを開始する前に、次の手順に従ってください。

1. SunPCi ソフトウェアを起動します。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] を選択します。
3. 「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスに次のパスを入力します。

`f:¥drivers¥win98¥setup.exe`

SunPCi ダイアログボックスが表示されます。

4. [既存ドライバの更新] ラジオボタンをクリックします。
5. [次へ] をクリックします。
「よろこそ」ダイアログボックスが表示されます。
6. [次へ] をクリックします。
アップデートプロセスが開始し、ウィンドウにアイコンやダイアログボックスがいくつか表示され、閉じます。「Windows の再起動」ダイアログボックスが表示されます。
7. [コンピュータを今すぐ再起動する] の横にあるラジオボタンをクリックします。

8. [OK] をクリックします。

SunPCi が再起動します。

アップグレード手順の次の項目に進んでください。

▼ Windows 98 から Windows XP Professional へのアップグレード方法

1. Windows XP Professional のCD を、システムの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] から Windows エクスプローラを選択します。

Windows エクスプローラのウィンドウが表示されます。

3. Windows エクスプローラで、次のパスを選択します。

```
f:\¥drivers¥win98¥wxpupg¥upgrade.bat
```

4. Upgrade.bat をダブルクリックします。

アップグレードプロセスが実行されます。このプログラムによって、使用するネットワークドライブが自動的に割り当てられます。Windows エクスプローラに使用可能なネットワークドライブ文字がない場合、このプロセスは失敗します。

注 – Windows XP Professional の CD が CD-ROM ドライブに挿入されていない場合、アップグレードプロセスはこの段階で失敗します。アップグレードを続行するには、ネットワークドライブの割り当てを解除し、ドライブ文字をこのアップグレードで使用可能にします。

5. 画面のプロンプトに従って、Microsoft Windows が要求する情報を入力します。

たとえば、CD ケースの裏面に記載されている CD キー、管理者のパスワードなどが必要です。

すべての情報の入力完了すると、SunPCi ソフトウェアがもう一度再起動して Windows XP Professional を起動します。

参照 – この手順には、数分間かかることがあります。

日本語版 Windows XP Professional のインストール

Windows XP Professional の日本語版を SunPCi III にインストールするには、自動と手動の 2 つのインストール方法があります。

▼ 自動インストールの実行方法

Windows XP Professional の日本語版を自動インストールするには、次の手順を実行します。

1. 日本語版 Windows XP Professional の CD を、システムの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. SunPCi ソフトウェアを起動します。
3. [OK] をクリックします。
「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスが表示されます。
4. 「オペレーティングシステムの選択」画面で Windows XP Professional-FAT16 または Windows XP Professional-NTFS を選択します。
5. ラジオボタンをクリックして、ドライブを C: ドライブに接続します。
6. スライダをドラッグし、ドライブサイズを 4 GB 以上に設定します。
7. ドライブのディレクトリとファイル名を選択して、[OK] をクリックします。
ドライブが作成され、SunPCi III ソフトウェアが再起動します。
8. 次のメッセージが表示されたら `y` と入力し、Return キーを押します。

This cdrom appears to be Japanese Windows, is that correct?

9. SunPCi III ウィンドウの [オプション] から [新規エミュレートドライブの作成] を選択します。
「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスが表示されます。

10. 「オペレーティングシステムの選択」画面で DR DOS 7.01 (起動可能) を選択します。
11. このドライブを D: ドライブとして接続します。
12. スライダをドラッグし、ドライブサイズを 4 GB 以上に設定します。
13. ドライブのディレクトリとファイル名を選択して、[OK] をクリックします。
14. Windows をシャットダウンして SunPCi III をリセットすることを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
15. SunPCi III ウィンドウの [ファイル] から [PC のリセット] を選択します。
システムがファイルをコピーし終わると、SunPCi III ソフトウェアが再起動します。
16. Windows XP Professional オペレーティングシステムのインストール場所を確認するメッセージが表示されたら、ソフトウェアを C: ドライブにインストールします。
インストール手順を続行します。画面に表示される手順に従ってください。インストールが終了したら、D: ドライブを切断してエミュレートドライブファイルを削除し、SunPC.ini ファイルから消去します。

▼ 手動インストールの実行方法

Windows XP Professional の日本語版を手動でインストールするには、次の手順を実行します。

1. 日本語版 Windows XP Professional のCD を、システムの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. SunPCi ソフトウェアを起動します。
3. [OK] をクリックします。
「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスが表示されます。
4. 「オペレーティングシステムの選択」画面で DR DOS 7.01 (起動可能) を選択します。
5. ラジオボタンをクリックして、ドライブを C: ドライブに接続します。
6. スライダをドラッグし、ドライブサイズを 4 GB 以上に設定します。
7. ドライブのディレクトリとファイル名を選択して、[OK] をクリックします。
ドライブが作成され、SunPCi III ソフトウェアが再起動します。

8. SunPCi III ウィンドウの [オプション] から [新規エミュレートドライブの作成] を選択します。
「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスが表示されます。
9. 「オペレーティングシステムの選択」画面で DR DOS 7.01 (起動可能) を選択します。
10. ラジオボタンをクリックして、このドライブを D: ドライブに接続します。
11. スライダをドラッグし、ドライブサイズを 4 GB 以上に設定します。
12. ドライブのディレクトリとファイル名を選択して、[OK] をクリックします。
13. Windows をシャットダウンして SunPCi III をリセットすることを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
14. SunPCi III ウィンドウの [ファイル] から [PC のリセット] を選択します。
15. エミュレートドライブにファイルシステムを作成するには、次の手順に従います。
 - ドライブに FAT ファイルシステムを作成するには、C:¥> プロンプトに次のコマンドを入力して、Return を押します。

```
f:¥drivers¥winxp¥setupwpxp /td
```

- エミュレートドライブに NTFS ファイルシステムを作成するには、C:¥> プロンプトに次のコマンドを入力して、Return を押します。

```
f:¥drivers¥winxp¥setupwpxp /td /NTFS:max
```

システムがファイルをコピーし終わると、SunPCi III ソフトウェアが再起動します。

16. Windows XP Professional オペレーティングシステムのインストール場所を確認するメッセージが表示されたら、ソフトウェアを C: ドライブにインストールします。

インストール手順を続行します。画面に表示される手順に従ってください。インストールが終了したら、D: ドライブを切断してエミュレートドライブファイルを削除し、SunPC.ini ファイルから消去します。

Windows XP Professional での仮想 Ethernet ネットワークの構成

SunPCi III ソフトウェアでは、デフォルトで物理 Ethernet ネットワークが有効になっています。物理ネットワークではなく仮想ネットワークを使用する場合、Microsoft Windows で物理 Ethernet アダプタを無効にし、仮想 Ethernet アダプタをインストールする必要があります。この項では、必要な手順を説明します。

注 – システムに複数の SunPCi III カードがインストールされている場合には、仮想ネットワークは SunPCi III ソフトウェアによって無効にされます。



注意 – 仮想および物理ネットワークを同時に有効にしないでください。

物理および仮想 Ethernet ネットワークの詳細については、37 ページの『SunPCi III ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定』を参照してください。

Windows XP Professional で仮想 Ethernet ネットワークをセットアップするには、次に説明する手順に従ってください。この手順では、ネットワークアダプタを構成する方法を説明します。

注 – Microsoft Windows では、さまざまな方法でソフトウェアをインストールすることができます。Microsoft Windows ソフトウェアをインストールした経験がある場合でも、この項の説明に従ってください。SunPCi III 3.0 ソフトウェアはこれ以外のインストール方法をサポートしていません。

▼ 静的 IP アドレスを削除する方法

以前に物理ネットワークを使用していて、静的 IP アドレスを定義した場合は、次の手順に従ってそのアドレスを削除します。該当しない場合は、次の手順へ進んでください。

1. Windows XP Professional のデスクトップ上で、[マイネットワーク] を右クリックします。

ドロップダウンメニューが表示されます。

2. [プロパティ] を選択します。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. [ローカルエリア接続] を右クリックします。
4. [プロパティ] を選択します。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
5. [インターネットプロトコル (TCP/IP)] をダブルクリックします。
「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
6. 既存の IP アドレスを削除します。
7. [IP アドレスを自動的に取得する] ラジオボタンをクリックします。
8. [OK] をクリックして「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。
9. [OK] をクリックして「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。
10. 「ネットワークとダイアルアップ接続」ウィンドウを閉じます。

▼ 仮想ネットワークアダプタを追加する方法

1. Windows XP Professional のデスクトップで、[マイコンピュータ] を右クリックします。
ドロップダウンメニューが表示されます。
2. [プロパティ] を選択します。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. [ハードウェア] タブをクリックします。
4. [デバイスマネージャ] をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが開き、インストールされたデバイスドライバのリストが表示されます。
5. [ネットワークアダプタ] をダブルクリックします。
6. VIA PCI 10/100 Mb Ethernet Adapter を右クリックします。

7. [無効] をクリックします。

このデバイスを無効にすると機能が停止するという内容のメッセージが表示されます。

8. [はい] をクリックします。

9. [OK] をクリックして、「システムのプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。

10. 「デバイスマネージャ」ウィンドウを閉じます。

これでこの作業の第 1 段階を完了します。第 2 段階に進み、仮想ネットワークアダプタの追加を完了します。

1. Windows XP Professional の [スタート] メニューから [設定]、[コントロールパネル] を選択します。

2. [ハードウェアの追加] をダブルクリックします。

「ハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

3. [次へ] をクリックします。

「ハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

4. [はい、ハードウェアを接続しています] の横にあるラジオボタンをクリックします。

5. [次へ] をクリックします。

6. [新しいハードウェアデバイスの追加] をクリックします。

7. [次へ] をクリックします。

8. [一覧から選択したハードウェアをインストールする (詳細)] の横にあるラジオボタンをクリックします。

インストールするハードウェアのタイプを確認するダイアログボックスが表示されます。

9. [次へ] をクリックします。

10. [ネットワークアダプタ] オプションをクリックします。

11. [次へ] をクリックします。

「ハードウェアの追加と削除ウィザード」が表示されます。

12. [ディスク使用] をクリックします。

13. [参照] をクリックします。

14. `c:\¥sun¥sunnet¥winxp¥sunndis.inf.` を選択します。
「ファイルの場所」ダイアログボックスが表示されます。
15. [開く] をクリックします。
「ディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。
16. [OK] をクリックします。
「ネットワークアダプタの選択」ダイアログボックスが表示されます。
17. [次へ] をクリックします。
ダイアログボックスが表示され、インストールする新規ハードウェアとして SunNDIS Adapter Driver がリストされます。
18. [次へ] をクリックします。
ファイルがコピーされ、[ハードウェアの追加ウィザードの完了] ダイアログボックスが表示されます。
19. [完了] をクリックします。
コンピュータを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[はい] をクリックして構成を終了します。

ネットワークで仮想アダプタ機能を有効にするには、58 ページの『Windows XP Professional でネットワークを構成する方法』の手順を実行する必要があります。

▼ Windows XP Professional でネットワークを構成する方法

仮想または物理ネットワークアダプタを構成して Windows XP Professional を再起動した後、TCP/IP を使用するようにアダプタの 1 つを構成する必要があります。Windows XP Professional に再度ログインし、ここで説明する手順に従ってください。



注意 – 仮想および物理ネットワークアダプタを同時に有効にしないでください。次の手順を実行する前に、仮想または物理アダプタのいずれかを無効にしたことを確認してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル] を選択し、[ネットワーク接続] を選択します。

「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、[新しい接続の作成]、[ローカルエリア接続]、[ローカルエリア接続 2] の 3 つのアイコンが表示されます。

参照 – この操作を実行するのが初めてではない場合は、ウィンドウにはこの 3 つ以外
のアイコンが表示されることがあります。

2. [ローカルエリア接続] または [ローカルエリア接続 2] を右クリックします。
2 つの接続の選択は、どちらの Ethernet アダプタが有効になっているかによります。
「状態」ウィンドウが表示されます。ドロップダウンメニューが表示されます。
3. [プロパティ] をクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. [インターネットプロトコル (TCP/IP)] をダブルクリックします。
「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
5. 37 ページの『TCP/IP プロパティの設定方法』の説明に従い、SunPCi III カードの TCP/IP を設定します。
必要に応じて、Windows XP のマニュアルを参照してください。
6. TCP/IP の設定が完了したら、[OK] をクリックして「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。
7. [OK] をクリックして「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。
8. [OK] をクリックして「ローカルエリア接続の状態」ダイアログボックスを閉じます。
9. 「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウを閉じます。
10. [はい] をクリックして Microsoft Windows を再起動します。

注 – ダイアログボックスに「SunNDIS failed to start」というメッセージが表示される場合、メッセージを無視して [OK] をクリックします。DHCP ネットワークが無効になっている場合に、このメッセージが表示されることがあります。

▼ 物理 Ethernet のネットワークアダプタを再構成する方法

物理ネットワークアダプタを再度有効にする必要がある場合は、次の手順に従います。



注意 – 仮想および物理ネットワークアダプタを同時に有効にしないでください。次の手順を実行する前に、仮想アダプタを無効にしたことを確認してください。

1. Windows XP Professional のデスクトップで、[マイコンピュータ] を右クリックします。
ドロップダウンメニューが表示されます。
2. [プロパティ] を選択します。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. [ハードウェア] タブをクリックします。
4. [デバイスマネージャ] をクリックします。
[デバイスマネージャ] ウィンドウが開き、コンピュータにインストールされたデバイスドライバのリストが表示されます。
5. コンピュータ名をクリックします。
6. [ネットワークアダプタ] をダブルクリックします。
7. 仮想ネットワークに静的 IP アドレスを構成した場合は、55 ページの『静的 IP アドレスを削除する方法』の手順を実行してください。
8. SunNDIS Virtual Adapter を右クリックします。
9. [無効] をクリックします。
このデバイスを無効にすると機能が停止するという内容のメッセージがダイアログボックスに表示されます。
10. [はい] をクリックします。
11. VIA PCI 10/100 Mb Ethernet Adapter を右クリックします。
ドロップダウンメニューが表示されます。
12. [有効] をクリックします。
13. 「デバイスマネージャ」ウィンドウを閉じます。

14. [OK] をクリックして、「システムのプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。

ネットワークで TCP/IP を使用するよう物理アダプタを有効にするには、58 ページの『Windows XP Professional でネットワークを構成する方法』の手順を実行する必要があります。

▼ 外部ビデオドライバを構成する方法: Windows XP Professional

外部モニターを使用するには、モニターを SunPCi III メインカードの背面板に接続し、外部ビデオドライバをインストールする必要があります。



注意 – 内部および外部モニターを同時に有効にしないでください。SunPCi III 3.0 ソフトウェアはマルチヘッド機能をサポートしていません。

1. モニターを SunPCi III メインカードの背面板にある外部ビデオポートコネクタに接続します。
外部ビデオポートの場所については、図 10-1を参照してください。
2. SunPCi ソフトウェアを起動します。
3. Windows XP Professional のデスクトップで、[マイコンピュータ] を右クリックします。
ドロップダウンメニューが表示されます。
4. [管理] をクリックします。
「コンピュータの管理」ウィンドウが表示されます。
5. [デバイスマネージャ] をダブルクリックします。
6. [ディスプレイアダプタ] をダブルクリックします。
使用可能なディスプレイアダプタのリストが表示されます。
7. S3 Graphic ProSavage DDR (No driver installed) をダブルクリックします。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
8. [ドライバ] タブをクリックします。
9. [ドライバの更新] をクリックします。
「ハードウェアの更新ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

10. [一覧または特定の場所からインストールする (詳細)] ラジオボタンをクリックします。
11. [次へ] をクリックします。
12. [検索しないで、インストールするドライバを選択する] ラジオボタンをクリックします。
13. [次へ] をクリックします。
14. [ディスク使用] をクリックします。
15. [参照] をクリックします。
16. `c:\¥sun¥viavideo¥WINXP¥PS5333.inf` を選択します。
「ファイルの場所」ダイアログボックスが表示されます。
17. [開く] をクリックします。
ダイアログボックスにパス名が表示されます。
18. [OK] をクリックします。
ダイアログボックスに、S3 Graphics ProSavage DDR および S3 Graphics ProSavage DDR (No driver installed) という 2 種類のドライバが表示されます。
19. S3 Graphics ProSavage DDR をクリックします。
インストールが完了すると、「ハードウェアの更新ウィザードの完了」ダイアログボックスが表示されます。
20. [次へ] をクリックします。
21. [完了] をクリックします。
22. 「S3 Graphics ProSavage DDR のプロパティ」ウィンドウで [閉じる] をクリックします。
システムを再起動してハードウェアの変更を有効にするかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
23. [いいえ] をクリックします。
24. 「コンピュータの管理」ウィンドウを閉じます。
25. [スタート] メニューから [コンピュータの電源を切る] を選択します。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

26. [電源を切る] をクリックします。

Windows XP Professional がシャットダウンし、SunPCi の初期画面に「SunPCi を終了またはリセットする準備ができました」と表示されます。

27. SunPCi の [ファイル] メニューから [終了] を選択します。

「SunPCi の終了」ダイアログボックスが表示されます。

28. [今すぐ終了] をクリックします。

SunPCi が終了します。

29. Solaris システムプロンプトで `-v` オプションを使用し、SunPCi III ソフトウェアを再起動します。

```
% /opt/SUNWspci3/bin/sunpci -v
```

注 - `-v` オプションを使用しないと、Sun のディスプレイはスクランブル表示されます。

SunPCi III ソフトウェアが起動し、Windows XP がまず外部モニタに表示され、次に SunPCi III ウィンドウのシステムモニタに表示されます。次に、以下の手順の説明に従って Windows XP のディスプレイを構成します。

▼ Windows XP Professional で外部モニタの使用を構成する方法

Windows XP Professional でのディスプレイ構成についての詳細は、Windows XP Professional のマニュアルを参照してください。

1. Windows XP Professional のデスクトップ上で、マウスを右クリックします。

ドロップダウンメニューが表示されます。

2. [プロパティ] を選択します。

「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3. [設定] タブをクリックします。

注 - 1 と 2 の番号が付いた 2 つのディスプレイがウィンドウに表示されています。ビデオ 2 がハイライトされており、これがメインのディスプレイ (システムモニタ) であることを示しています。ビデオ 1 は淡色表示されており、メインのディスプレイではないことを示しています。

4. ビデオ 1 をクリックします。

ビデオの下にリストされるドライバが、S3 Graphics ProSavage DDR のデフォルトモニタに変更されます。

5. [Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする] の横にあるチェックボックスをオンにします。

6. [このデバイスをプライマリモニタとして使用する] の横にあるチェックボックスをオンにします。

7. ビデオ 2 をクリックします。

ビデオの下にリストされたドライバが、Sun Microsystems SunPCi ビデオドライバに戻ります。

8. [Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする] の横にあるチェックボックスをオフにします。

ビデオ 1 とビデオ 2 を示すアイコンの場所が変更され、ビデオ 1 が最初に表示されます。

9. [適用] をクリックします。

これで外部モニタが Windows XP Professional で有効になります。内部モニタには空の SunPCi ウィンドウが表示され、タイトルバーには [video routed to external monitor] と表示されます。

10. [OK] をクリックして、「画面のプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。

これで Windows XP Professional で外部ビデオを使用することができます。詳細については、Windows XP Professional のマニュアルを参照してください。

▼ ディスプレイを外部モニタからシステムモニタへ戻す方法

1. Windows XP Professional のデスクトップ上で、マウスを右クリックします。
ドロップダウンメニューが表示されます。
2. [プロパティ] を選択します。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. [設定] タブをクリックします。
4. ビデオ 2 をクリックします。
ビデオの下にリストされるドライバが、Sun Microsystems on SunPCi video のデフォルトモニタに変更されます。
5. [Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする] の横にあるチェックボックスをオンにします。
6. [このデバイスをプライマリモニタとして使用する] の横にあるチェックボックスをオンにします。
7. ビデオ 1 をクリックします。
ビデオの下にリストされたドライバが、Sun Microsystems SunPCi ビデオドライバに戻ります。
8. [Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする] の横にあるチェックボックスをオフにします。
9. [適用] をクリックします。
これで内部モニタが Windows XP Professional で有効になります。
10. [OK] をクリックして、「画面のプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。
これで Windows XP Professional で外部ビデオを使用することができます。詳細については、Windows XP Professional のマニュアルを参照してください。

第6章

Windows 2000 Professional および Windows 2000 Server の使用

この章では、SunPCi III 製品で Microsoft Windows 2000 Professional および Microsoft Windows 2000 Server Edition オペレーティングシステムソフトウェアを使用する場合の、インストール方法と構成方法を説明します。また、オペレーティングシステムを Windows NT から Windows 2000 へアップグレードする方法についても説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- 『Windows 2000 のインストール』 - 68 ページ
- 『Windows NT から Windows 2000 へのアップグレード』 - 71 ページ
- 『Windows NT4 WS から Windows 2000 Professional へのアップグレード』 - 72 ページ
- 『Windows NT4 TS から Windows 2000 Server へのアップグレード』 - 74 ページ
- 『Windows 2000 での 仮想 Ethernet ネットワークの構成』 - 77 ページ

この章では、次の作業を完了する方法について説明します。

- 『カスタムインストールの実行方法』 - 69 ページ
- 『Windows 2000 の再インストール方法』 - 71 ページ
- 『Windows NT4 WS から Windows 2000 Professional へのアップグレード方法』 - 73 ページ
- 『Windows NT4 TS から Windows 2000 Server へのアップグレード方法』 - 75 ページ
- 『静的 IP アドレスを削除する方法』 - 77 ページ
- 『仮想ネットワークアダプタを追加する方法』 - 78 ページ
- 『Windows 2000 でネットワークを構成する方法』 - 81 ページ
- 『物理 Ethernet のネットワークアダプタを再構成する方法』 - 82 ページ
- 『外部ビデオドライバを構成する方法: Windows 2000』 - 83 ページ
- 『Windows 2000 で外部モニタの使用を構成する方法』 - 86 ページ
- 『ディスプレイを外部モニタからシステムモニタへ戻す方法』 - 87 ページ

■ 『マウスキー機能の構成方法』 - 88 ページ

この章では、Microsoft Windows 2000 Professional は Windows 2000 Professional、Microsoft Windows 2000 Server Edition は Windows 2000 Server と表記します。またこの章で Windows 2000 といった場合には、両方のオペレーティングシステムを指しています。

参照 - この章の Windows 2000 Server のインストールや構成手順に Windows 2000 Professional のインストール手順と異なる点がある場合には、説明の後にサーバー用のヒントが記載されています。

Windows 2000 のインストール

オペレーティングシステムソフトウェアのインストールは、SunPCi [オプション] メニューから [新規エミュレートドライブの作成] を選択してエミュレートドライブを作成する際に行います。13 ページの『エミュレートドライブおよび SunPCi III ソフトウェア』を参照してください。標準の Microsoft インストールスクリプトとは異なるスクリプトを使用してカスタムインストールを実行する場合は、69 ページの『カスタムインストールの実行方法』を参照してください。

参照 - インストールまたはアップグレードを開始する前に、アンチウイルスソフトウェアを無効にしてください。



注意 - SunPCi III 3.0 はシステムモニタと外部モニタを使用した Windows 2000 の同時操作をサポートしていません。

注 - SunPCi III 3.0 ソフトウェアは Windows 98 から Windows 2000 へのアップグレードはサポートしていません。

インストールに関する注意

インストールを開始する前に、必ず次のメディアと情報を用意してください。

- 市販の Windows 2000 インストールソフトウェア CD
- 必要に応じて、カスタムインストールスクリプト
- システムにインストールされている各 SunPCi III カードのネットワークシステム名
- システムにインストールされている各 SunPCi III カードでの Windows 2000 のワークグループまたはドメイン名

▼ カスタムインストールの実行方法



注意 - 「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスでオペレーティングシステムの自動インストールを指定すると、オペレーティングシステムに対応したセットアップファイル、起動ファイル、システムファイル、およびドライバが自動的に検索およびコピーされ、SunPCi ソフトウェアの再起動の際に Windows セットアップが開始します。カスタムインストールスクリプトを使用しない場合は、カスタムインストールを実行しないでください。

1. 新しいエミュレートハードドライブを作成し、DR DOS 7.01 オペレーティングシステムソフトウェアを自動インストールします。

13 ページの『エミュレートドライブおよび SunPCi III ソフトウェア』を参照してください。「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスのオプションを次のように設定します。

- 自動インストールするオペレーティングシステムとして、DR DOS 7.01 を選択します。
- ドライブのサイズが 2 GB 以上であることを確認してください。作成した後で必要に応じてドライブを拡張することもできます。
- ドライブを C: ドライブとして接続します。
- 最高の性能を得るために、エミュレートドライブをワークステーションまたはサーバーのローカルハードディスクに作成することをお勧めします。

2. SunPCi III ソフトウェアを再起動するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

SunPCi III ソフトウェアが再起動します。OpenDOS プロンプト (c: ¥>) が表示されます。

3. SunPCi III ドライバをインストールします。

Windows 2000 ファイルのデフォルトの場所は `r:\cdrom\cdrom0\i386` です。

Windows 2000 ファイルがデフォルト以外の場所にある場合は、`/s:` スイッチを使用してファイルの場所を指定する必要があります。たとえば、Windows 2000 ディスクイメージが Solaris ディレクトリの `/export/home/win2k` にある場合は、OpenDOS で R: ドライブからアクセスします。

注 – インストールを開始する前に、インストール CD ファイルの内容を win2k フォルダにコピーします。

次のコマンドを 1 行で入力します。

```
C:> f:\drivers\win2k\setupw2k /s:r:\export\home\win2k\i386
```

セットアップには数分間かかります。SunPCi III ソフトウェアにより、次のメッセージが表示されます。

```
Copying Setup Files...
Copying Boot Files...
Copying System Files...
Copying Optional Files...
Copying SunPCi Installation Files...
```

setupw2k スクリプトが Windows 2000 ファイルを C: ドライブにコピーし終わると、SunPCi III ソフトウェアが再起動します。Windows 2000 のセットアップ画面が表示されます。Windows 2000 セットアップがファイルのコピーを完了すると、SunPCi III ソフトウェアがもう一度再起動します。

参照 – この SunPCi III メッセージは Windows 2000 Professional セットアップのメッセージであり、Windows 2000 Server のメッセージは多少異なります。

注 – 以下のインストール作業では、マウスを使用できない場合があります。Tab キーと矢印キーを使用して、Windows 2000 セットアップ画面をナビゲートしてください。

4. SunPCi III ソフトウェアが Windows 2000 ウィンドウから再起動した後、[オプション]メニューから [マウスの接続] を選択するか、Meta-M を押してマウスを接続します。

これにより、Windows 2000 のインストール中にマウスが使用できるようになります。インストール中に正しいマウスドライバがインストールされるので、インストール後にマウスを手動で接続する必要はありません。

5. ディレクトリをカスタムインストールスクリプトの場所に変更します。
6. カスタムインストールスクリプトを使用して、インストールを完了します。

▼ Windows 2000 の再インストール方法



注意 – Windows 2000 を再インストールする際、自動実行ダイアログボックスの [Windows 2000 セットアップ] オプションは使用しないでください。このオプションを使用すると、Windows 2000 のエラーである「ブルースクリーン」が現れ、起動デバイスがアクセス不能であることを示すメッセージが表示されます。

- 標準バージョンの Windows 2000 を再インストールする場合は、「コントロールパネル」ウィンドウの [アプリケーションの追加と削除] 機能を使用するか、Windows 2000 の CD を挿入すると表示される自動実行ダイアログボックスを使用します。

Windows NT から Windows 2000 へのアップグレード

SunPCi III 3.0 ソフトウェアでは、エミュレートディスクドライブイメージをアップグレードできます。既存の C: ドライブをアップグレードするには、次のいずれかを実行します。

- Windows NT4 WS から Windows 2000 Professional へのアップグレード
- Windows NT4 TS から Windows 2000 Server へのアップグレード

参照 – Service Pack 3 を使用して、アップグレードした Windows 2000 を更新します。

アップグレードに関する注意

Windows 2000 へのアップグレードを開始する前に、必ず次のメディアとディスクドライブの空き容量を用意してください。

- 市販の Windows 2000 Professional CD または Windows 2000 Server インストール CD 市販のインストール CD を CD-ROM ドライブに挿入しないと、インストールは動作しません。
- また、エミュレート C: ドライブには、少なくとも 2 GB の空き容量が必要です。

参照 – アップグレードを実行する前に、既存のエミュレート C: ドライブファイルのバックアップコピーを作成してください。

Windows NT4 WS から Windows 2000 Professional へのアップグレード



注意 – アップグレードは、この項の説明に従って慎重に行ってください。SunPCi III プログラムのセットアップおよび構成手順には、Microsoft のアップグレード手順と異なる部分があります。Windows 2000 Professional の CD にある標準の Microsoft アップグレード手順は使用しないでください。標準のアップグレード手順を実行すると、インストールに失敗し、エミュレート C: ドライブが破損する可能性があります。

アップグレードに入る前に

Windows NT4 WS で Media Player 7 を使用している場合は、Windows 2000 Professional へのアップグレードに入る前にアンインストールしてください。アップグレードした後、Media Player 7 を再インストールします。



注意 – Windows NT4 WS から Windows 2000 Professional へのアップグレードに入る前に Media Player 7 をアンインストールしないと、アップグレード後に CD-ROM が使用できなくなります。



注意 – Windows NT4 WS で外付 CD-RW ドライブを使用している場合は、このデバイスをアンインストールしてください。外付 CD-RW ドライブを取り外し、そのソフトウェアをアンインストールしないと、Windows 2000 Professional へアップグレードできません。アップグレードした後、デバイスを再インストールしてください。

Windows NT4 WS パッケージから Windows 2000 Professional へのアップグレードを開始する前に、Intel ドライバを更新する必要があります。ドライバの更新については、134 ページの『Intel ドライバの更新』を参照してください。

▼ Windows NT4 WS から Windows 2000 Professional へのアップグレード方法

1. Windows 2000 Professional のCD を、システムの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] から Windows エクスプローラを選択します。

Windows エクスプローラのウィンドウが表示されます。

3. Windows エクスプローラのウィンドウで次のパスを選択します。

C:¥sun¥w2kupg

注 – このディレクトリが C: ドライブに見つからない場合は、間違ったバージョンの SunPCi III ソフトウェアをインストールしたか、SunPCi III ドライバを更新していないかのいずれかです。

4. Upgrade.bat をダブルクリックします。

アップグレードプロセスが続行されます。このプログラムによって、使用するネットワークドライブが自動的に割り当てられます。Windows エクスプローラに使用可能なネットワークドライブ文字がない場合、このプロセスは失敗します。

注 – Windows 2000 Professional の CD が CD-ROM ドライブに挿入されていない場合、アップグレードプロセスはこの段階で失敗します。アップグレードを続行するには、ネットワークドライブの割り当てを解除し、ドライブ文字をこのアップグレードで使用可能にします。

5. 画面のプロンプトに従って、Microsoft Windows が要求する情報を入力します。

たとえば、CD ケースの裏面に記載されている CD キー、管理者のパスワードなどが
必要です。

すべての情報の入力完了すると、SunPCi III ソフトウェアが再起動して Windows
2000 Professional を起動します。

参照 – この手順には、数分間かかることがあります。

6. Service Pack をインストールします。

プロセスを完了するには、適切な Service Pack をインストールする必要があります。
22 ページの『Microsoft Windows Service Pack』を参照してください。

Windows NT4 TS から Windows 2000 Server へのアップグレード



注意 – アップグレードは、この項の説明に従って慎重に行ってください。SunPCi III プ
ログラムのセットアップおよび構成手順には、Microsoft のアップグレード手順と異なる
部分があります。Windows 2000 Server の CD にある標準の Microsoft アップグレード手
順は使用しないでください。標準のアップグレード手順を実行すると、インストールに
失敗し、エミュレート C: ドライブが破損する可能性があります。

アップグレードに入る前に

Windows NT4 TS から Windows 2000 Server へのアップグレードを開始する前に、次
の手順に従ってください。

1. Windows NT4 TS のアップグレード、および Windows NT4 TS で SunFSD の割り当
てを有効にする前に、すべてのクライアントや他のプロセスをサーバーからログオフ
します。

SunFSD の割り当てを有効にすると、**現在のユーザーすべてで SunFSD 割り当てが有
効になり、セキュリティホールが生じることがあるので注意してください。**

2. 次の場所にある fsdon.reg レジストリファイルをダブルクリックします。

```
C:\¥sun¥sunfsd¥fsdon.reg
```

これで SunFSD が有効になります。Windows 2000 Server へのアップグレードが終了するまで SunFSD を有効にしておきます。



注意 – アップグレードスクリプトには SunFSD 依存性があるため、SunFSD を有効にしてドライブを割り当てた後、SunFSD を無効にした状態でアップグレードを行ってください。

3. アップグレードプロセスを開始する前に、Intel ドライバを更新する必要があります。ドライバの更新については、134 ページの『Intel ドライバの更新』を参照してください。

▼ Windows NT4 TS から Windows 2000 Server へのアップグレード方法



注意 – アップグレードは、この項の説明に従って慎重に行ってください。SunPCi III プログラムのセットアップおよび構成手順には、Microsoft のアップグレード手順と異なる部分があります。Windows 2000 Server の CD にある標準の Microsoft アップグレード手順は使用しないでください。標準のアップグレード手順を実行すると、インストールに失敗し、Windows 2000 Server エミュレートディスクで SunPCi III を実行できず、エミュレート C: ドライブが破損する可能性があります。

1. Windows 2000 Server の CD を、システムの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] から Windows エクスプローラを選択します。
Windows エクスプローラのウィンドウが表示されます。
3. Windows エクスプローラのウィンドウで次のパスを選択します。

```
C:\¥sun¥w2kupp¥upgrade.bat
```

注 - このディレクトリが C: ドライブに見つからない場合は、間違ったバージョンの SunPCi III ソフトウェアをインストールしたか、SunPCi III ドライバを更新していないかのいずれかです。

4. Upgrade.bat をダブルクリックします。

アップグレードプロセスが続行されます。このプログラムによって、使用するネットワークドライブが自動的に割り当てられます。Windows エクスプローラに使用可能なネットワークドライブ文字がない場合、このプロセスは失敗します。

注 - Windows 2000 Server の CD が CD-ROM ドライブに挿入されていない場合、アップグレードプロセスはこの段階で失敗します。アップグレードを続行するには、ネットワークドライブの割り当てを解除し、ドライブ文字をこのアップグレードで使用可能にします。

5. 画面のプロンプトに従って、Microsoft Windows が要求する情報を入力します。

たとえば、CD ケースの裏面に記載されている CD キー、管理者のパスワードなどが必要です。

すべての情報の入力完了すると、SunPCi III ソフトウェアがもう一度再起動して Windows 2000 Server を起動します。

参照 - この手順には、数分間かかることがあります。

6. Service Pack をインストールします。

プロセスを完了するには、適切な Service Pack をインストールする必要があります。22 ページの『Microsoft Windows Service Pack』を参照してください。

Windows 2000 での仮想 Ethernet ネットワークの構成

SunPCi III ソフトウェアでは、デフォルトで物理 Ethernet ネットワークが有効になっています。物理ネットワークではなく仮想ネットワークを使用する場合、Microsoft Windows で物理 Ethernet アダプタを無効にし、仮想 Ethernet アダプタをインストールする必要があります。この項では、必要な手順を説明します。

注 – システムに複数の SunPCi III カードがインストールされている場合には、仮想ネットワークは SunPCi III ソフトウェアによって無効にされます。



注意 – 仮想および物理ネットワークを同時に有効にしないでください。

物理および仮想 Ethernet ネットワークの詳細については、37 ページの『SunPCi III ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定』を参照してください。

Windows 2000 で仮想 Ethernet ネットワークをセットアップするには、次に説明する手順に従ってください。この手順では、ネットワークアダプタを構成する方法を説明します。

注 – Microsoft Windows では、さまざまな方法でソフトウェアをインストールすることができます。Microsoft Windows ソフトウェアをインストールした経験がある場合でも、この項の説明に従ってください。SunPCi III 3.0 ソフトウェアはこれ以外のインストール方法をサポートしていません。

▼ 静的 IP アドレスを削除する方法

以前に物理ネットワークを使用していて、静的 IP アドレスを定義した場合は、次の手順に従ってそのアドレスを削除します。該当しない場合は、次の手順へ進んでください。

1. Windows 2000 のデスクトップ上で、[マイネットワーク] を右クリックします。
ドロップダウンメニューが表示されます。

2. [プロパティ] を選択します。
「ネットワークとダイヤルアップ接続」ダイアログボックスが表示されます。
3. [ローカルエリア接続] を右クリックします。
4. [プロパティ] を選択します。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
5. [インターネットプロトコル (TCP/IP)] をダブルクリックします。
「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
6. 既存の IP アドレスを削除します。
7. [IP アドレスを自動的に取得する] ラジオボタンをクリックします。
8. [OK] をクリックして「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。
9. [OK] をクリックして「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。
10. 「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウを閉じます。

▼ 仮想ネットワークアダプタを追加する方法

1. Windows 2000 のデスクトップで、[マイコンピュータ] を右クリックします。
ドロップダウンメニューが表示されます。
2. [プロパティ] を選択します。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. [ハードウェア] タブをクリックします。
4. [デバイスマネージャ] をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが開き、インストールされたデバイスドライバのリストが表示されます。
5. [ネットワークアダプタ] をダブルクリックします。
6. VIA PCI 10/100 Mb Ethernet Adapter を右クリックします。

7. [無効] をクリックします。

このデバイスを無効にすると機能が停止するという内容のメッセージが表示されます。

8. [はい] をクリックします。

9. [OK] をクリックして、「システムのプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。

10. 「デバイスマネージャ」ウィンドウを閉じます。

これでこの作業の第 1 段階を完了します。第 2 段階に進み、仮想ネットワークアダプタの追加を完了します。

1. Windows 2000 の [スタート] メニューから [設定]、[コントロールパネル] を選択します。

2. [ハードウェアの追加と削除] をダブルクリックします。

「ハードウェアの追加と削除ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

3. [次へ] をクリックします。

4. [デバイスの追加/トラブルシューティング] ラジオボタンをクリックします。

5. [次へ] をクリックします。

Microsoft Windows により、新しいハードウェアデバイスが検索されます。「ハードウェアの追加と削除ウィザード - ハードウェアの選択」ダイアログボックスが表示されます。

6. [新しいデバイスの追加] オプションをクリックします。

7. [次へ] をクリックします。

「ハードウェアの追加と削除ウィザード - 新しいハードウェアの検索」ダイアログボックスが表示されます。

8. [いいえ、一覧からハードウェアを選択します] ラジオボタンをクリックします。

9. [次へ] をクリックします。

「ハードウェアの追加と削除ウィザード - ハードウェアの種類」ダイアログボックスが表示されます。

10. [ネットワークアダプタ] オプションをクリックします。

11. [次へ] をクリックします。

「ハードウェアの追加と削除ウィザード - ネットワークアダプタの選択」ダイアログボックスが表示されます。

12. [ディスク使用] をクリックします。

13. [参照] をクリックします。

14. `c:\%sun%\sunnet%\win2k%\sunndis.inf.` を選択します。

「ファイルの場所」ダイアログボックスが表示されます。

15. [開く] をクリックします。

「ディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。

16. [OK] をクリックします。

「ネットワークアダプタの選択」ダイアログボックスが表示されます。

17. 「ネットワークアダプタの選択」ダイアログボックスで [次へ] をクリックします。

「ハードウェアの追加と削除ウィザード - ハードウェアのインストールの開始」ダイアログボックスが表示されます。

18. [次へ] をクリックします。

「ハードウェアの追加と削除ウィザードの完了」ダイアログボックスが表示され、ハードウェアのインストールが終了します。

19. [完了] をクリックします。

コンピュータを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[はい] を選択して構成を終了します。

ネットワークで仮想アダプタ機能を有効にするには、81 ページの『Windows 2000 でネットワークを構成する方法』の手順を実行する必要があります。

▼ Windows 2000 でネットワークを構成する方法

仮想または物理ネットワークアダプタを構成して Windows 2000 を再起動した後、TCP/IP を使用するようにアダプタの 1 つを構成する必要があります。Windows 2000 に再度ログインし、ここで説明する手順に従ってください。



注意 – 仮想および物理ネットワークアダプタを同時に有効にしないでください。次の手順を実行する前に、仮想または物理アダプタのいずれかを無効にしたことを確認してください。

1. [スタート] メニューから [設定] を選択し、[ネットワークとダイヤルアップ接続] を選択します。

「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、[新しい接続の作成]、[ローカルエリア接続]、[ローカルエリア接続 2] の 3 つのアイコンが表示されます。

参照 – この操作を実行するのが初めてではない場合は、ウィンドウにはこの 3 つ以外のアイコンが表示されることがあります。

2. [ローカルエリア接続] または [ローカルエリア接続 2] を右クリックします。
2 つの接続の選択は、どちらの Ethernet アダプタが有効になっているかによります。「状態」ウィンドウが表示されます。ドロップダウンメニューが表示されます。
3. [プロパティ] をクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. [インターネットプロトコル (TCP/IP)] をダブルクリックします。
「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
5. 37 ページの『TCP/IP プロパティの設定方法』の説明に従い、SunPCi III カードの TCP/IP を設定します。
必要に応じて、Windows 2000 のマニュアルを参照してください。
6. TCP/IP の設定が完了したら、[OK] をクリックして「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。
7. [OK] をクリックして「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。

8. 「ネットワークとダイアルアップ接続」ウィンドウを閉じます。
9. [はい] をクリックして Microsoft Windows を再起動します。

注 – ダイアログボックスに「Sunndis failed to start」というメッセージが表示される場合、メッセージを無視して [OK] をクリックします。DHCP ネットワークが無効になっている場合に、このメッセージが表示されることがあります。

▼ 物理 Ethernet のネットワークアダプタを再構成する方法

物理ネットワークアダプタを再度有効にする必要がある場合は、次の手順に従います。



注意 – 仮想および物理ネットワークアダプタを同時に有効にしないでください。次の手順を実行する前に、仮想アダプタを無効にしたことを確認してください。

1. Windows 2000 のデスクトップで、[マイコンピュータ] を右クリックします。
ドロップダウンメニューが表示されます。
2. [プロパティ] を選択します。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. [ハードウェア] タブをクリックします。
4. [デバイスマネージャ] をクリックします。
[デバイスマネージャ] ウィンドウが開き、コンピュータにインストールされたデバイスドライバのリストが表示されます。
5. コンピュータ名をクリックします。
6. [ネットワークアダプタ] をダブルクリックします。
7. 仮想ネットワークに静的 IP アドレスを構成した場合は、77 ページの『静的 IP アドレスを削除する方法』の手順を実行してください。
8. SunNDIS Virtual Adapter を右クリックします。

9. [無効] をクリックします。

このデバイスを無効にすると機能が停止するという内容のメッセージがダイアログボックスに表示されます。

10. [はい] をクリックします。

11. VIA PCI 10/100 Mb Ethernet Adapter を右クリックします。

ドロップダウンメニューが表示されます。

12. [有効] を選択します。

13. 「デバイスマネージャ」ウィンドウを閉じます。

14. [OK] をクリックして、「システムのプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。

ネットワークで TCP/IP を使用するよう物理アダプタを有効にするには、81 ページの『Windows 2000 でネットワークを構成する方法』の手順を実行する必要があります。

▼ 外部ビデオドライバを構成する方法: Windows 2000

外部モニタを使用するには、モニタを SunPCi III メインカードの背面板に接続し、外部ビデオドライバをインストールする必要があります。



注意 – 内部および外部モニタを同時に有効にしないでください。SunPCi III 3.0 ソフトウェアはマルチヘッド機能をサポートしていません。

1. モニタを SunPCi III メインカードの背面板にある外部ビデオポートコネクタに接続します。

外部ビデオポートの場所については、図 10-1を参照してください。

2. SunPCi III ソフトウェアを起動します。

3. Windows 2000 のデスクトップで、[マイコンピュータ] を右クリックします。

ドロップダウンメニューが表示されます。

4. [管理] を選択します。

「コンピュータの管理」ウィンドウが表示されます。

5. [デバイスマネージャ] をダブルクリックします。

6. [ディスプレイアダプタ] をダブルクリックします。
使用可能なディスプレイアダプタのリストが表示されます。
7. S3 Graphic ProSavage DDR (No driver installed) をダブルクリックします。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
8. [ドライバ] タブをクリックします。
9. [ドライバの更新] をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
10. [次へ] をクリックします。
11. [デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)] ラジオボタンをクリックします。
12. [次へ] をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード - ドライバファイルの特定」ダイアログボックスが表示されます。
13. [フロッピーディスクドライブ] および [CD-ROM ドライブ] チェックボックスをオフにします。
14. [場所を指定] チェックボックスをオンにします。
15. [次へ] をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
16. [参照] をクリックします。
17. c:\¥sun¥viavideo¥WIN2K¥PS5333.inf. を選択します。
「ファイルの場所」ダイアログボックスが表示されます。
18. [開く] をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスで、選択したパスが表示されます。
19. [OK] をクリックします。
「ドライバファイルの検索結果」ウィンドウが表示されます。
20. [別のドライバを 1 つインストールする] チェックボックスをオンにします。

21. [次へ] をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード - 検出されたドライバファイル」ウィンドウが表示されます。
22. S3 Graphics ProSavage DDR をクリックします。
23. [次へ] をクリックします。
インストールが終了したら、完了したことを知らせるメッセージがウィンドウに表示されます。
24. [完了] をクリックし、「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ウィンドウを閉じます。
25. 「S3 Graphics ProSavage DDR のプロパティ」ウィンドウで [閉じる] をクリックします。
システムを再起動してハードウェアの変更を有効にするかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
26. [いいえ] をクリックします。
27. 「コンピュータの管理」ウィンドウを閉じます。
28. [スタート] メニューから [シャットダウン] を選択します。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
29. [OK] をクリックします。
30. SunPCi の [ファイル] メニューから [終了] を選択します。
「SunPCi の終了」ダイアログボックスが表示されます。
31. [今すぐ終了] をクリックします。
SunPCi が終了します。
32. Solaris システムプロンプトで `-v` オプションを使用し、SunPCi III ソフトウェアを再起動します。

```
% /opt/SUNWspci3/bin/sunpci -v
```

注 -v オプションを使用しないと、Sun のディスプレイはスクランブル表示されます。

SunPCi III ソフトウェアが起動し、Windows 2000 はまず外部モニタに表示され、その後ワークステーションモニタの SunPCi III ウィンドウに表示されます。次に、以下の手順の説明に従って Windows 2000 のディスプレイを構成します。

▼ Windows 2000 で外部モニタの使用を構成する方法

Windows 2000 でのディスプレイ構成についての詳細は、Windows 2000 のマニュアルを参照してください。

1. Windows 2000 のデスクトップ上で、マウスを右クリックします。

ドロップダウンメニューが表示されます。

2. [プロパティ] を選択します。

「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3. [設定] タブをクリックします。

注 -1 と 2 の番号が付いた 2 つのディスプレイがウィンドウに表示されています。ビデオ 2 がハイライトされており、これがメインのディスプレイ (システムモニタ) であることを示しています。ビデオ 1 は淡色表示されており、メインのディスプレイではないことを示しています。

4. ビデオ 1 をクリックします。

ビデオの下にリストされるドライバが、S3 Graphics ProSavage DDR のデフォルトモニタに変更されます。

5. [Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする] の横にあるチェックボックスをオンにします。

6. [このデバイスをプライマリモニタとして使用する] の横にあるチェックボックスをオンにします。

7. ビデオ 2 をクリックします。

ビデオの下にリストされたドライバが、Sun Microsystems SunPCi ビデオドライバに戻ります。

8. [Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする] の横にあるチェックボックスをオフにします。

ビデオ 1 とビデオ 2 を示すアイコンの場所が変更され、ビデオ 1 が最初に表示されます。

9. [適用] をクリックします。

これで外部モニタが Windows 2000 で有効になります。内部モニタには空の SunPCi ウィンドウが表示され、タイトルバーには [Video routed to external monitor] と表示されます。

10. [OK] をクリックして、「画面のプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。

これで Windows 2000 で外部ビデオを使用することができます。詳細については、Windows 2000 のマニュアルを参照してください。

注 – Windows 2000 と外部モニタで最高の性能を得るためには、SunPCi III カードのシリアル/パラレル用背面板にあるシリアルポートにシリアルマウスを接続します。

▼ ディスプレイを外部モニタからシステムモニタへ戻す方法

1. Windows 2000 のデスクトップ上で、マウスを右クリックします。

ドロップダウンメニューが表示されます。

2. [プロパティ] を選択します。

「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3. [設定] タブをクリックします。

4. ビデオ 2 をクリックします。

ビデオの下にリストされるドライバが、Sun Microsystems on SunPCi video のデフォルトモニタに変更されます。

5. [Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする] の横にあるチェックボックスをオンにします。

6. [このデバイスをプライマリモニタとして使用する] の横にあるチェックボックスをオンにします。

7. **ビデオ 1 をクリック**します。

ビデオの下にリストされたドライバが、Sun Microsystems SunPCi ビデオドライバに戻ります。

8. **[Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする]**の横にある**チェックボックス**をオフにします。

9. **[適用]** をクリックします。

これで内部モニタが Windows 2000 で有効になります。

10. **[OK]** をクリックして、「**画面のプロパティ**」ダイアログボックスを閉じます。

これで Windows 2000 で外部ビデオを使用することができます。詳細については、Windows 2000 のマニュアルを参照してください。

注 – Windows 2000 と外部モニタで最高の性能を得るためには、SunPCi III カードのシリアル/パラレル用背面板にあるシリアルポートにシリアルマウスを接続します。

▼ マウスキー機能の構成方法

Windows 2000 Professional の内部モニタでマウスキー機能を使用するには、次の手順に従います。

1. Windows 2000 Professional の **[スタート]** メニューから **[設定]**、**[コントロールパネル]** を選択します。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2. **[画面]** アイコンをダブルクリックします。

3. **[設定]** タブをクリックします。

4. **[画面の色]** グループボックスの **[True Color (24 ビット)]** オプションをクリックします。

5. **[OK]** をクリックして、「**画面のプロパティ**」ダイアログボックスを閉じます。

6. **[マウス]** アイコンをダブルクリックします。

7. **[ポインタ]** タブをクリックします。

8. **[ポインタの影を有効にする]** チェックボックスをオンにします。

9. [OK] をクリックして、「マウスのプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。
10. [ユーザー補助のオプション] アイコンをダブルクリックします。
11. [マウス] タブをクリックします。
12. [マウスキー機能を使う] チェックボックスをオンにします。
13. [OK] をクリックして、「ユーザー補助のオプション」ダイアログボックスを閉じます。
14. 「コントロールパネル」を閉じます。
15. キーボードの矢印キーを使用して、画面のカーソルを移動します。

サポートされる別のバージョンの Microsoft Windows オペレーティングシステムでは、内部モニタ上で「ユーザー補助のオプション」は使用できません。「ユーザー補助のオプション」は Sun システムで使用できる場合があります。詳細については販売担当者に問い合わせてください。

外部モニタとシリアルマウスを使用している場合は、サポートされる Microsoft Windows オペレーティングシステムでマウスキーが使用できます。使用する Microsoft Windows オペレーティングシステムで、「コントロールパネル」から「ユーザー補助のオプション」ダイアログボックスを開き、マウスキー機能を有効にします。

注 - [画面のプロパティ] の [設定] タブから [画面の色] グループボックスで [True Color (24 ビット)] を有効にし、[マウスのプロパティ] の [ポインタ] タブから [ポインタの影を有効にする] チェックボックスをオンにする必要があります。

第7章

Windows NT Workstation、Windows NT Server、または Windows NT 4.0 Terminal Server の使用

この章では、SunPCi III 製品で Microsoft Windows NT 4.0 Workstation、Microsoft Windows NT 4.0 Server、および Microsoft Windows NT 4.0 Terminal Server オペレーティングシステムソフトウェアを使用する場合の、インストール方法と構成方法を説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- 『インストール Windows NT』 - 92 ページ
- 『Windows NT での仮想 Ethernet ネットワークの構成』 - 95 ページ

この章では、次の作業を完了する方法について説明します。

- 『カスタムインストールの実行方法』 - 93 ページ
- 『Windows NT の再インストール方法』 - 95 ページ
- 『SunNDIS アダプタのインストール方法』 - 96 ページ
- 『SunNDIS アダプタを削除する方法』 - 97 ページ
- 『外部ビデオを構成する方法: Windows NT』 - 98 ページ
- 『ディスプレイを外部モニタからシステムモニタに戻す方法』 - 101 ページ

この章では、Microsoft Windows NT 4.0 Workstation は Windows NT4 WS、Microsoft Windows NT 4.0 Server は Windows NT4 Server、および Microsoft Windows NT 4.0 Terminal Server は Windows NT4 TS と表記します。またこの章内の項目で Windows NT といった場合には、これら 3 つのオペレーティングシステムすべてを指しています。

参照 - この章では、Windows NT4 Server および Windows NT4 TS ソフトウェアのインストールや構成手順に Windows NT4 WS と異なる点がある場合には、説明の後にサーバー用のヒントが記載されています。

インストール Windows NT

オペレーティングシステムソフトウェアのインストールは、SunPCi [オプション] メニューから [新規エミュレートドライブの作成] を選択してエミュレートドライブを作成する際に行います。13 ページの『エミュレートドライブおよび SunPCi III ソフトウェア』を参照してください。標準の Microsoft インストールスクリプトとは異なるスクリプトを使用してカスタムインストールを実行する場合は、93 ページの『カスタムインストールの実行方法』を参照してください。

参照 – インストールまたはアップグレードを開始する前に、アンチウイルスソフトウェアを無効にしてください。

Windows NT4 Server および Windows NT4 TS に必要なメモリは、接続するユーザーの人数とタイプにより異なります。SunPCi Web サイトの次の URL にあるホワイトペーパーを参照してください。

<http://www.sun.com/desktop/products/sunpci>

インストールに関する注意

インストールを開始する前に、必ず次のメディアと情報を用意してください。

- 市販の Windows NT インストールソフトウェア CD
- 必要に応じて、カスタムインストールスクリプト
- システムにインストールされている各 SunPCi III カードのネットワークシステム名
- システムにインストールされている各 SunPCi III カードでの Windows NT のワークグループまたはドメイン名

▼ カスタムインストールの実行方法



注意 - 「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスでオペレーティングシステムの自動インストールを指定すると、オペレーティングシステムに対応したセットアップファイル、起動ファイル、システムファイル、およびドライバが自動的に検索およびコピーされ、SunPCi ソフトウェアの再起動の際に Windows セットアップが開始します。カスタムインストールスクリプトを使用しない場合は、カスタムインストールを実行しないでください。

1. 新しいエミュレートハードドライブを作成し、DR DOS 7.01 オペレーティングシステムソフトウェアを自動インストールします。

13 ページの『エミュレートドライブおよび SunPCi III ソフトウェア』を参照してください。「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスのオプションを次のように設定します。

- 自動インストールするオペレーティングシステムとして、DR DOS 7.01 を選択します。
- 十分なサイズが確保されていることを確認します。作成した後で必要に応じてドライブを拡張することもできます。
- ドライブを C: ドライブとして接続します。
- 最高の性能を得るために、エミュレートドライブをワークステーションまたはサーバーのローカルハードディスクに作成することをお勧めします。

2. SunPCi III ソフトウェアを再起動するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

SunPCi III ソフトウェアが再起動します。OpenDOS プロンプト (c:¥>) が表示されます。

3. SunPCi III ドライバをインストールします。

Windows NT ファイルのデフォルトの場所は r:¥cdrom¥cdrom0¥i386 です。カスタムインストールを実行するには、/s: スイッチを使用して、カスタムインストールファイルの場所を指定する必要があります。たとえば、Windows NT ディスクイメージが Solaris ディレクトリの /export/home/winnt にある場合は、OpenDOS で R: ドライブからアクセスします。

注 - インストールを開始する前に、インストール CD ファイルの内容を winnt フォルダにコピーします。

次のコマンドを 1 行で入力します。

```
C:> f:%drivers%winnt%setupnt /s:r:%export%home%winnt%i386
```

セットアップには数分間かかります。SunPCi III ソフトウェアにより、次のメッセージが表示されます。

```
Copying Windows Setup files...
Copying Windows Boot files...
Copying Windows System files...
Copying Optional files...
Copying SunPCi Installation files...
```

参照 – Windows NT4 TS のメッセージは多少異なります。

setupnt スクリプトが Windows NT ファイルを C: ドライブにコピーし終わると、SunPCi III ソフトウェアが再起動します。Windows NT のセットアップ画面が表示されます。Windows NT セットアップがファイルのコピーを完了すると、SunPCi III ソフトウェアがもう一度再起動します。

4. SunPCi III ソフトウェアが Windows NT ウィンドウから再起動した後、[オプション] メニューから [マウスの接続] を選択するか、Meta-M を押してマウスを接続します。

これにより、Windows NT のインストール中にマウスが使用できるようになります。インストール中に正しいマウスドライバがインストールされるので、インストール後にマウスを手動で接続する必要はありません。

5. ディレクトリをカスタムインストールスクリプトの場所に変更します。
6. カスタムインストールスクリプトを使用して、インストールを完了します。

▼ Windows NT の再インストール方法



注意 – Windows NT を再インストールする際、自動実行ダイアログボックスの [Windows NT セットアップ] オプションは使用しないでください。このオプションを使用すると、Windows NT のエラーである「ブルースクリーン」が現れ、起動デバイスがアクセス不能であることを示すメッセージが表示されます。

- 標準バージョンの Windows NT を再インストールする場合は、「コントロールパネル」ウィンドウの [アプリケーションの追加と削除] 機能を使用するか、Windows NT の CD を挿入すると表示される自動実行ダイアログボックスを使用します。

Windows NT での仮想 Ethernet ネットワークの構成

SunPCi III ソフトウェアでは、デフォルトで物理 Ethernet ネットワークが有効になっています。物理ネットワークではなく仮想ネットワークを使用する場合、Microsoft Windows で物理 Ethernet アダプタを無効にし、仮想 Ethernet アダプタをインストールする必要があります。この項では、必要な手順を説明します。

注 – システムに複数の SunPCi III カードがインストールされている場合には、仮想ネットワークは SunPCi III ソフトウェアによって無効にされます。



注意 – 仮想および物理ネットワークを同時に有効にしないでください。

物理および仮想 Ethernet ネットワークの詳細については、37 ページの『SunPCi III ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定』を参照してください。

参照 – 仮想 Ethernet は、Microsoft Windows NT 4.0 Terminal Server ではサポートされていません。

SunPCi III ソフトウェアでは、出荷時に VIA PCI 10/100 Mb Fast Ethernet の物理 Ethernet ドライバがデフォルトで有効になっており、Windows NT ネットワークが設定されています。Windows NT で仮想ネットワークを使用するためには、VIA ドライバを無効にして SunNDIS アダプタを有効にする必要があります。

▼ SunNDIS アダプタのインストール方法

注 – Microsoft Windows では、さまざまな方法でソフトウェアをインストールすることができます。Microsoft Windows ソフトウェアをインストールした経験がある場合でも、この項の説明に従ってください。SunPCi III ソフトウェアは、これ以外のインストール方法をサポートしていません。

1. Windows NT の [スタート] メニューから [設定]、[コントロールパネル] を選択します。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. [ネットワーク] をダブルクリックします。
「ネットワーク」ダイアログボックスが表示されます。
3. [アダプタ] タブをクリックします。
ウィンドウ内で VIA PCI 10/100 Mb Fast Ethernet Adapter がハイライトされています。
4. [削除] をクリックします。
このドライバを永久に削除するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
5. [はい] をクリックします。
[アダプタ] タブに戻ります。
6. [追加] をクリックします。
「ネットワークアダプタの選択」ダイアログボックスが表示されます。
7. [ディスク使用] をクリックします。
「ディスクのディレクトリを入力」ダイアログボックスが表示されます。
8. 次のパスを入力します。c:¥sun¥sunnet¥winnt

9. [OK] をクリックします。

「OEM オプションの選択」ダイアログボックスが表示されます。Sun NDIS アダプタが表示されています。

10. [OK] をクリックして Sun NDIS アダプタをインストールします。

インストールが完了すると、「ネットワーク」ダイアログボックスに戻ります。

11. [閉じる] をクリックして、「ネットワーク」ダイアログボックスを閉じます。

「Microsoft TCP/IP のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。37 ページの『TCP/IP プロパティの設定方法』の情報を参照してください。TCP/IP の構成が完了したら、[OK] をクリックします。Windows NT を再起動するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

12. [はい] をクリックします。

Microsoft Windows が再起動し、仮想 Ethernet アダプタが TCP/IP に対して有効になります。

▼ SunNDIS アダプタを削除する方法

SunNDIS ドライバを削除し、VIA PCI 10/100 Mb Fast Ethernet アダプタを復元するには、次の手順を実行します。

1. Windows NT の [スタート] メニューから [設定]、[コントロールパネル] を選択します。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2. [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。

コントロールパネルの「ネットワーク」ウィンドウが表示されます。

3. [アダプタ] タブをクリックします。

ウィンドウ内で SunNDIS Adapter がハイライトされています。

4. [削除] をクリックします。

このドライバを永久に削除するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

5. [はい] をクリックします。

[アダプタ] タブに戻ります。

6. [追加] をクリックします。
「ネットワークアダプタの選択」ダイアログボックスが表示されます。
7. [ディスク使用] をクリックします。
「ディスクのディレクトリを入力」ダイアログボックスが表示されます。
8. 次のパスを入力します。c:\¥sun¥vianet¥winnt
9. [OK] をクリックします。
「OEM オプションの選択」ダイアログボックスが表示されます。VIA PCI Fast Ethernet Adapter ドライバが表示されています。
10. [OK] をクリックして、VIA PCI Fast Ethernet Adapter をインストールします。
インストールが完了すると、コントロールパネルの [ネットワーク] に戻ります。
11. [閉じる] をクリックします。
「Microsoft TCP/IP のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。37 ページの『TCP/IP プロパティの設定方法』の情報を参照してください。TCP/IP の構成が完了したら、[OK] をクリックします。Windows NT を再起動するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
12. [はい] をクリックします。
Microsoft Windows が再起動し、仮想 Ethernet アダプタが TCP/IP に対して有効になります。

▼ 外部ビデオを構成する方法: Windows NT

注 - VGA 画面を起動する際には、Windows NT 起動時の OS Loader 画面を使用しないでください。外部 VGA ドライバをセットアップする際は、この項の手順に従ってください。

外部モニタを使用するには、モニタを接続し、外部ビデオドライバをインストールする必要があります。

注 - 内部および外部モニタを同時に有効にしないでください。SunPCi III 3.0 ソフトウェアはマルチヘッド機能をサポートしていません。

1. モニタを SunPCi III メインカードの背面板にある外部ビデオポートコネクタに接続します。
外部ビデオポートの場所については、図 10-1を参照してください。
2. SunPCi ソフトウェアを起動します。
3. Windows NT の [スタート] メニューから [設定]、[コントロールパネル] を選択します。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
4. [画面] アイコンをダブルクリックします。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
5. [設定] タブをクリックします。
6. [ディスプレイの種類] をクリックします。
「ディスプレイの種類」ダイアログボックスが表示されます。



注意 – 「ディスプレイの種類」ダイアログボックスで [検出] ボタンはクリックしないでください。[検出] ボタンをクリックすると、SunPCi ソフトウェアが再起動します。

7. [変更] をクリックします。
「ディスプレイの変更」設定ダイアログボックスが表示されます。

これでこの作業の第 1 段階を完了しました。続いて次の手順を実行して、外部ビデオの構成を完了します。
1. [ディスク使用] をクリックします。
「ディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。
2. [参照] をクリックします。
「ファイルの場所」ダイアログボックスが表示されます。
3. `c:\sun\via\video\winnt\Ps5333ut.inf` を選択します。
4. [OK] をクリックします。
「ディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。
5. [OK] をクリックします。
「ディスプレイの変更」ダイアログボックスが表示され、S3 Graphics PM4266 がハイライトされています。

6. [OK] をクリックします。

ダイアログボックスが開き、「サードパーティドライバをインストールしようとしています。」というメッセージが表示されます。

7. [はい] をクリックします。

プログラムによってドライバがインストールされると、ダイアログボックスが開き、「ドライバが正常にインストールされました。」というメッセージが表示されます。

8. [OK] をクリックします。

9. [閉じる] をクリックして、「ディスプレイの種類」ウィンドウを閉じます。

10. [閉じる] をクリックして、「ディスプレイのプロパティ」ウィンドウを閉じます。

Windows NT によりコンピュータを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

11. [いいえ] をクリックします。

12. Windows NT をシャットダウンします。

13. SunPCi の [ファイル] メニューから [終了] を選択します。

「SunPCi の終了」ダイアログボックスが表示されます。

14. [今すぐ終了] をクリックします。

SunPCi がシャットダウンします。

15. Solaris システムプロンプトで `-v` オプションを使用し、SunPCi III ソフトウェアを再起動します。

```
% /opt/SUNWspci3/bin/sunpci -v
```

外部モニタに Windows NT 画面が表示されます。モニタの解像度と色深度の詳細については、165 ページの『ビデオディスプレイの問題』を参照してください。

注 – 表示モードを変更するたびに (システムディスプレイから外部へ、またはその逆)、Windows NT をシャットダウンし SunPCi ソフトウェアをリセットする必要があります。SunPCi ソフトウェアを再起動すると、モニタの適切なディスプレイドライバがロードされます。

▼ ディスプレイを外部モニタからシステムモニタに戻す方法

1. SunPCi ソフトウェアを起動します。
2. Windows NT の [スタート] メニューから [設定]、[コントロールパネル] を選択します。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
3. [画面] アイコンをダブルクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. [設定] タブをクリックします。
5. [ディスプレイの種類] をクリックします。
「ディスプレイの種類」ダイアログボックスが表示されます。



注意 – 「ディスプレイの種類」ダイアログボックスで [検出] ボタンはクリックしないでください。[検出] ボタンをクリックすると、SunPCi ソフトウェアが再起動します。

6. [変更] をクリックします。
「ディスプレイの変更」ダイアログボックスが表示されます。

これでこの作業の第 1 段階を完了しました。続いて次の手順を実行して、外部ビデオの構成を完了します。

1. [ディスク使用] をクリックします。
「ディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。
2. [参照] をクリックします。
「ファイルの場所」ダイアログボックスが表示されます。
3. `c:\¥sun¥viavideo¥winnt¥Ps5333ut.inf` を選択します。
4. [開く] をクリックします。
「ディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。
5. [OK] をクリックします。
「ディスプレイの変更」ダイアログボックスが表示され、S3 Graphics PM4266 がハイライトされています。

6. [OK] をクリックします。

ダイアログボックスが開き、「サードパーティドライバをインストールしようとしています。」というメッセージが表示されます。

7. [はい] をクリックします。

プログラムによってドライバがインストールされると、ダイアログボックスが開き、「ドライバが正常にインストールされました。」というメッセージが表示されます。

8. [OK] をクリックします。

これで外部ビデオの設定を完了するために必要な手順のほとんどを完了しました。残りの手順はシステムのシャットダウンと再起動です。

9. [閉じる] をクリックして、「ディスプレイの種類」ウィンドウを閉じます。

10. [閉じる] をクリックして、「ディスプレイのプロパティ」ウィンドウを閉じます。

Windows NT によりコンピュータを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

11. [いいえ] をクリックします。

12. Windows NT をシャットダウンします。

13. SunPCi の [ファイル] メニューから [終了] を選択します。

「SunPCi の終了」ダイアログボックスが表示されます。

14. [今すぐ終了] をクリックします。

SunPCi がシャットダウンします。

注 – モニタの解像度またはディスプレイの色深度を変更する前に、実行しているアプリケーションをすべてシャットダウンし、作業を保存してください。適用する前に新しい設定をテストする必要はありません。

第8章

Windows 98 の使用

この章では、SunPCi III 製品で Microsoft Windows 98 Second Edition オペレーティングシステムソフトウェアを使用する場合の、インストール方法と構成方法を説明します。

注 – SunPCi III 3.0 は Microsoft Windows 98 のオリジナルリリースをサポートしていません。SunPCi III 3.0 で正しく使用するには、Microsoft Windows 98 Second Edition (SE) をインストールする必要があります。

この章では、次の項目について説明します。

- 『インストール Windows 98』 - 104 ページ
- 『Windows 98 でのネットワークの構成』 - 105 ページ

この章では、次の作業を完了する方法について説明します。

- 『Windows 98 の再インストール方法』 - 104 ページ
- 『Windows 98 での物理 Ethernet ネットワークの構成』 - 105 ページ
- 『Windows 98 での仮想 Ethernet ネットワークの構成』 - 106 ページ
- 『外部ビデオを構成する方法: Windows 98』 - 107 ページ
- 『ディスプレイを外部モニタからシステムモニタへ戻す方法』 - 108 ページ

この章では、Microsoft Windows 98 Second Edition を Windows 98 と表記します。

注 – これ以降の項で説明される手順を実行する前に、スーパーユーザーではなく通常のユーザーとしてシステムにログインしていることを確認してください。

インストール Windows 98

オペレーティングシステムソフトウェアのインストールは、SunPCi の [オプション] メニューから [新規エミュレートドライブの作成] を選択してエミュレートドライブを作成する際に行います。13 ページの『エミュレートドライブおよび SunPCi III ソフトウェア』を参照してください。

参照 – インストールまたはアップグレードを開始する前に、アンチウイルスソフトウェアを無効にしてください。

インストールに関する注意

インストールを開始する前に、必ず次のメディアと情報を用意してください。

- 市販の Windows 98 インストールソフトウェア CD
- システムにインストールされている各 SunPCi III カードのネットワークシステム名
- システムにインストールされている各 SunPCi III カードでの Windows 98 のワークグループまたはドメイン名

▼ Windows 98 の再インストール方法

- Windows 98 を再インストールする場合は、「コントロールパネル」ウィンドウの [アプリケーションの追加と削除] 機能を使用するか、Windows 98 の CD を挿入すると表示される自動実行ダイアログボックスを使用します。

Windows 98 でのネットワークの構成

Windows 98 でネットワークを構成するには、次の項で説明する方法のうちいずれかを選択します。

▼ Windows 98 での物理 Ethernet ネットワークの構成

1. Windows 98 CD を CD-ROM ドライブに挿入します。

CD は自動的にマウントされ、SunPCi III Solaris ウィンドウが表示されます。このウィンドウが表示されない場合は、Solaris ボリュームマネージャーが有効になっていない可能性があります。117 ページの『CD-ROM ドライブをマウントする方法』を参照してください。

2. SunPCi ソフトウェアを起動します。
3. Windows 98 の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。
4. 「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスに次のパスを入力します。

```
f:¥drivers¥win98¥setup
```

5. [OK] をクリックします。
SunPCi のセットアップウィンドウが表示されます。
6. [ネットワークコントローラの種類の変更] の横にあるラジオボタンをクリックします。
7. [次へ] をクリックします。
「使用するアダプタの選択」ダイアログボックスが表示されます。
8. [ソフトウェアエミュレーション] の [ワークステーションアダプタ] の横にあるラジオボタンをクリックします。
9. [次へ] をクリックします。
「Windows の再起動」ダイアログボックスが表示されます。
10. [コンピュータを今すぐ再起動する] の横にあるラジオボタンをクリックします。

11. [OK] をクリックします。
SunPCi ソフトウェアが再起動します。
12. Windows 98 が再起動されたら、Microsoft Windows のマニュアルに従って TCP/IP を構成します。
これで、SunPCi III 製品で Windows 98 を使用することができます。

▼ Windows 98 での仮想 Ethernet ネットワークの構成

1. Windows 98 CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
CD は自動的にマウントされ、SunPCi III Solaris ウィンドウが表示されます。このウィンドウが表示されない場合は、Solaris ボリュームマネージャーが有効になっていない可能性があります。117 ページの『CD-ROM ドライブをマウントする方法』を参照してください。
2. SunPCi ソフトウェアを起動します。
3. Windows 98 の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。
4. 「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスに次のパスを入力します。

```
f:¥drivers¥win98¥setup
```

5. [OK] をクリックします。
SunPCi のセットアップウィンドウが表示されます。
6. [ネットワークコントローラの種類の変更] の横にあるラジオボタンをクリックします。
7. [次へ] をクリックします。
8. [ハードウェア] の [SunPCi アダプタ] の横にあるラジオボタンをクリックします。
9. [次へ] をクリックします。
「Windows の再起動」ウィンドウが表示されます。
10. [コンピュータを今すぐ再起動する] の横にあるラジオボタンをクリックします。

11. [OK] をクリックします。

SunPCi ソフトウェアが再起動します。

12. Microsoft Windows のマニュアルに従って TCP/IP を構成します。

これで、SunPCi III 製品で Windows 98 を使用することができます。

▼ 外部ビデオを構成する方法: Windows 98

1. モニタを SunPCi III メインカードの背面板にある外部ビデオポートコネクタに接続します。

外部ビデオポートの場所については、図 10-1を参照してください。

2. SunPCi ソフトウェアを起動します。

3. Windows 98 の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。

「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。

4. 「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスに次のパスを入力します。

```
f:¥drivers¥win98¥setup
```

5. [OK] をクリックします。

SunPCi のセットアップウィンドウが表示されます。

6. [ディスプレイの種類の変更] の横にあるラジオボタンをクリックします。

7. [次へ] をクリックします。

「使用するモニタの選択」ダイアログボックスが表示されます。

8. [外部モニタ] の横にあるラジオボタンをクリックします。

9. [次へ] をクリックします。

「ドライバ情報データベースの作成」ダイアログボックスが表示され、終了します。

SunPCi ダイアログボックスに、セットアップがモニタの種類の更新を完了し、再起動するメッセージが表示されます。

10. [完了] をクリックします。

SunPCi の初期画面が表示されます。

11. SunPCi の [ファイル] メニューから [終了] を選択します。
「SunPCi の終了」ダイアログボックスが表示されます。
12. [今すぐ終了] をクリックします。
SunPCi が終了します。
13. Solaris システムプロンプトで -v オプションを使用し、SunPCi ソフトウェアを再起動します。

```
% /opt/SUNWspci3/bin/sunpci -v
```

外部モニタに Windows 98 画面が表示されます。モニタの解像度と色深度の詳細については、165 ページの『ビデオディスプレイの問題』を参照してください。

▼ ディスプレイを外部モニタからシステムモニタへ戻す方法

1. SunPCi ソフトウェアを起動します。
2. Windows 98 の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。
3. 「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスに次のパスを入力します。

```
f:¥drivers¥win98¥setup
```

4. [OK] をクリックします。
SunPCi のセットアップウィンドウが表示されます。
5. [ディスプレイの種類の変更] の横にあるラジオボタンをクリックします。
6. [次へ] をクリックします。
「使用するモニタの選択」ダイアログボックスが表示されます。
7. [システムモニタ] の横にあるラジオボタンをクリックします。

8. [次へ] をクリックします。

「ドライバ情報データベースの作成」ダイアログボックスが表示され、終了します。
SunPCi ダイアログボックスに、セットアップがモニタの種類の更新を完了し、Microsoft Windows をシャットダウンするメッセージが表示されます。

9. [完了] をクリックします。

SunPCi の初期画面が表示されます。

10. SunPCi の [ファイル] メニューから [終了] を選択します。

「SunPCi の終了」ダイアログボックスが表示されます。

11. [今すぐ終了] をクリックします。

SunPCi が終了します。

第9章

サーバーソフトウェアの インストールと構成

この章では、SunPCi サーバーインストールの使用と構成の問題について説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- 『SunFSD を使用した Solaris と Microsoft Windows の間の割り当て』 - 112 ページ

この章では、次の作業を完了する方法について説明します。

- 『SunFSD 割り当てを有効にする方法』 - 113 ページ
- 『SunFSD 割り当てを無効にする方法』 - 114 ページ

次の情報は、Solaris オペレーティング環境で SunPCi III 3.0 ソフトウェアを使用し、サポートされている Microsoft Windows サーバーオペレーティングシステムを構成、インストールする際の注意事項です。

このサーバーに関する情報は、Windows NT および Windows 2000 に該当します。

SunPCi III メモリ、CPU、およびベンチマークの情報に関するさらに詳しい SunPCi III サーバーサポートは、SunPCi Web サイトの次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/desktop/products/sunpci>

注 - 命名規則のため、CD-ROM ドライブを SunFSD (¥¥localhost¥cdrom¥cdrom0) にマウントすると、一部のアプリケーションでファイルを検索できない場合があります。

SunFSD を使用した Solaris と Microsoft Windows の間の割り当て

SunPCi III 3.0 ソフトウェアパッケージには Sun ファイルシステムドライバ (SunFSD) が含まれ、これが Microsoft Windows ドライブ文字を Solaris ディレクトリに割り当てます。

SunPCi III 3.0 のインストールでは、デフォルトで次の Microsoft Windows サーバーソフトウェアの SunFSD 割り当て機能が無効になります。

- Windows NT4 Server
- Windows NT4 TS
- Windows 2000 Server Edition

したがって、Microsoft Windows サーバーソフトウェアのいずれかを実行中は、管理者を含むあらゆるユーザー (またはプログラム) による `\\localhost` ディレクトリの割り当ては失敗します。さらに、Universal Naming Convention (UNC) プリフィックスとして `\\localhost` を含む UNC パスを使用した、ファイルへの参照やアクセスはすべて失敗します。

この割り当ての制御は、セキュリティ上の理由で行われています。SunFSD の現行リリースでは、`\\localhost` を通じての割り当てやファイルアクセスは、SunPCi III ソフトウェアを起動したユーザーまたはプロセスの権限を継承します。したがって、SunPCi III カードで Microsoft Server オペレーティングシステムが実行されている場合に、SunPCi ソフトウェアが root アカウントで起動されると、通常のサーバーユーザーはそのネットワーク内の root 権限を継承してしまいます。

Windows XP Professional、Windows 2000 Professional、および Windows NT4 WS では、SunFSD は有効になっています。これは、これらのオペレーティングシステムを使用する場合にはマルチクライアントファイルシステムのセキュリティ上の問題が存在しないためです。Windows XP Professional、Windows 2000 Professional、および Windows NT4 WS では、SunPCi の以前のリリースと同様に SunFSD ドライブを割り当てることができます。

Solaris ディレクトリへのアクセスを必要とするサーバーインストールの場合、サーバー管理者はクライアントごとにセキュリティ証明を使用する Solaris PC NetLink や Samba、または Microsoft Windows ドライブ文字をローカルユーザーとして割り当てる Citrix MetaFrame クライアントを使用する必要があります。

注 – Microsoft Windows 互換アプリケーションを SunFSD のマウント位置より下位のディレクトリにインストールすると、一部の古い Microsoft Windows アプリケーションが使用できなくなる場合があります。SunFSD およびその使用中に発生した問題の解決方法については、182 ページの『Solaris ファイルシステムにアプリケーションをインストールする際の問題』を参照してください。

▼ SunFSD 割り当てを有効にする方法

SunFSD は、サーバー管理者のアカウントのみにより、必要に応じてサーバーのインストール中に有効にすることができます。この場合特に注意が必要です。また次に説明するメンテナンス作業の実行後には SunFSD を無効にするのを忘れないでください。

SunFSD 割り当てを有効にするには、サーバー管理者として次の手順を実行します。

- 次の場所にある `fsdon.reg` レジストリファイルをダブルクリックします。

```
C:\¥sun¥sunfsd¥fsdon.reg
```

この作業は、サーバー管理者のアカウントを使用してのみ可能です。サーバークライアント (または権限を持たないプログラム) がレジストリを変更しようとする拒否されます。

SunFSD を有効にすると、その後の `¥¥localhost` プリフィックスを使用した割り当てや参照はすべて成功します。また、サーバーを再起動しても SunFSD は有効になったままです。さらに、SunFSD の有効後に行われた割り当ては、ログオフした後でも、またはシステムを再起動しても、システムのログイン後に再接続されます (再接続されるように構成されている場合)。



注意 – SunFSD が管理者によって有効にされると、あらゆるサーバークライアントやプログラムが SunPCi ソフトウェアを起動したプロセスのセキュリティ証明を使用して Solaris ディレクトリやファイルを割り当てたり、それらにアクセスしたりできるようになります。



注意 – SunFSD が管理者によって無効にされても、割り当てが無効になったドライブを参照することはできません。ドライブの割り当てを解除して再起動するとドライブは無効になりますが、さらに Windows エクスプローラでこのドライブを物理的に割り当て解除する必要があります。

管理者が SunFSD を有効にする主な理由は、ドライバ更新スクリプトやその他の SunPCi から提供されているスクリプトを実行するために SunFSD 機能が**必要**とされるためです。

SunFSD を有効にする前に、管理者はまずクライアントログインを無効にする必要があります。また、更新 (またはその他のアクティビティ) が終了したら、管理者はすべての SunFSD ドライブを削除または割り当て解除し、SunFSD での割り当てを無効にして、システムを再起動する必要があります。

▼ SunFSD 割り当てを無効にする方法

SunFSD 割り当てを無効にするには、サーバー管理者として次の手順を実行します。

- 次の場所にある `fsdoff.reg` レジストリファイルをダブルクリックします。

```
C:\¥sun¥sunfsd¥fsdoff.reg
```

一旦 SunFSD 割り当てを無効にすると、その後の ¥¥localhost プリフィックスを使用した割り当てや参照はすべて失敗します。また、サーバーを再起動しても SunFSD 割り当ては**無効になったまま**です。したがって、SunFSD 割り当てを無効にする前に成功した SunFSD ディレクトリ割り当てがあった場合でも、システムの再起動後にはその割り当ては**使用できません**。

第10章

ドライブの使用と周辺装置の構成

この章では、SunPCi で使用できる周辺装置およびドライブについて説明します。

この章では、次の一般的な項目について説明します。

- 『SunPCi III ソフトウェアでのフロッピーディスクドライブの使用』 - 116 ページ
- 『SunPCi III ソフトウェアでの CD/DVD ドライブの使用』 - 117 ページ
- 『周辺装置の接続』 - 119 ページ
- 『追加の USB および 1394 Firewire デバイスの接続』 - 122 ページ
- 『シリアルポートおよびパラレルポートデバイスの接続』 - 124 ページ
- 『シリアルデバイスの接続』 - 125 ページ

この章では、次の作業を完了する方法について説明します。

- 『CD-ROM ドライブをマウントする方法』 - 117 ページ
- 『CD-ROM ドライブから CD を取り出す方法』 - 119 ページ
- 『外部モニタのシリアルマウスを構成する方法』 - 125 ページ



注意 – SunPCi III ソフトウェアは bsmconv (1M) 実行後のシステムと互換性がありません。特に、デバイス割り当て機能が vold の使用、フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブ、および SunPCi III でのオーディオと互換性がありません。

SunPCi III ソフトウェアでのフロッピーディスクドライブの使用

使用しているシステムにフロッピーディスクドライブが内蔵されている場合、Microsoft Windows ではこのドライブが A: ドライブとして認識されます。

ほとんどの Sun システムにはフロッピーディスクドライブが 1 台搭載されています。内蔵フロッピーディスクドライブが搭載されていない UltraSPARC システムを使用している場合、フロッピーディスクからデータをコピーするには、フロッピーディスクドライブを取り付ける必要があります。

システムで Solaris ボリュームマネージャー (vold プロセス) を実行している場合、SunPCi III 3.0 ソフトウェアでフロッピーディスクを使用するためには、フロッピーディスクに対するボリュームマネージャーのコントロールを無効にする必要があります。この操作を実行するには、root としてログインする必要があります。vold を無効にして SunPCi III でフロッピーディスクドライブを使用するには、root 権限で SunPCi III ソフトウェアを起動する前に Solaris プロンプトでスクリプト

`/opt/SUNWspci3/bin/vold_floppy_disable` を実行します。この手順を実行しないと、フロッピーディスクドライブを A: ドライブとして使用することはできません。

注 - フロッピーディスクが A: ドライブに挿入されている場合は、コマンドラインオプション `eject` を使用した後で、システムからフロッピーディスクを物理的に取り出します。`eject` コマンドを使用しないで取り出すと、フロッピーディスクが正しく機能しなくなる場合があります。

SunPCi III ソフトウェアでの CD/DVD ドライブの使用

SunPCi III ソフトウェアには Microsoft Windows 用のダイレクト CD-ROM ドライバが含まれているため、CD/DVD ドライブを割り当てる必要はありません。エミュレート D: ドライブを作成している場合、CD-ROM ドライブはデフォルトで E: ドライブに割り当てられます。D: ドライブを作成していない場合、CD-ROM ドライブは D: ドライブに割り当てられます。

注 – SunPCi III 3.0 ソフトウェアは、DVD データはサポートしますが、DVD ビデオはサポートしていません。

▼ CD-ROM ドライブをマウントする方法

システムの Solaris ボリュームマネージャー (vold) を無効にしている場合、SunPCi III ソフトウェアで vold を使用するには、このプログラムを有効に戻す必要があります。または、vold を使用せずに、手動で CD-ROM ドライブファイルシステムをマウントすることもできます。

1. ボリュームマネージャーが有効であるかどうかを確認するには、Solaris デスクトップで端末エミュレータを開き、次のように入力します。

```
% ps -df | grep vold
```

有効である場合は、ボリュームマネージャープロセス (vold) に関する情報が返されます。

ワークステーションで Solaris ボリュームマネージャーが有効になっていない場合は、スーパーユーザーとしてログインし、次の手順に従って CD-ROM ドライブを手動でマウントする必要があります。

vold が無効である場合は、次の例のように、grep プロセスの情報のみが返され、vold プロセスの情報は返されません。

```
ユーザー名 2698 1934 0 10:34:01 pts/s 0:00 grep vold
```

上記の例では、vold に関して表示される情報が `grep vold` のみであるため、ボリュームマネージャーは有効になっていません。ボリュームマネージャーが有効である場合は、追加の行と別のプロセス ID (上記の `grep` の例では 2698) が表示されます。

ワークステーションの Solaris ボリュームマネージャーが有効である場合は、この手順の残りの部分を省略してください。

2. Solaris ボリュームマネージャーが有効になっていない場合は、次のコマンドとルートパスワードを入力し、スーパーユーザーとしてログインします。

```
% su
パスワード
```

3. 次のいずれかのコマンドを入力します。

- CD-ROM ドライブが SCSI ドライブである場合は、ワークステーションの端末エミュレータに次のコマンドを入力して CD-ROM ドライブをマウントします。

```
# mount -o ro -F hsfs /dev/dsk/c0t6d0s2 /cdrom
```

注 – マイナス記号とアルファベット o の間にスペースを挿入せずに `-o` と入力してください。

- CD-ROM ドライブが IDE ドライブである場合は、次のように入力します。

```
# mount -o ro -F hsfs /dev/dsk/c0t2d0s2 /cdrom
```

CD-ROM ドライブの種類や、ドライブがサポートするファイルシステムを確認するには、ハードウェアプラットフォームのマニュアルを参照してください。

4. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザーのセッションを終了します。

```
# exit
```

▼ CD-ROM ドライブから CD を取り出す方法

- CD-ROM ドライブから CD を取り出すには、[オプション] メニューから [CD の取り出し] を選択するか、または Solaris ウィンドウフォーカスが SunPCi III ウィンドウにある状態で Meta-E を押します。

周辺装置の接続

SunPCi III メインカードの背面板には、LED インジケータが 1 つ、オーディオポートが 2 つ、USB (ユニバーサルシリアルバス) 2.0 ポートが 1 つ、Ethernet コネクタが 1 つ、および外部ビデオポートが 1 つあります。

LED インジケータの使用

LED インジケータにより、SunPCi カードの状態を視覚で確認することができます。LED インジケータは SunPCi III メインカード背面板の上にあります。LED が特に便利なのはシステムに複数の SunPCi カードがインストールされている場合で、使用中のカードや各カードの状態を確認することができます。

次の表では、通常操作時の LED インジケータの状態を説明します。

表 10-1 LED の色と状態

色	状態
緑の点灯	SunPCi の動作は正常。
オレンジの点灯	SunPCi カードに問題あり。システムエラーが発生し、点検が必要です。
オレンジの点滅	SunPCi は動作中または起動中ですが、オレンジの点滅が続く場合は、問題発生可能性があります。
消灯	SunPCi はオフ状態で、動作していません。

次のいずれかの方法によって、LED インジケータを使用してシステムの SunPCi カードを識別することができます。

- SunPCi の実行中は、SunPCi ウィンドウで Meta キーと F キーを同時に押すことによって、セッションを実行中のカードを識別することができます。Meta-F キーを押すたびに、LED インジケータは緑、赤、オレンジの点灯を 1 秒間反復します。
- SunPCi が実行中でない場合は、-f カード名スイッチを使用して、セッションを実行中のカードを識別することができます。「kill -INT pid」コマンドを入力してプロセスを停止するまで、LED インジケータは緑、赤、オレンジの点灯を反復します。card1 などの各カードを指定して、このプロセスを使用しているカードを識別します。

オーディオデバイスの接続

SunPCi III オーディオポートでは、オーディオがワークステーションのスピーカに出力されません。オーディオを聴くには、別のスピーカーやヘッドフォンをライン出力ステレオポートに接続する必要があります。

USB デバイスの接続

SunPCi III メインカードの背面板には、USB 2.0 ポートが 1 つあります。USB ポートには、デジタルカメラ、外付 CD-RW ドライブ、プリンタなど、さまざまな USB デバイスを接続できます。接続すると、USB デバイスはすぐに動作します。

Windows XP Professional、Windows 2000、および Windows 98 では USB 接続がサポートされていますが、Windows NT は USB および 1394 デバイスをサポートしていません。詳細については、Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。

参照 – USB ポートと Ethernet ポートは隣り合っており、サイズと形が似通っているため、USB デバイスを間違えて Ethernet ポートに差し込む可能性があります。USB デバイスのプラグを Ethernet ポートではなく正しく USB ポートに接続してください。正しく接続しない場合は、Ethernet ポートに障害を与える場合があります。

Ethernet デバイスの接続

SunPCi III メインカードの背面板には Ethernet コネクタが 1 つあり、これを使用してデバイスをネットワークに接続します。

外部モニタの接続

SunPCi III ビデオ端子を使用すると、モニタまたは他のビデオデバイスに接続することができます。

図 10-1は、メインカードの背面板にあるオプションを示したものです。

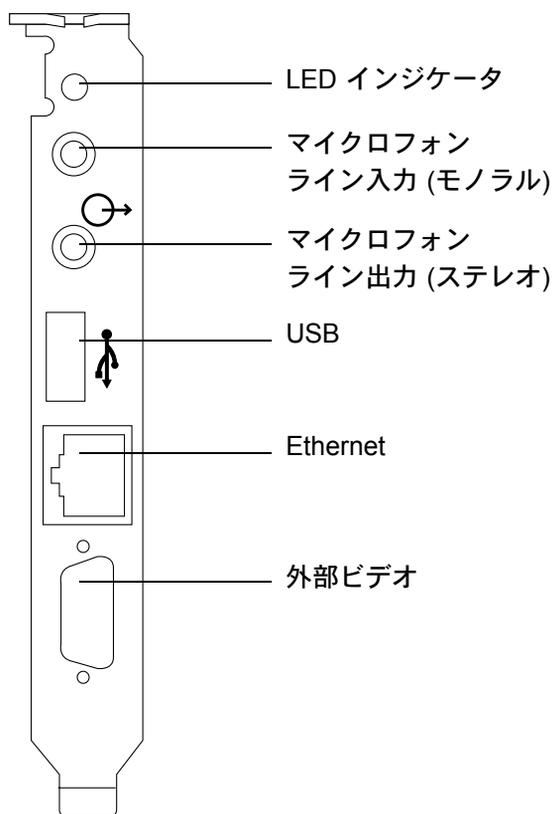


図 10-1 SunPCi III メインカード背面板にあるコネクタ

追加の USB および 1394 Firewire デバイスの接続

SunPCi III メインカードに USB/Firewire 用カードと背面板を追加すると、USB 2.0 ポートを 2 つと 1394a Firewire ポートを 1 つ使用することができます。USB/Firewire 用カードと背面板のインストールはオプションです。

USB デバイスの接続

SunPCi III では、メインカードの背面板に 1 台、USB/Firewire 用背面板に 2 台接続して、合計 3 台の USB デバイスを使用できます。

USB デバイスとの接続には USB 2.0 を使用していますので、以前の USB 1.1 またはパラレルポート接続のデバイスより転送速度がかなり速くなっています。

USB デバイスに関する詳細については、前項120 ページの『USB デバイスの接続』を参照してください。

Firewire デバイスの接続

USB/Firewire 用背面板にある 1394a Firewire デバイスは、プリンタ、ハブ、モデム、デジタルカメラ、および外部 CD-RW ドライブなど、さまざまな種類の周辺装置を接続するためのもうひとつの方法です。

図 10-2は、USB/Firewire 用カードの背面板で使用できるオプションを示したものです。

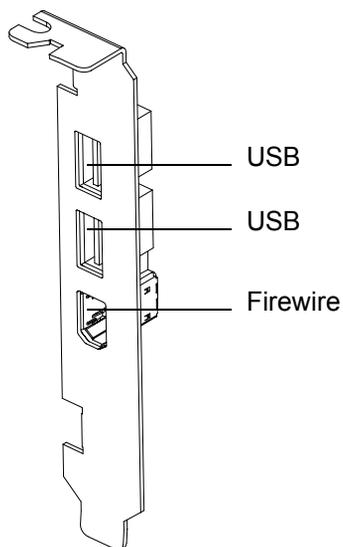


図 10-2 SunPCi III のUSB/Firewire 用カード背面板にあるコネクタ

背面板のインストールについては『SunPCi II クイックスタートインストールガイド』を参照してください。

シリアルポートおよびパラレルポート デバイスの接続

SunPCi III カードにシリアル/パラレルポート用背面板を追加すると、プリンタなどのパラレルデバイスを接続するパラレルポートが1つ、SunPCi III ソフトウェアで使用可能になります。図 10-3は、シリアル/パラレルポート用背面板にあるコネクタを示したものです。この背面板のインストールはオプションです。

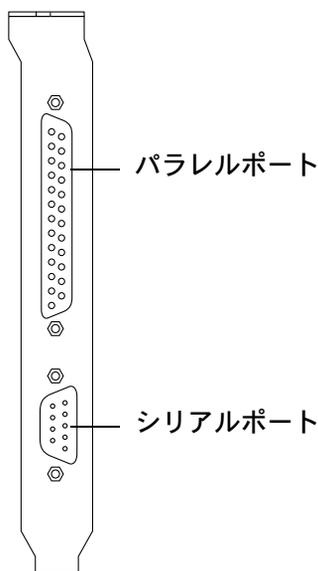


図 10-3 SunPCi III シリアル/パラレルポート用背面板のコネクタ

背面板のインストールについては『SunPCi II クイックスタートインストールガイド』を参照してください。

背面板を取り付けた後で、背面板のパラレルポートにパラレルケーブルを接続します。SunPCi III カードのパラレルポートは LPT1 に割り当てられます。

SunPCi III ソフトウェアのパラレルポートで印刷するには、通常の PC での操作と同様に、PC ベースのアプリケーションの [印刷] コマンドを使用します。

注 - 以上の説明は、SunPCi III カードの平行ポートに接続するローカルプリンタに関するものです。Microsoft Windows オペレーティングシステムで Solaris プリンタを使用する方法については、155 ページの『Solaris プリンタを使用して Microsoft Windows から印刷する』を参照してください。プリンタの詳細については、Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。

シリアルデバイスの接続

シリアル/平行ポート用背面板にはシリアルポートがあり、これを利用して SunPCi III ソフトウェアにモデムやシリアルデバイスを接続できます。このシリアルポートは COM1 に割り当てられます。図 10-3 は、背面板のシリアルポートの位置を示したものです。

シリアルポートを使用するには、デバイスとシリアル/平行ポート用背面板のシリアルポートをシリアルケーブルで接続します。使用するデバイスのドライバを追加してインストールする必要がある場合は、そのソフトウェアのフロッピーディスクまたは CD を手元に準備し、対応するコントロールパネルを使用してドライバをインストールします。シリアルデバイスの接続と使用の詳細については、シリアルデバイスに付属しているマニュアルを参照してください。

▼ 外部モニタのシリアルマウスを構成する方法

1. マウスのコネクタを、シリアル/平行ポート用背面板にあるシリアルコネクタに接続します。
コネクタが背面板にしっかりと接続されていることを確認します。
2. Microsoft Windows の [スタート] メニューから [設定]、[コントロールパネル] を選択します。
3. [ハードウェアの追加] オプションをクリックします。
ウィザードの指示に従って、シリアルマウスをインストールします。

第11章

SunPCi III ソフトウェアの使用

この章では、sunpci コマンドラインオプション、SunPCi III 3.0 グラフィカルユーザインタフェース (GUI) ウィンドウ、メニュー、およびダイアログボックスの使い方について詳しく説明します。また、Intel ドライバの更新、VNC、および拡張ドライブを使用した作業についても説明します。さらに、SunPCi III システムでのプリンタ設定方法についても説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- 『sunpci コマンドとオプション』 - 128 ページ
- 『SunPCi III メニュー』 - 132 ページ
- 『Intel ドライバの更新』 - 134 ページ
- 『Boot@Boot サポート』 - 137 ページ
- 『Boot@Boot サポートの構成と使用』 - 140 ページ
- 『拡張ドライブおよび SunPCi III ソフトウェア』 - 149 ページ
- 『コピーおよび貼り付けコマンドの使用』 - 154 ページ
- 『Solaris プリンタを使用して Microsoft Windows から印刷する』 - 155 ページ
- 『スクリーンセーバーの使用』 - 157 ページ

この章では、次の作業を完了する方法について説明します。

- 『既存の Windows NT、Windows 2000、または Windows XP Professional C: ドライブでの Intel ドライバの手動更新方法』 - 135 ページ
- 『既存の Windows 98 C: ドライブでの Intel ドライバの手動更新方法』 - 136 ページ
- 『リモートクライアントから VNC を操作する方法』 - 148 ページ
- 『Windows 98 で Solaris ファイルおよびディレクトリへアクセスする方法』 - 150 ページ
- 『Windows 98 で長いパス名を持つディレクトリにドライブを割り当てる方法』 - 151 ページ
- 『Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT で Solaris ファイルおよびディレクトリにアクセスする方法』 - 153 ページ

- 『Microsoft Windows と Solaris 間で日本語コピーと貼り付けを可能にする方法』 - 154 ページ
- 『Microsoft Windows から Solaris プリンタを設定する方法』 - 156 ページ

sunpci コマンドとオプション

sunpci コマンドと共にコマンドラインオプションを使用するには、コマンド、ダッシュ、コマンドラインオプションの順に入力し、その後にファイル名、カード名、またはコマンドなど必要な引数を入力します。

次に例を示します。

```
% /opt/SUNWspci3/bin/sunpci -オプション 引数
```

使用するコマンドラインオプションを指定するには、**オプション**を使用します。オプションで使用するファイル名を指定するには、**引数**を使用します。どのオプションでもファイル名が使用できるわけではありません。ダッシュとオプションの間にはスペースを挿入しないでください。

たとえば、SunPCi III ソフトウェアを起動し、ウィンドウのタイトルバーにカスタマイズしたテキストを挿入する場合は次のコマンドを入力します。

```
% /opt/SUNWspci3/bin/sunpci -title "テキスト文字列"
```

デフォルトの C: ドライブ以外の C: ドライブで SunPCi III ソフトウェアを起動するには、次のコマンドを入力します。c. **新規ドライブ**を新しい C: ドライブの名前に置き換えてください。

```
% /opt/SUNWspci3/bin/sunpci -c c.新規ドライブ
```

表 11-1は、使用可能な SunPCi III コマンドラインオプションのリストです。

表 11-1 SunPCi III コマンドラインオプション

オプション	説明
オプションなし	sunpci コマンドにオプションが使用されない場合、SunPCi III によりデフォルトで SunPCi メニューが表示されます。
-B	sunpci -C ディスクイメージ ファイル名および -c カード名 オプションと共に使用される場合、-B オプションは、 カード名 カードの MAC アドレスを ファイル名.ini ファイルヘッダーに書き込み、指定された カード名 の MAC アドレスを ディスクイメージ ファイル名にバインドします。この操作により、ファイルヘッダーにある元の MAC アドレスが上書きされます。以前のバージョンでは、-bindmac オプションでした。 次に示すのは、-B オプションの一般的な使用形式です。 sunpci -C ディスクイメージ -c カード名 -B
-b	起動時の VGA ウィンドウのデフォルトの色深度を、デフォルトで 8 または 24 ビットに変更します。24 ビットに変更すると、カラーマップが点滅する問題を回避でき、NO8BIT オプションで指定しない限り、8 ビットオプションを選択することも可能です。以前のバージョンでは、-depth オプションでした。
-C ディスクイメージ	ディスクイメージ ファイル名を C: ドライブとして使用し、SunPCi III ウィンドウを起動します。これにより、デフォルトのプロパティファイル /\$HOME/pc/SunPC.ini で指定されているデフォルトドライブが無効になります。
-c カード名	カード名 を C: ドライブとして使用して、SunPCi III カードを起動します。 カード名 は、Card1、Card2 などのように SunPCi III ソフトウェアによって割り当てられるラベルです。インストールされているカード名の一覧を表示するには、-l オプションを使用します。複数カードの使用の詳細については、23 ページの『複数の SunPCi III カードの使用』を参照してください。
-D ディスクイメージ	ディスクイメージ ファイル名を D: ドライブとして使用し、SunPCi III ウィンドウを起動します。このオプションにより、デフォルトのプロパティファイル /\$HOME/pc/SunPC.ini で指定されるデフォルトドライブが無効になります。

表 11-1 SunPCi III コマンドラインオプション (Continued)

オプション	説明
-display ホスト名.ドメイン名 :0.0	<p>別のワークステーション (ドメインにあるホスト名) で SunPCi III ウィンドウを表示します。以前のバージョンでは <code>-display</code> オプションでした。たとえば、SunPCi III ウィンドウを <code>eastern</code> ドメインにある <code>willow</code> というシステムで開くには、ワークステーション (SunPCi III 3.0 カードがインストールされているワークステーション) に次のコマンドを入力します。</p> <pre data-bbox="465 456 1132 479">/opt/SUNWspci3/bin/sunpci -d willow.eastern:0.0</pre>
-f	<p>SunPCi III のカード検索 LED 機能を開始します。この機能を有効にすると、LED (緑、赤、オレンジ) の点滅を一定の間隔で数秒間反復します。</p>
-h	<p>SunPCi III コマンドラインのヘルプを表示します。このオプションにより、すべての SunPCi III コマンドラインオプションとその形式の一覧が表示されます。以前のバージョンでは <code>-help</code> オプションでした。</p>
-l	<p>システムにインストールされ、認識されている SunPCi カードを表示します。スイッチは、<code>Card1</code> のようなカード名、<code>/dev</code> ディレクトリ内のデバイスファイル名 (<code>/dev/sunpci2drv0</code> など)、カードの種類と説明、およびカードの標準 Ethernet (MAC) アドレス (ID = <code>08:00:20:F9:5F:2C</code> など) を返します。出力形式の一覧については、28 ページの『カード名の識別方法』を参照してください。</p>
-n	<p>イメージが作成されていないカードでイメージを起動した場合は、カードとディスクイメージの組み合わせの確認を停止し、警告ダイアログボックスの表示を停止します。この警告の全文については、26 ページの『-n オプションを使用した .ini ファイルの作成方法』を参照してください。イメージと現行カードの再バインドについては、-B オプションを参照してください。以前のバージョンでは、<code>-nomac</code> オプションでした。</p>
-n ファイル名 .ini	<p>新しいファイル名.ini と、そのファイル名を組み込んだ新しいディスクイメージを作成します。このコマンドを使用すると、SunPCi III の [Disk Create] メニュー GUI が、デフォルトのディスク名 (<code>\$HOME/pc/C. ファイル名.diskimage</code>) と共に表示されます。ファイルが既に存在する場合には、<code>sunpci</code> コマンドが中止され、ファイル名は作成されません。以前のバージョンでは、<code>-new</code> オプションでした。</p>
-p ファイル名 .ini	<p>ファイル名 で指定したプロパティファイルの構成情報を使用して SunPCi III ソフトウェアを起動します。SunPCi III のデフォルトのプロパティファイルは <code>\$HOME/pc/SunPC.ini</code> です。</p>

表 11-1 SunPCi III コマンドラインオプション (Continued)

オプション	説明
-R	現在の ディスクイメージ ファイルに CMOS を強制的にリロードします。PC マザーボードの CMOS クリアと同様の操作です。BIOS セットアップオプションが変更された後で SunPCi が起動できない場合や、SunPCi のデフォルトの設定をリストアする場合にこのコマンドを使用します。このコマンドを使用すると、CMOS が更新されたことを確認するメッセージが表示されます。
-title "テキスト文字列"	タイトル引数を SunPCi III ウィンドウのタイトルバーに書き込みます。引数 テキスト文字列 がスペースを含む文字列である場合は、文字列を引用符で囲みます。文字列にスペースがない場合には、引用符は必要ありません。
-v	Microsoft Windows ビデオを外部ビデオコネクタに接続します。ビデオポートの位置を確認するには、図 10-1を参照します。モニタでこの設定を行う方法については、該当するオペレーティングシステムの章にある「外部ビデオの構成方法」の項を参照してください。以前のバージョンでは、-vga オプションでした。
-w [時間]	X サーバーとの接続に失敗した場合、SunPCi III ソフトウェアが接続を再試行するように設定します。接続の試行時間は、無期限 (-w に続く引数 時間 がない場合) または 時間秒 になります。SunPCi III ソフトウェアが、指定された 時間秒 後でも X サーバーへ接続できないと、SunPCi III ソフトウェアが終了します。以前のバージョンでは、-xwait オプションでした。

SunPCi III メニュー

SunPCi III ソフトウェアの起動の際、最初に表示される画面は SunPCi III ウィンドウです。このウィンドウにはエミュレート OpenDOS コマンドプロンプトがあり、これにより、DOS プログラムを実行したり、インストールされている Microsoft Windows オペレーティングシステムを起動したりすることができます。次の項では、SunPCi III ウィンドウの上部にある [ファイル] および [オプション] メニューについて説明します。

[ファイル] メニュー

SunPCi III の [ファイル] メニューには、[PC のリセット] と [終了] の 2 つのコマンドがあります。表 11-2 で、[ファイル] メニューで使用できるコマンドを説明します。

表 11-2 [ファイル] メニューコマンド

メニューコマンド	説明
[PC のリセット]	ソフトウェアを終了し、再起動します。PC のリセットボタンを押した場合と同じ処理が行われます (ハードリセットまたはハードリブートとも呼ばれます)。この操作を実行するのは、次に示す状況の場合です。 - キーボード、または SunPCi III ウィンドウで実行しているオペレーティングシステムが応答しない場合 - 異なる SunPCi III エミュレートハードドライブを接続するため
[終了]	SunPCi III ソフトウェアを終了し、SunPCi III ウィンドウを閉じます。 [終了] メニューコマンドを選択すると、「SunPCi の終了」ダイアログボックスでいくつかのボタンオプションが表示されます。 - [今すぐ終了] - [Windows をシャットダウンして SunPCi を終了] - [キャンセル]



注意 – Microsoft Windows を最初に終了する必要があります。[スタート] メニューから [シャットダウン] を選択するか、[Windows をシャットダウンして SunPCi を終了] ボタンを選択してください。正しくシャットダウンしない場合は、アプリケーションを破損する危険があります。

[オプション] メニュー

[オプション] メニューを使用すると、エミュレートハードディスクドライブ (C: および D: ドライブ) の作成、更新、接続、拡張が可能で、CD-ROM ドライブを接続したり、CD/DVD を取り出したりすることもできます。また SunPCi III にマウスを接続することもできます。この作業は、SunPCi III のインストール後、SunPCi III ドライブのインストール前に行う必要があります。

表 11-3 では、[オプション] メニューにあるディスク関連のコマンドを説明します。エミュレートドライブを選択する方法については、13 ページの『エミュレートドライブおよび SunPCi III ソフトウェア』を参照してください。

表 11-3 [オプション] メニューコマンド

メニューコマンド	説明
既存のエミュレートドライブを接続	C: または D: ドライブに割り当てるエミュレートハードドライブ (ディレクトリ/ファイル名) を指定します。
新しいエミュレートドライブの作成	エミュレートドライブとして使用するファイルを作成します。
エミュレートドライブの拡張	エミュレートハードディスクを拡張し、容量を大きくします。
CD-ROM の接続	CD-ROM ドライブを SunPCi III に接続します。
CD の取り出し	CD を CD-ROM ドライブから取り出します。キーボードショートカットは Meta-E です。
マウスの接続	SMI モードで SunPCi III ウィンドウにマウスを接続することができます。キーボードショートカットは Meta-M です。

Intel ドライバの更新

Microsoft Windows オペレーティングシステムのいずれかを新規インストールすると、SunPCi ソフトウェアが Intel ドライバを自動的に更新するようになりました。ドライバは手動で更新することもできます。この項では、自動および手動での更新方法について説明します。

Intel ドライバの自動更新

SunPCi ソフトウェアは最新の SunPCi パッケージがインストールされたことを認識し、Intel 側のドライバのインストールを知らせるプロンプトを表示します。プロンプトによって Windows ログオン中にダイアログボックスで、Intel 側のドライバを更新するかどうか確認するメッセージが表示されます。ここではいくつかの選択肢があります。

- [OK] をクリックするか Return キーを押すと、Intel 側ドライバの更新を開始し、ドライバが更新されます。これは、ディレクトリに `¥¥localhost¥opt¥SUNWspci3` を割り当て、該当するドライバのディレクトリに移動して、`update.bat` を開始することにより、Intel 側ドライバを手動で更新する操作と同じです。
- [キャンセル] または [閉じる] を選択すると、ダイアログボックスが閉じ、更新は実行されません。ドライバの更新を行わない場合は、SunPCi を起動するたびに更新を求めるメッセージが表示されます。
- いずれのボタンも選択しない場合は、ダイアログボックスが一定時間後にタイムアウトして閉じ、更新は実行されません。

Intel ドライバの自動更新機能は、次のオペレーティングシステムのみで使用できます。

- Windows NT4 WS
- Windows 2000 Professional
- Windows XP Professional

次のオペレーティングシステムでは自動更新を使用することはできません。

- Windows 98
- Windows NT4 Server
- Windows NT4 TS
- Windows 2000 Server

注 - `¥¥localhost¥opt¥SUNWspci3` を割り当てたドライブ文字が使用できない場合、自動更新は失敗します。更新に失敗すると、自動更新は適切な方法で停止し、終了して、更新は実行されません。

▼ 既存の Windows NT、Windows 2000、または Windows XP Professional C: ドライブでの Intel ドライバの手動更新方法

SunPCi III 3.0 ソフトウェアを使用すると、ドライバは自動的に更新されます。ここでは、自動更新を使用せずにドライバを手動で更新する手順について説明します。

注 - サーバ製品を使用している場合は、ネットワークドライブを割り当てる前に `c:¥sun¥sunfsd¥fsdon` を実行する必要があります。

既存の C: ドライブを更新するには、次の手順に従ってください。

1. Microsoft Windows エクスプローラを使用して、SunPCi III 3.0 ソフトウェアパッケージをインストールした場所 (デフォルトでは、`/opt` ディレクトリ) にドライブ (X: など) を割り当てます。
2. ドライブを次の場所に割り当てます。

`¥¥localhost¥opt¥SUNWspci3`

3. 実行しているオペレーティングシステムに応じて、次のいずれかの操作を行います。
 - Windows NT を実行している場合は、ディレクトリツリー内の `¥drivers¥winnt¥patch` にアクセスし、`update.bat` をダブルクリックしてインストールを完了します。
 - Windows 2000 を実行している場合は、ディレクトリツリー内の `¥drivers¥win2k¥patch` にアクセスし、`update.bat` をダブルクリックしてインストールを完了します。
 - Windows XP Professional を実行している場合は、ディレクトリツリー内の `¥drivers¥winxp¥patch` にアクセスし、`update.bat` をダブルクリックしてインストールを完了します。

注 - デフォルトのインストール場所は、/opt/SUNWspci3 です。SunPCi III ソフトウェアを別の場所にインストールした場合は、その場所にドライブを割り当てます。

スクリプトが終了すると、Microsoft Windows ソフトウェアがシステムの再起動を要求する場合があります。その場合は、再起動して変更を有効にしてください。

▼ 既存の Windows 98 C: ドライブでの Intel ドライバの手動更新方法

Windows 98 C: ドライブで既存の Intel ドライバを更新するには、次の手順に従います。

1. [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] を選択します。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。
2. ダイアログボックスに次のパスを入力します。

`f:¥drivers¥win98¥setup`

3. [OK] をクリックします。
「Install Shield ウィザード」ダイアログボックスが開き、進行状況を示すバーが表示されます。「SunPCi Drivers Setup」ウィンドウが表示されます。
4. [既存ドライバの更新] ラジオボタンをクリックします。
5. [次へ] をクリックします。
「Welcome to SunPCi Setup Program」ウィンドウが表示されます。
6. [次へ] をクリックします。
「Install Shield」ウィンドウと進行状況を示すバーが表示されます。インストールが完了すると、「Information」ダイアログボックスが開き、続いて SunPCi がドライバをロードして再起動することを表示します。
7. [OK] をクリックします。
SunPCi ソフトウェアが再起動します。

Boot@Boot サポート

Boot@Boot は、インストールされているサーバーの起動時に、SunPCi III カードの SunPCi III ソフトウェアが自動的に起動されるよう構成することができる機能です。また、SunPCi セッションが失敗した場合にセッションを自動的に再開する機能や、Microsoft Windows オペレーティングシステムのシャットダウンを含め、SunPCi セッションを順にシャットダウンする機能を含んでいます。この機能は、次のバージョンの Microsoft Windows でのみサポートされます。

- Windows 2000 Server
- Windows NT4 Server
- Windows NT4 TS

次の SunPCi III 3.0 ソフトウェアコンポーネントは Boot@Boot をサポートしています。

- SunPCi デーモン - これは必須コンポーネントです。
- Virtual Network Computing¹ (VNC) - これはオプションのコンポーネントです。

SunPCi デーモン

SunPCi デーモン (sunpcid) は Boot@Boot サポートのデーモン機能を実装するデュアルファンクションアプリケーションで、起動時に SunPCi セッションを自動的に開始し、システムのシャットダウン時に SunPCi セッションを自動的にシャットダウンする機能を備えています。デーモンは (sunpcidadm) コマンドで制御されます。

sunpcidadm コマンドには、コマンドライン引数による制御機能が実装され、Solaris サーバーの管理者は必要に応じて処理を行うよう SunPCi デーモンプロセスを構成することができます。たとえば、sunpcidadm コマンドを使用して、SunPCi III カードの Boot@Boot サポートを /etc/Master.ini ファイルに追加することができます。このファイルは sunpcidadm デーモンの構成情報を格納するように拡張されています。

sunpcidadm コマンドを使用して、自動再起動機能の有効/無効を設定したり、1 枚以上のカードで SunPCi ソフトウェアを起動/停止したりすることができます。sunpcidadm コマンドとコマンドライン引数を使用して SunPCi デーモンの構成に変更を加えると、制御 sunpcidadm デーモンにより SunPCi デーモンプロセスに変更を通知する信号が送信され、自動的にデーモンプロセスが再構成されます。

1. Virtual Network Computing (VNC) ソフトウェアの著作権は、X Consortium (1993) および AT&T 研究所 (1999) が有します。All rights reserved.VNC を SunPCi に導入する場合、サポートされるのは SunPCi 製品のみです。VNC の他のバージョンは、このバージョンの VNC と互換性がありません。VNC ソースコードは SunPCi III CD の /Source ディレクトリに含まれています。VNC ソースコードの使用、変更、再配布についての詳細は、ソースコードの法定通知を参照してください。

sunpcidadm コマンドおよびオプションの詳細については、sunpcidadm マニュアル ページを参照してください。MANPATH 環境変数が次のように設定されていることを確認してください。

```
$MANPATH: /opt/SUNWspci3/man
```

次に、以下のコマンドを入力します。

```
% man sunpcidadm
```

Virtual Network Computing (VNC)

VNC は、AT&T 研究所が GNU 一般公的使用許諾 (GPL) を有するソフトウェア製品のカスタマイズバージョンで、SunPCi III 製品をリモート管理することができます。また、ディスプレイハードウェアが未接続のヘッドレスサーバーや、ユーザーがシステムにログインする前などの理由で標準 X11 ディスプレイを使用できないサーバーで、SunPCi III ソフトウェアを実行することができます。

SunPCi III 3.0 リリースに付属する VNC のバージョンには、次の 2 つのコンポーネントが含まれています。

- Xvnc - 仮想フレームバッファにデータを渡す改良型 X11 サーバー
- vncviewer - Xvnc 仮想フレームバッファの内容を別の X11 ディスプレイで表示可能な X11 クライアント

次の理由により、VNC (Virtual Network Computing) を介した Microsoft Windows のインストールおよび設定はお勧めできません。

- ウィンドウに複数のカーソルが表示され、マウスの操作が混乱する。
- VGA エミュレーションが頻繁に更新され、インストール中に生成されるウィンドウのデータ量が増加するため、インストールプロセスが遅くなる。

最適なパフォーマンスを得るためには、ローカルモニタを使用して情報を表示し、インストールプロセスを完了します。この方法が取れない場合は、VNC を使用するよりはリモートモニタを使用して、インストールを完了します。VNC を使用したインストールは、他に方法がない場合を除いて、極力避けるべきです。この問題は、VNC を使用できるすべての Microsoft Windows システムのインストールで発生します。

Xvnc サーバーにより、SunPCi セッションの表示内容が標準 X11 ディスプレイで表示できるようになります。通常、Xvnc は SunPCi セッションが開始される前に SunPCi デーモンにより起動されます。

vncviewer により、システム管理者はローカルのサーバー上にある SunPCi カード (ディスプレイが接続されていると仮定)、または Sun X サーバーを実行しているリモートの Sun マシン上 (Sun Ray ディスプレイを含む) にある SunPCi カードを操作することができます。vncviewer と Xvnc サーバーへの表示を行う SunPCi の組み合わせにより、ネットワーク上の Sun マシンから現在実行されている VNC セッションに「オンザフライ」方式で接続し、リモートサーバーで実行されている SunPCi セッションを操作することができます。VNC セッションは切断して、後で完全に異なるマシンから再接続することができます。SunPCi セッションは、ユーザーの操作がない場合でも継続します。

VNC は SunPCi の管理に使用するよう設計されており、通常の Microsoft Windows を操作する SunPCi セッションをリモート表示するには設計されていません。通常的环境下 (単一ユーザーがワークステーションを使用) では、SunPCi セッションのリモート表示に X11 リモート表示機能を使用してください。複数のユーザーが使用するサーバー環境では、リモート表示に Citrix または NT ターミナルサーバー機能を使用してください。

注 – SunPCi III 3.0 バージョンの Xvnc および vncviewer は、これら両ソフトウェア間でのみ動作します。VNC ソフトウェアの他のバージョンとは互換性がありません。

VNC 使用許諾契約の一部として、SunPCi の各リリースについて、Sun は VNC ソースコードの表示を義務付けられています。サンマイクロシステムズは、ここに提供する VNC ソースをサポートしません。これは、GNU 一般公的使用許諾に基づき、参照目的のみに提供されるものです。

VNC ソースコードは、vnc_src.tar.z という名前で SunPCi III 3.0 CD のソースディレクトリに保存されています。

.z ファイルを解凍し、.tar ファイルを抽出して VNC ソースコードを表示します。

注 – VNC を使用するためにソースをコンパイルする必要はありません。コンパイル済みのパッケージ SUNWspvn3 が使用できます。

Boot@Boot サポートの構成と使用

SunPCi Boot@Boot サポートを使用するには、SunPCi デーモンを構成し、デーモンで実行する機能を指定する必要があります。SunPCi デーモンはルートアカウントで実行されるので、Boot@Boot サポートを構成するには root としてログインする必要があります。

次の項では、Boot@Boot サポートの構成方法について説明します。MANPATH 環境変数が次のように設定されていることを確認してください。

```
$MANPATH: /opt/SUNWspci3/man
```

次に、以下のコマンドを入力します。

```
% man sunpcidadm
```

VNC への Boot@Boot サポートの構成

注 – Boot@Boot サポートを構成する前に VNC パッケージをインストールする必要があります。

Boot@Boot を構成するには、まず VNC サポートを構成し、SunPCi III カードの起動時に、カードが必ず実行中の接続可能な X サーバーを使用できるようにします。SunPCi コンソールを表示する別の X サーバーがあり、接続にその X サーバーを必ず使用する場合は、VNC サポートを使用しないよう選択することができます。148 ページの『Xvnc 以外の X サーバーの使用』を参照してください。

VNC サポートを構成するには、まず次のコマンドを使用して、VNC サポートをファイル /etc/Master.ini に追加します。

```
# /opt/SUNWspci3/bin/sunpcidadm -a VNC
```

これにより、デーモンが Xvnc サーバーを起動するのに必要な構成情報が追加されます。

注 - sunpcidadm コマンドは VNC またはカードの参照時に大文字と小文字を区別しないので、コマンド sunpcidadm -a vnc、sunpcidadm -a VNC、および sunpcidadm -a VnC はすべて同様に処理されます。

最初にファイル /etc/Master.ini に VNC 構成情報を追加するときは、デフォルトで VNC が無効として構成されています。これにより、Xvnc が起動する前に構成情報をカスタマイズすることができます。

たとえば、ルートアカウント以外のアカウントで VNC および SunPCi セッションを実行する場合、ユーザーのユーザー ID、グループ ID、およびホームディレクトリを変更することができます。VNC のユーザー名を変更すると、Xvnc サーバーへの接続時に vncviewer アプリケーションにより、ルートパスワードではなくユーザー名のパスワードを入力するよう求められます。

この方法で、カードがインストールされているマシンにルートパスワードを入力しなくても、SunPCi カードの管理者がすべてのアクセス権を持つように設定することができます。指定するアカウントが NIS または NIS+ アカウントでなく、ローカルアカウントの場合、そのアカウントの /etc/shadow パスワードファイルへのアクセス権は読み取り専用になります。

sunpcigroup グループの sunpciadmin アカウントで、ホームディレクトリ /home/sunpciadmin を使用して VNC を実行するよう構成するには、/etc/Master.ini ファイルで VNC セクションを次のように変更します。

```
[VNC]
CmdLineArgs=-geometry "1152x900" -depth 24
DisplayNum=10
StartupScript=/opt/SUNWspci3/bin/VNCStartup
UID=sunpciadmin           ;User ID
GID=sunpcigroup          ;Group ID
HomeDir=/home/sunpciadmin ;Home directory
AutoStart=Disabled
```

この構成情報により、SunPCi デーモンが解像度 1152 x 900 ピクセル、ピクセルあたり 24 ビットの色深度で Xvnc サーバーを起動するように設定されます。サーバーはディスプレイ番号 10 への接続を許可します (DISPLAY=hostname:10)。ホームディレクトリ /home/sunpciadmin を使用して、プロセスがグループ sunpcigroup の sunpciadmin アカウントで実行されます。また、デーモンにより /opt/SUNWspci3/bin/VNCStartup スクリプトが実行されて CDE ウィンドウマネージャーおよび xterm 端末エミュレータが起動されます。

Xvnc サーバーに他のエントリを追加することができます。たとえば、Xvnc で外国語キーボードのキーテーブルを使用できるように設定できます。SunPCi カード管理者が Sun ドイツタイプ 5 キーボードを使用する場合は、CmdLineArgs エントリを次のように変更します。

```
CmdLineArgs=-geometry "1152x900" -depth 24 -keytable Germany5
```

X11 キーテーブルのファイルは /usr/openwin/share/etc/keytables ディレクトリにあります。他の xvnc コマンドオプションについては、Xvnc マニュアルページを参照してください。

VNC の構成後、VNC を有効にする必要があります。これにより、SunPCi デーモンは Xvnc サーバーの実行を開始します。Boot@Boot の VNC を有効にするには、次のコマンドを使用します。

```
# /opt/SUNWspci3/bin/sunpcidadm -e VNC
```

これにより、/etc/Master.ini ファイルの AutoStart 行が Enabled に変更され、SunPCi デーモンがファイルで指定される構成でファイルを再処理し、Xvnc サーバーに表示される X アプリケーションを操作できるようになります。この手順が完了すると、vncviewer を実行して、Xvnc サーバーに表示される X アプリケーションを操作できるようになります。

Boot@Boot サポートのための SunPCi III カードの準備

Boot@Boot サポート用に構成する各カードには、既存で固有の .ini ファイルと、該当する C: ドライブ (オプションで D: ドライブ) が必要です。命名規則により、カード *n* の .ini ファイルは card*n*.ini という名前が付けられます。また、このファイルは SunPCi セッションが実行するユーザー名の ~/pc ディレクトリに格納されます。

注 - 各カードにはそれぞれ新しい .ini ファイルを作成する必要があります。詳細については 26 ページの『-n オプションを使用した .ini ファイルの作成方法』を参照してください。

たとえば、SunPCi セッションがルートアカウントで実行される場合、Card1 の .ini ファイルは /pc/card1.ini になります。card1.ini ファイルにより参照される C: ドライブは、アクセス可能なファイルシステムのどこにでも配置することができますが、最高の性能を得るためには、ファイルシステムがカードのインストールされたマシンに物理的に接続されている必要があります。

たとえば、Windows 2000 オペレーティングシステムがインストールされた Card1 の C: ドライブへのパスが /files/drives/C.Win2K.diskimage だとすると、/pc/card1.ini ファイルには次のエントリが格納されます。

```
[Drives]
C drive = /files/drives/C.Win2K.diskimage
```

適切な card*n*.ini ファイルを作成し、Microsoft Windows オペレーティングシステムなどをインストールした後、Boot@Boot サポートのカードを構成することができます。11 ページの『複数の SunPCi III カードの構成』を参照してください。

Boot@Boot サポートのための SunPCi III カードの構成

VNC サポートと同様、それぞれのカードを個別に追加し、実行できるようにしてください。カードに Boot@Boot サポートを追加するには、sunpcidadm コマンドで -a オプションを使用します。

たとえば、Card1 に Boot@Boot サポートを追加するには、次のコマンドを使用します。

```
# /opt/SUNWspci3/bin/sunpcidadm -a card1
```

これにより、/etc/Master.ini ファイルにある Card1 の既存の構成情報に、次の情報が追加されます。

```
[Card1]
CmdLineArgs=-p /pc/card1.ini -c card1 -xwait
AutoStart=Disabled
UID=root          ;User ID
GID=root          ;Group ID
HomeDir=/         ;Home directory
```

この情報により、SunPCi デーモンは Card1 を処理するタスクの内部リストに追加します。VNC と同様、カードに Boot@Boot サポートを追加すると、カードの AutoStart は無効として構成されます。これにより、カードの構成者は、SunPCi ソフトウェアを起動する前にカードで SunPCi ソフトウェアの実行方法をカスタマイズすることができます。

/etc/Master.ini ファイルの Card1 セクションに追加された上記の情報は、VNC のセクションと同じ項目を多く含んでいます。UID、GID、および HomeDir エントリと、CmdLineArgs および AutoStart オプションは、セクション間で共通であり、同じ働きをします。

たとえば通常的环境中で、VNC セクションの UID、GID、または HomeDir エントリを変更する場合は、Boot@Boot に構成されている各カードで同様の変更を加える必要があります。

カードを適切に構成した後、sunpcidadm コマンドで -e オプションを使用してカードを有効にできます。1 度にカード 1 枚のみを追加する -a オプションとは異なり、-e オプションは 1 度に複数のカードを有効にします。

たとえば、Card1 と Card2 の 2 枚のカードを Boot@Boot サポートに構成する場合、次のコマンドを使用して同時に両方のカードを有効にできます。

```
# /opt/SUNWspci3/bin/sunpcidadm -e card1 card2
```

このコマンドの発行後、SunPCi デーモンにより両方のカードで SunPCi セッションが開始されます。

注 - カードの /etc/Master.ini ファイルで AutoStart が有効に設定されている場合は、カードを有効にする sunpcidadm -e オプション使用時に、SunPCi ソフトウェアがそのカードで**実行されていない**ことを確認してください。カードで AutoStart が有効になっていると、デーモンはそのカードでの SunPCi ソフトウェアの起動に失敗します。

Boot@Boot セッションのリスト

セッションのプロセス ID に加え、実行中の SunPCi セッションを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
# /opt/SUNWspci3/bin/sunpcidadm -l
```

システムにより、次のようなリストが返されます。

```
sunpcid:pid = 1131
VNC:pid = 1134
Card1:pid = 1135
Card2:pid = 1136
#
```

VNC または SunPCi III カードの Boot@Boot サポートを無効にする

1 つ以上の SunPCi セッションをシャットダウンする場合 (バックアップ用に C: ドライブを複製するときなど)、SunPCi デーモンの AutoStart 機能を無効しておく必要があります。無効にせずに SunPCi セッションをシャットダウンすると、SunPCi デーモンは自動的にセッションの再開を試みます。SunPCi カードまたは Xvnc サーバーの AutoStart 機能を無効にするには、sunpcidadm コマンドで `-d` オプションを使用します。`-d` オプションを使用して、同時に複数のカードを無効にすることができます。

たとえば、Card1 および Card2 を無効にする場合は、次のコマンドを使用します。

```
# /opt/SUNWspci3/bin/sunpcidadm -d card1 card2
```

これにより、Card1 および Card2 セクションの AutoStart エントリが無効になります。各カードの SunPCi セッションは、別の方法でシャットダウンされない限り継続します。

VNC または SunPCi III セッションのシャットダウン

VNC または SunPCi セッションをシャットダウンする方法はいくつかあります。

SunPCi ソフトウェアを操作せずに SunPCi または VNC セッションをシャットダウンする場合や、`vncviewer` によって直接 VNC セッションをシャットダウンする場合は、`-D` オプションで `sunpcidadm` コマンドを使用します。これにより、`/etc/Master.ini` ファイルでセッションに `Disabled` というマークが付けられ、そのセッションで SunPCi デーモンによるシャットダウン手順が実行されます。

`Cardn` でセッションをシャットダウンするには、次のコマンドを使用します。

```
# /opt/SUNWspci3/bin/sunpcidadm -D cardn
```

これにより `Cardn` の `AutoStart` が無効になります。したがって、`Cardn` でセッションを再開したり、次の再起動時にセッションを自動的に起動したりするには、`sunpcidadm -e` コマンドを使用して `Cardn` を再び有効にする必要があります。

VNC をシャットダウンするには、次のコマンドを使用します。

```
# /opt/SUNWspci3/bin/sunpcidadm -D VNC
```

このコマンドを使用して VNC をシャットダウンすると、現在の SunPCi セッションすべても順にシャットダウンされます。

SunPCi デーモンプロセスのシャットダウン

SunPCi デーモンプロセスをシャットダウンする (SunPCi ソフトウェアを新規リリースにアップグレードするときなど) には、`sunpcidadm` コマンドで `-t` または `-T` オプションを使用する直接的な方法と、`-stop` オプションと `/etc/init.d/sunpci3.server` スクリプトとを使用する間接的な方法があります。

`sunpcidadm` コマンドの `-t` オプションおよび `-T` オプションにより、SunPCi デーモンプロセスは実行中の SunPCi セッションすべてを順にシャットダウンし、その後デーモン自体も終了します。これら 2 つのオプションで異なる点は、`-t` オプションでは、セッションの終了がすべて完了してからシェルの呼び出しに戻るのに対し、`-T` オプションでは、デーモンがセッションを終了するとすぐにシェルの呼び出しに戻るという点です。

SunPCi デーモンプロセスを終了しても `/etc/Master.ini` ファイルの `Boot@Boot` 構成情報は変更されません。 `sunpcidadm` コマンドでオプションを指定せずに SunPCi デーモンを再起動してバックグラウンドで実行したり、 `-start` オプションで `/etc/init.d/sunpci3.server` スクリプトを使用したりすると、 `Enable` に設定されているすべてのセッションが再開します。これが、標準の Solaris システムがシャットダウンする間に SunPCi セッションがシャットダウンするメカニズムです。

手動による Boot@Boot 構成の変更

`/etc/Master.ini` ファイルを編集して、次の変更を行うことができます。

- Xvnc の `DisplayNum` を使用する既存のディスプレイがある場合、その番号 (Sun Ray サーバーなどのディスプレイ)。
- 使用する `StartupScript` (デフォルトは `/opt/SUNWspci3/bin/VNCStartup`)。
- SunPCi を起動するコマンドライン引数 (ウィンドウマネージャデコレーションの `-title title_string` オプションを追加したり、 `-p` スイッチで異なる `.ini` ファイルを使用したりする場合など)。
- VNC のコマンドライン引数 (VNC を 1280 x 1024 などの異なる解像度で表示する場合など)。

Card1 で使用する構成ファイルを `/pc/card1.ini` から `/pc/Win2K.ini` に変更する場合などに `/etc/Master.ini` ファイルの `Boot@Boot` 構成情報を手動で変更しても、SunPCi デーモンにはこの変更が通知されないため、変更はすぐに適用されません。

変更を加えたことを SunPCi ソフトウェアプロセスに通知するには、 `sunpcidadm` コマンドで `-r` オプションを使用する必要があります。これにより、SunPCi デーモンは `/etc/Master.ini` ファイルを再び読み取り、デーモン自体を適切に再構成します。変更したセッションを再開するまで、変更は適用されません。したがって、新しい `/pc/Win2K.ini` ファイルを使用するには、SunPCi グラフィカルユーザーインターフェースか `sunpcidadm` コマンドで `-D` オプションを使用して Card1 の SunPCi セッションをシャットダウンし、再開する必要があります。

Xvnc 以外の X サーバーの使用

SunPCi カードに Xvnc 以外の X サーバーを使用するには、`/etc/Master.ini` ファイルのカードのセクションに次のような行を追加する必要があります。

```
DisplayName=hostname:displaynum
```

たとえば、ホスト名 `xyzzzy` のコンソールで実行している X サーバーで `Card1` を表示するよう構成するには、`/etc/Master.ini` ファイルの `[Card1]` セクションに `DisplayName=xyzzzy:0` というエントリを追加します。

注 – Sun X サーバーおよび VNC のみがサポートされています。

▼ リモートクライアントから VNC を操作する方法

1. リモートクライアントに `SUNWspvn3` パッケージをインストールします。

クライアントシステムに SunPCi III カードは必要ありませんが、カードを取り付けることもできます。

2. 次のパスに移動して、`vncviewer` を実行します。

```
# /opt/SUNWspvn3/bin
```

Xvnc サーバー名、およびその Xvnc サーバーが実行されているアカウントのユーザーパスワードを求めるダイアログボックスが表示されます。

コマンドラインで直接この情報を入力するには、次のようなコマンドを使用します。

```
# vncviewer vncserverhostname:displaynum
```

`vncserverhostname` を VNC を実行するサーバー名に、`displaynum` を使用するディスプレイ番号に置き換えてください。次に例を示します。

```
# vncviewer xyz:10
```

拡張ドライブおよび SunPCi III ソフトウェア

拡張ドライブとは、実際には Solaris ファイルシステム内のディレクトリへの Windows ドライブ文字の割り当てです。拡張ドライブを使用すると、Solaris オペレーティング環境と Microsoft Windows オペレーティングシステム間でアプリケーションやデータファイルを共有できます。SunPCi III プログラムでは、22 個までの拡張ドライブを使用して、アプリケーションやファイルを保存できます。

拡張ドライブには、ファイルシステムドライブとネットワークドライブの 2 種類があります。この項では両方のタイプのドライブについて説明します。両方とも、Windows エクスプローラを使用して割り当てます。

ファイルシステムドライブ

ファイルシステムドライブは、ローカルホストにマウントされたすべての Solaris ファイルシステム上のディレクトリに割り当てる拡張ドライブです。

Windows 98 でファイルシステムドライブを割り当てるには、150 ページの『Windows 98 で Solaris ファイルおよびディレクトリへアクセスする方法』を参照してください。

Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT でファイルシステムドライブを割り当てるには、153 ページの『Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT で Solaris ファイルおよびディレクトリにアクセスする方法』を参照してください。

ネットワークドライブ

ネットワークドライブは、SunPCi III PC (エミュレート PC) または実際の PC ディレクトリに割り当てを行う拡張ドライブです。ネットワークドライブをマウントするには、次のものがが必要です。

- SunPCi または NetBEUI (Microsoft が提供するネットワークプロトコル) を実行している PC で、Microsoft 共有クライアントおよびファイルとプリンタの共有が有効のもの。詳細については Microsoft Windows に付属するマニュアルを参照してください。

- Samba または PC NetLink を実行している Solaris マシン。

ネットワークドライブの割り当てと、エミュレート PC にネットワークドライブをマウントし、共有する方法については、Microsoft Windows に付属するマニュアルを参照してください。ネットワークドライブのマウントと共有に関する追加情報については、Samba および PC NetLink のマニュアルも参照してください。

▼ Windows 98 で Solaris ファイルおよびディレクトリへアクセスする方法

この項では、Windows エクスプローラを使用して Solaris 拡張ドライブ (ネットワークドライブ) を割り当て、SunPCi III ソフトウェアや Windows 98 と共に使用方法について説明します。この手順は拡張ドライブでもネットワークドライブでも同じです。

Windows 98 と共に機能するように Solaris ドライブまたはディレクトリを割り当てるには、次の手順を実行します。

1. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] から Windows エクスプローラを選択します。

Windows エクスプローラのウィンドウが表示されます。

2. [ツール] メニューから [ネットワークドライブの割り当て] を選択します。

「ネットワークドライブの割り当て」ダイアログボックスが表示されます。

3. [ドライブ] フィールドの右にある矢印をクリックします。

割り当てられていないドライブのリストが表示されます。

注 - Windows 98 のみ、ドライブ F: の割り当てを変更しようとする時、システムは「デバイスが接続されていません」というエラーを返します。この場合、別のドライブを選択します。

4. 使用するドライブが表示されるまで下にスクロールし、そのドライブをクリックします。

そのドライブが [ドライブ] フィールドに表示されます。

5. 次のパスを [パス] フィールドに入力します。ディレクトリおよびサブディレクトリには実際のディレクトリ名を使用します。

¥¥ディレクトリ¥サブディレクトリ

または

¥¥ディレクトリ¥.

割り当てるパスには 2 つの構成要素が必要です。1 つの構成要素しか持たない UNIX サブディレクトリにドライブを割り当てる場合には、ピリオド (.) を 2 番目の要素として使用する必要があります。次に例を示します。

¥¥home¥.

割り当てるパスにアスタリスクを使用しないでください。使用すると、Microsoft Windows が「デバイスが接続されていません」というエラーを返します。

6. SunPCi ソフトウェアを起動するたびにこの拡張ドライブを自動的に割り当てる場合は、[ログオン時に再接続] チェックボックスをオンにします。
7. [OK] をクリックします。

新しい拡張ドライブが Windows エクスプローラのウィンドウに表示されます。

▼ Windows 98 で長いパス名を持つディレクトリにドライブを割り当てる方法

2 つ以上のパス構成要素を持つ UNIX ディレクトリ (/ディレクトリ/サブディレクトリ/サブディレクトリ 2 など) にドライブを割り当てる場合は、UNIX シンボリックリンクを使用する必要があります。次の手順を実行します。

1. root としてログインし、ルートファイルシステムからリンクを作成します。次の例で示されるパスは、実際のパス名で置き換えます。次のコマンドを入力します。

```
% ln -s /net/typicalmachine/files1/任意のディレクトリ/任意のディレクトリ
```

参照 - ln コマンドの詳細については、man ln と入力し、マニュアルページから表示される情報を参照してください。

2. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] から Windows エクスプローラを選択します。

Windows エクスプローラのウィンドウが表示されます。

3. [ツール] メニューから [ネットワークドライブの接続] を選択します。

「ネットワークドライブの割り当て」ダイアログボックスが表示されます。

4. [ドライブ] フィールドの右にある矢印をクリックします。

割り当てられていないドライブのリストが表示されます。

5. 使用するドライブが表示されるまで下にスクロールし、そのドライブをクリックします。

そのドライブが [ドライブ] フィールドに表示されます。

6. 次のパスを [パス] フィールドに入力します。任意のディレクトリには実際のディレクトリ名を使用します。

¥¥任意のディレクトリ¥.

7. SunPCi III ソフトウェアを起動するときにこの拡張ドライブを自動的に割り当てる場合は、[ログオン時に再接続] チェックボックスをオンにします。

8. [OK] をクリックします。

新しい拡張ドライブが Windows エクスプローラのウィンドウに表示されます。

ネットワークドライブが、目的ディレクトリ `/net/typicalmachine/files1/任意のディレクトリ` へのシンボリックリンクである、`/任意のディレクトリ` に割り当てられました。

拡張ドライブへの Windows 98 アプリケーションのインストール

Windows 98 アプリケーションは、いずれのエミュレートドライブ (C: および D:) にも、または Windows エクスプローラを使用して作成したどのドライブにもインストールすることができます。

拡張ドライブの詳細については、149 ページの『拡張ドライブおよび SunPCi III ソフトウェア』を参照してください。

▼ Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT で Solaris ファイルおよびディレクトリにアクセスする方法

Windows XP Professional、Windows NT、および Windows 2000 では、ファイルシステムドライブが Solaris システムにマウントされていることを指定する必要があります。この指定は、localhost を UNC パス指定でデバイスノードとして指定することにより行います。

Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT でファイルシステムドライブを割り当てるには、次の手順を実行します。

1. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] から Windows エクスプローラを選択します。

Windows エクスプローラのウィンドウが表示されます。

2. [ツール] メニューから [ネットワークドライブの割り当て] を選択します。

「ネットワークドライブの割り当て」ダイアログボックスが表示されます。

3. [ドライブ] フィールドの右にある矢印をクリックします。

割り当てられていないドライブのリストがメニューに表示されます。

4. 使用するドライブが表示されるまで下にスクロールし、そのドライブをクリックします。

そのドライブが [ドライブ] フィールドに表示されます。

5. 次のパスを [パス] フィールドに入力します。ディレクトリおよびサブディレクトリには実際のディレクトリ名を使用します。

```
¥¥localhost¥ディレクトリ¥サブディレクトリ
```

たとえば、Solaris ワークステーションの /home/joouser にドライブを割り当てるには、次のパスを使用します。

```
¥¥localhost¥home¥joouser
```

6. SunPCi III ソフトウェアを起動するたびにこのドライブを自動的に割り当てる場合は、[ログオン時に再接続] チェックボックスをオンにします。

7. [OK] をクリックします。

次に Windows エクスプローラを開くと、エクスプローラのウィンドウに新しいファイルシステムドライブが表示されます。

注 – Windows XP Professional、Windows NT、および Windows 2000 では、長いディレクトリパス (2 つ以上の要素が含まれるパス) を割り当てることができます。たとえば、シンボリックリンクを使用しないで `¥¥localhost¥usr¥local¥bin` というパスを割り当てることができます。ただし、Windows 98 では同じディレクトリパスを割り当てるために、シンボリックリンクを使用する必要があります。

コピーおよび貼り付けコマンドの使用

SunPCi ソフトウェアでは、Windows XP Professional、Windows 2000、および Windows NT で行う日本語ローケルのコピーと貼り付けを構成することができます。

セキュリティの理由で、コピーと貼り付けコマンドはサーバー製品では使用できません。

注 – コピーおよび貼り付け操作に、フォント情報は含まれません。UNIX と Microsoft Windows 間でコピーまたは貼り付けを行うと、特殊文字やフォントが正しく表示されないことがあります。特殊文字等を使用しないことをお勧めします。

▼ Microsoft Windows と Solaris 間で日本語コピーと貼り付けを可能にする方法

日本語のコピーおよび貼り付けを構成するには、次の手順を実行します。

1. SunPCi III ソフトウェアを終了します。
2. 任意のテキストエディタを使用して、`$HOME/pc/SunPC.ini` ファイルを開きます。
3. 次の行をファイルの終わりに追加します。

```
[CopyAndPaste]
CodeSet=eucJP
```

4. 変更を保存してこのファイルを閉じます。

次回 SunPCi III 3.0 ソフトウェアを起動すると、日本語のコピーと貼り付け機能を使用することができます。

注 – 手順3のように、CodeSet 行に eucJP と指定されていることを確認します。別のコードを使用したり、間違った文字を入力したりした場合、Microsoft Windows は次のようなメッセージを返します。Warning, bad clipboard translation codeset specified in SunPC.ini file:codeset.Ignoring.このメッセージが表示された場合、[OK] をクリックして続行します。Microsoft Windows は引き続き動作しますが、日本語のコピーと貼り付けは使用できません。

Solaris プリンタを使用して Microsoft Windows から印刷する

この項では、ワークステーションのネットワークプリンタを使用して印刷できるように、SunPCi III 3.0 ソフトウェアで Microsoft Windows 設定を構成する方法について説明します。

Solaris ワークステーションからプリンタを接続するには、次のいずれかの操作を行います。

- プリンタを SunPCi III ハードウェアに接続し、Microsoft Windows から印刷する。
- プリンタを SunPCi III ではない Sun のハードウェアに接続し、Solaris から印刷する。

SunPCi III ではない Sun のハードウェアに接続して Microsoft Windows から印刷を試行する場合は、特にドライバなど、ハードウェア互換性の問題によって正しく動作しない可能性があります。

注 – 印刷試行時にネットワークがビジー状態にあると、印刷が遅れたり、プリンタの状態やプリントキューの内容の取得に遅れが生じる場合があります。

注 – SunPCi III 3.0 ソフトウェアでは、DOS から UNIX プリンタへの印刷をサポートしていません。セットアップの過程でこのオプションを選択することができますが、実際には機能しません。

▼ Microsoft Windows から Solaris プリントを設定する方法

1. [スタート] メニューから [設定] を選択し、次に [プリンタ] を選択します。
「プリンタ」ウィンドウが表示されます。
2. [プリンタの追加] アイコンをダブルクリックします。
「プリンタの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
3. Windows 98 の場合は手順 a を使用し、Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT の場合は 手順 b に従ってください。
 - a. Windows 98 では、[次へ] をクリックし、[ネットワークプリンタ] を選択して [参照] ボタンをクリックします。
「プリンタの参照」ウィンドウが開きます。
 - b. Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT では、[ネットワークプリンタ] を選択し、[次へ] をクリックし、[参照] ボタンを選択し、[次へ] をクリックします。
「プリンタの接続」ウィンドウが開きます。
4. [ネットワーク全体] をダブルクリックして、ネットワークに接続されているすべてのドメインを表示します。
5. ドメインのリストから Sunpci Host を探します。
[Sunpci Host] という名前の横のプラス記号 (+) をクリックし、ドメイン内のシステムのリストを表示します。
6. 使用するプリンタに対応するシステム名 (プリントサーバー) を探します。
7. システム名をダブルクリックし、プリントサーバーに接続しているプリンタを表示します。
正しいプリンタドライバを選択できるよう、プリンタのモデルを確認しておいてください。
8. システム名をクリックし、次に [OK] をクリックします。「プリンタウィザード」ダイアログボックスの指示に従います。
ワークステーションのネットワークプリンタを Microsoft Windows プリントとして使用する準備が整います。Microsoft Windows アプリケーションから印刷する方法の詳細については、Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。

スクリーンセーバーの使用

SunPCi III ウィンドウを最小化した状態で Microsoft Windows スクリーンセーバープログラムを使用しないでください。スクリーンセーバーが設定されていると、ウィンドウの非表示時にスクリーンセーバープログラムは不必要にシステムリソースを消費します。

Windows 2000 または Windows XP Professional の省電力モードでモニタの電源をオフにしている場合は、スクリーンセーバーの「3D 迷路」を使用しないでください。このスクリーンセーバーと省電力モードのタイマーが競合を生じ、モニタを省電力モードに切り替えることができません。

3D スクリーンセーバーによっては、Windows 2000 および Windows XP Professional オペレーティングシステムで表示が遅くなるものがあります。これは予期される動作であり、スクリーンセーバーの機能に障害はありません。

注 – スクリーンセーバーと SunPCi との間で競合が発生しないようにするためには、SunPCi の使用中はスクリーンセーバーを無効にしてください。

付録 A

トラブルシューティング

この付録の各項では、SunPCi III 3.0 ソフトウェアリリースで発生が確認されている問題について説明します。この付録には、SunPCi ソフトウェアで発生する可能性がある問題の解決方法が収録されています。

この付録では、次の項目が扱われます。

- 『問題のサポート』 - 159 ページ
- 『SunPCi III ハードウェアの問題』 - 160 ページ
- 『SunPCi III ソフトウェアの問題』 - 168 ページ
- 『ネットワークと SunFSD に関する問題』 - 184 ページ
- 『Windows XP Professional と Windows 2000 の問題』 - 190 ページ
- 『Windows NT の問題』 - 200 ページ
- 『Windows 98 の問題』 - 207 ページ
- 『Microsoft Windows アプリケーションの問題』 - 209 ページ

問題のサポート

SunPCi III 3.0 製品に関する質問や問題 (Windows NT の「ブルースクリーン」など) については、サポート担当者までご連絡ください。ご連絡いただく際には、電子メールに次の情報を含めてください。

- 発生した問題 (表示されたエラーメッセージを含む)
- 使用していたアプリケーション (アプリケーションのバージョン番号を含む)
- 問題の発生時に、アプリケーションで実行していた操作
- 問題を再現するまでの手順 (非常に重要)
- SunPCi セッションのログファイル

SunPCi III 3.0 ソフトウェアでは、システムにインストールされているカードごとに個別のログファイルが作成されます。このログ機能はデフォルトで有効になっており、`Cardn.log` (`n` は SunPCi III カードの番号) というログファイルが作成されます。ログファイルは `/var/preserve/sunpcilogs` ディレクトリに保存されます。重大なエラーが発生すると、メッセージがログファイルに記録され、コンソールウィンドウと起動ウィンドウに表示されます。このような場合は、電子メールメッセージまたはバグレポートに、ログファイル全体を添付してください。

ログ構成ファイルへのパスは `/etc/opt/SUNWspci3/log.conf` です。このファイルには、デフォルトで次の内容が含まれています。

```
; SunPCi のログ機能は、このファイルによってコントロールされます。
; このファイルを使用してログ機能を有効（デフォルト）または無効にできます。
; 次の LogConfig セクションで、Status = Disabled 行のコメントを外すと、
; SunPCi ログ機能をすべて無効にすることができます。
; ログファイルの保存場所も変更できます。次の Directory エントリのコメントを
; 外し、保存先ディレクトリを全ユーザーが読み込み、および書き込みできる任意の
; ディレクトリに変更します。ログファイルは、指定されたディレクトリに作成されます。
; デフォルトのディレクトリは /var/preserve/sunpcilogs/ です。

[LogConfig]
; Status = Disabled
; Directory = /var/preserve/sunpcilogs/
```

ログ機能を無効にする場合や、ログファイルの保存場所を変更する場合は、ファイルの指示に従ってください。

SunPCi III ハードウェアの問題

この項では、次の項目について説明します。

- 『ハードウェアエラーメッセージ』 - 161 ページ
- 『マウスの問題』 - 162 ページ
- 『フロッピーディスクドライブの問題』 - 162 ページ
- 『CD-ROM ドライブの問題』 - 164 ページ
- 『ビデオディスプレイの問題』 - 165 ページ
- 『電源管理メッセージの問題』 - 168 ページ
- 『USB と Firewire 接続の問題』 - 168 ページ

ハードウェアエラーメッセージ

次の表には、ハードウェアの問題が発生したときに表示されるエラーメッセージ、考えられる原因、解決方法が記載されています。

表 A-1 SunPCi III エラーメッセージ

エラーメッセージ	考えられる原因	解決方法
Driver not found. Can't attach to device.	システムが PCI デバイスを識別できません。SunPCi III カードが、PCI スロットに正しく取り付けられていない可能性があります。	『SunPCi III クイックスタートインストールマニュアル』で説明されている手順に従って、SunPCi III カードを取り外し、もう一度取り付けてください。
The SunPCi III drivers could not be loaded.Is another session running?	このメッセージが表示される場合は、次の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none">• 既に別の SunPCi III のセッションを実行している。• SunPCi III カードを取り外し、システムの別の PCI スロットにもう一度取り付けた。• カードを取り付けた後、システムを再起動せずに SunPCi III ソフトウェアを起動した。	それぞれの原因に対応する作業を実行してください。 <ul style="list-style-type: none">• SunPCi III ソフトウェアを再実行する前に、他のセッションを中止します。• 可能であれば、カードを取り外し、最初に取り付けられていた PCI スロットに取り付けます。• スーパーユーザーとしてログインし、# プロンプトに「halt」と入力してシステムを停止します。ok プロンプトで boot -r を使用して再起動します。
Driver couldn't be loaded.SunPCi III cannot open the device.	SunPCi III カードが、PCI スロットに正しく取り付けられていない可能性があります。	PCI スロットにカードが正しく取り付けられていることを確認してください。
System could not transfer file data from buffers.	ホストファイルシステムのディスク容量が不足しています。	ホストファイルシステムの空き容量を増やしてください。

マウスの問題

表 A-2 には、一般的なマウスの問題と解決方法がリストされています。

表 A-2 マウスの問題

問題	考えられる原因	解決方法
SunPCi III のデスクトップ (Windows 98) に 2 つのマウスカーソルが表示される。	SunPCi III ソフトウェアドライバを Microsoft Windows にインストールしていないか、マウスが接続されていない可能性があります。	ドライバをインストールする前にマウスを使用するには、[オプション]メニューから [マウスの接続] を選択するか、Meta-M を押します。ドライバのインストールが終了すると、マウスは正常に機能します。
Windows 2000 のポインタの移動が遅い。	ディスプレイが 16 ビットまたは 24 ビットに設定されている場合、ポインタの移動が遅くなります。	192 ページの『2 つのマウスポインタの問題』を参照してください。
SunPCi III のインストール後、マウスポインタがスムーズに移動しなくなった。	アップグレードやカスタムインストールの実行時、SunPCi III ソフトウェアドライバを Microsoft Windows にインストールしていない可能性があります。	ドライバのインストール方法については、オペレーティングシステムの使用に関する章を参照してください。ドライバのインストールが完了すると、マウスポインタの動きはスムーズになります。

フロッピーディスクドライブの問題

SunPCi III ソフトウェアと Solaris ボリュームマネージャプログラム (vold) との間で、フロッピーディスクドライブのコントロールに関する競合が発生する場合があります。ボリュームマネージャは、フロッピーディスクドライブなど、システムに接続した周辺装置の自動マウントサービスを行います。

この競合は、システムでボリュームマネージャのサポートが有効になっている場合に、SunPCi III ウィンドウからフロッピーディスクドライブにアクセスしようとすると発生します。この場合、エラーメッセージが表示され、フロッピーディスクにはアクセスできません。

デフォルトでは、SunPCi III ソフトウェアがインストールされると、フロッピーディスクドライブに対するボリュームマネージャのサポートは無効になります。したがって、この問題は通常発生しません。ただし、システム上でボリュームマネージャを有効に戻すことが可能なため、その後問題が発生する場合があります。

システムでフロッピーディスクドライブに対するボリュームマネージャーのサポートを有効に戻したために、SunPCi III ソフトウェアからフロッピーディスクドライブにアクセスできなくなった場合は、ボリュームマネージャーを無効にして SunPCi III ウィンドウを再起動します。問題が解消されない場合は、ボリュームマネージャーを無効にしてシステムを再起動してください。

Solaris ボリュームマネージャーを無効にするには、次の手順を実行します。

1. SunPCi III ソフトウェアを実行していないことを確認します。
2. スーパーユーザーとしてログインします。
3. 次のコマンドを入力してボリュームマネージャーを無効にします。

```
# /opt/SUNWspci3/bin/vold_floppy_disable
```

4. スーパーユーザーセッションを終了します。
5. すべての SunPCi III ソフトウェアウィンドウを再起動します。

CD-ROM ドライブの問題

表 A-3 には、CD-ROM ドライブで発生する可能性のある問題、考えられる原因、および解決方法が記載されています。

表 A-3 CD-ROM ドライブの問題

問題	考えられる原因	解決方法
1 つの CD-ROM ドライブで CD の挿入または取り出しを行う際、もう 1 つの CD-ROM ドライブにアクセスできなくなる。	使用しているシステムには、2 つの SCSI CD-ROM ドライブがあります。	SunPCi III ソフトウェアで使用する CD-ROM ドライブを選択する必要があります。
Windows NT エクスプローラで CD-ROM ドライブをダブルクリックすると、次のエラーメッセージが表示される。Drive not ready. Abort/Retry/Fail?	使用している CD-ROM ドライブが Sun のドライブではない可能性があります。	SunPCi III ソフトウェアは、Sun の CD-ROM ドライブのみをサポートします。システムの CD-ROM ドライブを Sun のドライブと交換してください。
Solaris workman ユーティリティを使用してオーディオ CD を再生すると、Windows NT がハングアップする。オーディオ CD の再生中に Windows NT を起動すると、オーディオ CD が一時停止する。	CD-ROM ドライブは、Solaris と Microsoft Windows で共有されています。 Microsoft Windows は CD を検出すると、すぐにその CD を一時停止します。	Solaris または Microsoft Windows のいずれかの CD 検出機能を無効にします。CD を両方のオペレーティングシステムが共有することはできません。いずれかのオペレーティングシステムで CD 検出機能を無効にすると、そのシステムでは CD を手動でマウントする必要があります。
CD-ROM ドライブに DVD ディスクを挿入しても動作しない。	SunPCi III ソフトウェアでは、DVD データディスクのみがサポートされています。	データフォーマットの DVD ディスクのみを使用してください。

CD-ROM ドライブのセットアップ

ワークステーションに複数の SCSI CD-ROM ドライブがインストールされている場合、SunPCi III ソフトウェアで使用するドライブを指定する必要があります。CD-ROM ドライブをセットアップするには、次の手順を実行します。

1. SunPCi III ソフトウェアを起動します。

アプリケーションを起動するために使用するコンソールウィンドウに、次のメッセージが表示されます。

```
sunpci3:Your sunpci.ini file does not specify a CD device  
assuming /vol/dev/aliases/cdrom0
```

2. [オプション] メニューから、[CD-ROM の接続] を選択します。

「CD-ROM デバイスファイルの指定」ダイアログボックスが表示されます。

3. 使用する CD-ROM デバイスへのパスを入力します (/vol/dev/aliases/cdrom0 など)。

4. [OK] をクリックします。

5. すべての Microsoft Windows オペレーティングシステムを終了します。

6. SunPCi III ウィンドウの [ファイル] メニューから [PC のリセット] を選択します。

SunPCi III ソフトウェアを再起動すると、SunPCi III は指定した CD-ROM ドライブを使用します。

ビデオディスプレイの問題

SunPCi III でリモートディスプレイを使用する場合は、Sun ワークステーションをディスプレイデバイスとして使用してください。Sun ワークステーション以外を SunPCi III のリモートディスプレイとして使用する場合、パフォーマンスが低下するか、全く動作しない可能性があります。

ディスプレイデバイスが Sun ワークステーションの場合のみ、SunPCi III のリモートディスプレイをサポートします。

Sun Blade 100 の 24 ビットディスプレイ

M64 フレームバッファを搭載する Sun Blade™100 ワークステーションの場合、SunPCi III ウィンドウで 24 ビットカラーを表示するには、次の手順を実行します。

1. 端末エミュレータを開き、root としてログインします。
2. テキストエディタでファイル /usr/dt/config/Xservers を開き、ファイルの最後の行を次のように編集します。

```
:0 Local local_uid@console root /usr/openwin/bin/Xsun :0
-nobanner -dev /dev/fb defdepth 24
```

3. ファイルを保存して閉じます。
4. 次のコマンドを入力して、現在の解像度の設定を表示します。

```
# m64config -prconf
```

5. 次のコマンドを入力して、ディスプレイを 24 ビットカラーに設定します。

```
# m64config -depth 24 -res 現在の解像度の設定
```

コマンド `m64config -prconf` によって返された解像度の設定を使用します。たとえば、次のように入力します。`m64config -depth 24 -res 1152x900x76`.

6. 次のコマンドを入力して、ルートウィンドウの色深度が 24 プレーンに変更されていることを確認します。

```
# xdpyinfo
```

7. システムを再起動します。

外部ビデオ解像度

表 A-4 には、SunPCi III ソフトウェアがサポートする外部 VGA ディスプレイの解像度が記載されています。最高の性能を得るには、使用可能なビデオメモリを8 MB (デフォルト) から 32 MB に増やしてください。この変更を行うには、231 ページの『SunPCi III プラットフォームでのゲームソフトウェアの実行』を参照してください。

注 – ビデオメモリを増やすと使用可能なシステムメモリが減ることに注意してください。詳細については 230 ページの『システムメモリの増設』を参照してください。

モニタの解像度またはディスプレイの色深度を変更する前に、実行しているアプリケーションをすべてシャットダウンし、作業を保存してください。適用する前に新しい設定をテストする必要はありません。次の表には、使用可能な解像度が記載されています。

表 A-4 ソフトウェアの外部ビデオ解像度 (VIA S3 Graphics ProSavage DDR)

解像度 (ピクセル)	色深度(色の数)
640 x 480	8, 16, 32
800 x 600	8, 16, 32
1024 x 768	8, 16, 32
1280 x 1024	8, 16, 32
1600 x 1200	8, 16, 32
1920 x 1440	8, 16

外部モニタと Windows NT

外部モニタのビデオ解像度として、実際の最大解像度を超える値を選択すると、Windows NT がフリーズすることがあります。この問題が発生した場合は、SunPCi の [ファイル] メニューから [PC のリセット] コマンドを選択して Windows NT を再起動します。オプションの選択画面で、Windows NT の VGA オプションを選択します。Windows NT が起動し、640 x 480 の解像度でデスクトップが表示されます。この解像度は、コントロールパネルを使用して変更することができます。

電源管理メッセージの問題

SunPCi III 3.0 を実行中、つまり SunPCi III カードの起動中に UltraSPARC システムを終了またはサスペンドしようとする、操作に失敗し、sunpci3drv ソフトウェアが次のメッセージをディスプレイに表示します。

```
sunpci3drv:sunpci_detach() Can't Suspend, there are N sessions running.
```

SunPCi III 3.0 ウィンドウを終了してから、システムをシャットダウンしてください。

USB と Firewire 接続の問題

USB または Firewire コントローラに問題があるか、これらのデバイス (デジタルカメラや外付 CD-RW ドライブなど) をコントローラに接続できない場合は、SunPCi メインカードと USB/Firewire カードおよび背面板が正しく挿入され、インストールされていることを確認します。

インストールの途中でカードを挿入する際に、他のカードが抜けてしまう場合があります。

インストールを完了する前には、両方のカードが PCI スロットに正しく挿入されていることを常に確認してください。

SunPCi IIIソフトウェアの問題

この項では、次の項目について説明します。

- 『ハードウェアエラーメッセージ』 - 161 ページ
- 『ソフトウェア起動エラーメッセージ』 - 171 ページ
- 『エミュレートハードドライブの問題』 - 172 ページ
- 『FAT16 ファイルシステムの制限の問題』 - 174 ページ
- 『ファイルシステムの互換性の問題』 - 175 ページ
- 『Windows NT4 TS の大容量エミュレートドライブファイルシステムのパーティション』 - 176 ページ

- 『エミュレートドライブと Windows XP Professional、Windows 2000、および Windows NT の問題』 - 177 ページ
- 『エミュレート C: ドライブをバックアップする方法』 - 177 ページ
- 『複数の Microsoft Windows オペレーティングシステムの使用』 - 178 ページ
- 『起動パーティションの作成』 - 178 ページ
- 『Solaris の不要なリンクの問題』 - 179 ページ
- 『プリインストール機種で Master.ini ファイルが見つからない』 - 179 ページ
- 『Sun Blade ワークステーションと Sun Enterprise サーバーの問題』 - 180 ページ
- 『複数のカードと Microsoft Windows の問題』 - 180 ページ
- 『SunPCi III ソフトウェアを使用した仮想ネットワークの構成』 - 181 ページ
- 『Xinerama ディスプレイの問題』 - 181 ページ
- 『CD-ROM からの Microsoft Windows のインストール』 - 181 ページ
- 『Solaris ファイルシステムにアプリケーションをインストールする際の問題』 - 182 ページ
- 『ファイル番号の表示』 - 182 ページ
- 『システムクロックとサマータイムの問題』 - 183 ページ
- 『日本語のコピーと貼り付け機能に関する問題』 - 183 ページ

インストールエラーメッセージ

SunPCi III ソフトウェアのインストール中や終了後に、コンソールウィンドウにエラーメッセージが表示されることがあります。次の表には、メッセージと問題を解決するための操作について記載しています。

表 A-5 インストールエラーメッセージ

メッセージ	推奨する操作
Driver failed to attach.	<p>このメッセージは、さまざまな原因で表示されます。</p> <ol style="list-style-type: none">1. インストール後にワークステーションを再起動する必要があります。Solarisの <code>boot -r</code> コマンドを使用してワークステーションを再起動し、SunPCi III ソフトウェアを再起動してください。2. SunPCi III カードが PCI スロットに正常に取り付けられていません。カードを取り付け直してください。3. 以上のいずれの操作を行っても解決されない場合、その SunPCi III カードが不良である可能性があります。サービスの詳細については、『SunPCi III クイックスタートインストールマニュアル』を参照してください。4. システムの OpenBoot Programmable Read-Only Memory (PROM) の更新が必要な場合があります。更新された OpenBoot PROM が現在のシステム構成で使用可能かどうかについては、サービスの提供元に問い合わせてください。

ソフトウェア起動エラーメッセージ

SunPCi III 3.0 ソフトウェアを起動するときに、次のエラーメッセージが発生する可能性があります。

表 A-6 ソフトウェア起動エラーメッセージ

メッセージ	説明
Command not found	SunPCi III プログラムディレクトリ (デフォルトでは/opt/SUNWspci3/bin) が環境 \$PATH にあることを確認します。\$PATH 変数の設定については、Solaris のマニュアルを参照してください。
Correct Solaris Installation Required	Solaris が適切にインストールされていない場合は、SunPCi III ソフトウェアを起動しようとする問題が発生します。SunPCi III ソフトウェアでは、Solaris のエンドユーザーシステム、開発者システム、またはディストリビューション全部のインストールが最低限必要となります。コアシステムしかインストールされていない場合、SunPCi III ソフトウェアは機能しません。ワークステーションにインストールされているシステムについては、システム管理者に問い合わせてください。

エミュレートハードドライブの問題

次の表は、大容量エミュレートドライブに関する一般的な質問と、それに対する回答を示したものです。

表 A-7 エミュレートハードドライブの問題

問題の説明	理由	解決方法
8 GB のエミュレートドライブを作成しましたが、2 GB しか表示されません。これはなぜですか？	FAT ファイルシステムを使用してインストールする場合、DOS が認識できるファイルサイズの上限は 2 GB です。	174 ページの『FAT16 ファイルシステムの制限の問題』を参照してください。エミュレートドライブをパーティションに分割する必要があります。エミュレートドライブファイルの残りの 6 GB を、さらにパーティションに分割することもできます。
デュアルブートのエミュレートドライブはサポートしません。	SunPCi III 3.0 ソフトウェアはデュアルブートのエミュレートドライブをサポートしていません。	NTFS 自動インストールを使用してオペレーティングシステムを新しくインストールすることも可能です。 複数のバージョンの Microsoft Windows を実行する場合は、オペレーティングシステムごとにエミュレートドライブを作成し、オペレーティングシステムとアプリケーションをインストールします。[オプション] メニューの [ドライブの接続] コマンドを選択し、オペレーティングシステム間の切り替えを行います。
C: ドライブの接続	いつでも C: ドライブに接続できるように、ドライブのアクセス権を変更することができます。アクセス権を変更すると、そのユーザーが SunPCi III を使用していない場合でも、他のユーザーは C: ドライブに接続できなくなります。	C: ドライブのアクセス権を変更するには、コマンドウィンドウに次の行を入力します。 <code>% chmod 600 ~/pc/C.diskimage</code> この設定により、他のユーザーはこのドライブにアクセスできなくなります。

表 A-7 エミュレートハードドライブの問題

問題の説明	理由	解決方法
ディスクエラーメッセージ 起動時に、「Non-system disk or disk error」というメッセージが表示される場合は、	C: ドライブが破損しているか、 A: ドライブに起動可能ディスクではないフロッピーディスクが挿入されている可能性があります。	A: ドライブにフロッピーディスクが挿入されていない場合は、\$HOME/pc (~/pc/sunpc.ini) でデフォルトの C: ドライブファイルを削除し、ソフトウェアを再起動します。
8 GB の新規エミュレートドライブを FAT ファイルシステムで作成し、Microsoft Windows をインストールしました。しかし、OS パーティションが起動しません。これはなぜですか？	エミュレートディスクファイルを新規作成すると、SunPCi は自動的に、そのディスクの最初の 2 GB を使用して 2 GB のパーティションを作成します。 Microsoft Windows をもう一方のパーティション (残りの 6 GB の部分) にインストールすると、DOS はその Windows を認識せず、SunPCi III ソフトウェアはそのパーティションから起動しません。	Microsoft Windows 用に 2 GB のパーティションを新しく作成する必要があります。174 ページの『FAT16 ファイルシステムの制限の問題』を参照してください。 NTFS 自動インストールを使用してオペレーティングシステムを新しくインストールすることも可能です。
パーティションを作成し、そこに Windows NT をインストールしました。どうして起動しないのでしょうか？	作成したパーティションが、エミュレートドライブの先頭位置から 4 GB を超える場所にあると、そのパーティションは起動しません。	そのエミュレートドライブの最初のパーティションに Windows NT をインストールしてください。174 ページの『FAT16 ファイルシステムの制限の問題』を参照してください。
1 つのエミュレートドライブ上に作成できるパーティション数に制限はありますか？	いいえ、パーティション数に制限はありません。ただし、その他の制限事項があります。	1 つのエミュレートドライブ上に複数のパーティションを作成するには、PartitionMagic を使用する必要があります。Microsoft Windows および DOS が認識できるドライブ文字は 26 個までであり、一部のドライブ文字は既にデフォルトで割り当てられている (A:, C:, D:, E: など。Windows 98 では F: など) ことに注意してください。詳細については、PartitionMagic のマニュアルを参照してください。

FAT16 ファイルシステムの制限の問題

SunPCi III 3.0 ソフトウェアでは、40 GB までのエミュレートドライブファイルを作成することができます。ただし、エミュレートドライブで FAT16 ファイルシステムを使用する場合、FAT16 ファイルシステム固有の制限により、アクセスできるディスク領域は最初の 2 GB のみになります。

Microsoft Windows オペレーティングシステムをインストールして起動した後、エミュレートドライブを FAT32 または NT ファイルシステム (NTFS) などの別のファイルシステムに再フォーマット、変換したり、再度パーティション分割したりすることができます。さらに、新しいパーティションを作成したり、既存のパーティションのサイズを変更したり、再フォーマットを行ったりすることもできます。PowerQuest 社の PartitionMagic や ServerMagic などのサードパーティ製パッケージを使用したり、Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT などの Microsoft オペレーティングシステムが提供するディスクの管理機能を使用して、これらの処理を実行することができます。

ファイルシステムの互換性の問題

異なるファイルシステムのパーティションを作成したり、変換したりすると、オペレーティングシステムによっては変換されたファイルシステムを認識できたり、できなかったりします。次の表は、SunPCi III ソフトウェアがサポートしているオペレーティングシステム間での、変換後のディスク領域へのアクセスについて示しています。列にチェックマークがある場合には、異なるオペレーティングシステムのファイルシステム形式にアクセス可能であることを示しています。

表 A-8 変換されたファイルシステム間のアクセス可能性

ファイルシステム形式	オペレーティングシステム						
	¹ Windows XP Professional	¹ Windows 2000 Server	¹ Windows 2000 Professional	¹ Windows NT4 TS	¹ Windows NT4 WS	¹ Windows 98	² Caldera OpenDOS
FAT16	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
FAT32	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
NTFS 4	✓	✓	✓	✓	✓		
NTFS 5 ³	✓	✓	✓				

¹ドライブにパーティションを作成したり、変換を行ったりするには、Microsoft Windows NTFS、FAT32、または PartitionMagic ユーティリティを使用できます。また、SunPCi III 3.0 ソフトウェアでは、サードパーティ製ツールで、サポートされているサーバーオペレーティングシステム用の ServerMagic、およびサポートされている非サーバーファイルシステム用の PartitionMagic の動作が確認されています。

²FAT32、NTFS 4、または NTFS 5 形式に変換すると、エミュレートドライブを起動したり、OpenDOS で表示することができなくなります。

³Windows 2000 で実行される NTFS 5 と Windows NT 4 で実行される NTFS 4 は、両方とも一般的に NTFS と呼ばれますが、この 2 つの間には互換性がありません。変換やパーティション作成を行う前に、バージョンを確認してください。

サーバーインストールでのファイルシステムの管理には、PowerQuest 社の ServerMagic サードパーティツールを使用してください。非サーバーインストールでのファイルシステムの管理には、PowerQuest 社の PartitionMagid ツールを使用します。これらのツールは次の PowerQuest 社の URL で入手できます。

<http://www.powerquest.com>

パーティション、起動パーティション、およびファイルシステムの制限に関する詳細については、『ServerMagic User Guide』および ServerMagic オンラインヘルプ、または『PartitionMagic User Guide』および PartitionMagic オンラインヘルプを参照してください。

Windows NT4 TS の大容量エミュレートドライブ ファイルシステムのパーティション

Windows NT4 TS のカスタムインストール後は、ファイルシステム構成固有の問題がいくつかあります。PowerQuest 社の ServerMagic 4.0 ソフトウェアを使用して Microsoft Windows のドライブを初めて拡張する際、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
init failed Error 117 partition drive letter can't be identified
```

PowerQuest 社の ServerMagic 4.0 を使用して 2 GB を超えるサイズのドライブを拡張するには、ServerMagic をインストールした際に作成した 2 枚のレスキュー起動ディスクを使用します。2 番目のレスキューディスクを挿入すると、ServerMagic が起動します。2 GB を超えるパーティションを拡張するには、ServerMagic の [Operation] メニューを開き、2 GB のパーティションに続くパーティションを削除します。次に最初のパーティションをハイライトし、[Operation] メニューから [Resize/Move] を選択して、SunPCi の「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスで定義した最大サイズにパーティションを拡張します。

一旦起動パーティションが NTFS または FAT32 ファイル形式に変換されてしまうと、OpenDOS を起動することはできません。これは既知の制限です。詳細については、174 ページの『FAT16 ファイルシステムの制限の問題』を参照してください。

ファイルシステムの変換後は、インストールした Microsoft Windows オペレーティングシステムからディスク領域全体にアクセスできるようになります。ただし、変換を実行する前に、175 ページの『ファイルシステムの互換性の問題』を参照してください。

エミュレートドライブと Windows XP Professional、Windows 2000、および Windows NT の問題

この項では、Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT で実行されるエミュレートハードドライブのファイルシステム形式のプロパティについて説明します。さらに詳しくは、13 ページの『エミュレートドライブおよび SunPCi III ソフトウェア』も参照してください。

FAT (FAT16 と FAT32) および NTFS (NT ファイルシステム) は、Microsoft Windows のハードディスクで使用されるファイルシステム形式です。NTFS ファイルシステムには、より多くのエラー修復メカニズムがあり、この機能により FAT ファイルシステムよりも安定しています。ただし、パフォーマンスは少し低下します。

Microsoft Windows インストールパッケージに含まれている Microsoft Windows のマニュアルに、FAT と NTFS ファイルシステムの違いが説明されています。

エミュレート C: ドライブをバックアップする方法

Microsoft Windows をインストールした後、C: ドライブのディスクイメージのコピーを定期的に作成する必要があります。何らかの事情によりドライブの内容を回復する必要がある場合、このコピーをバックアップとして使用できます。

1. C: ドライブのディスクイメージを見つけます。

ディスクイメージは、ワークステーションのホームディレクトリ内の `pc` というディレクトリに保存されています。ディレクトリの内容を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
% cd ~/pc
% cat SunPC.ini (またはこの c: ドライブの特定の .ini ファイル名)
```

ファイルのリストが表示されます。このリストには、インストール時に C: ドライブに割り当てた名前 (`C.diskimage` など) が含まれています。

2. このファイルのコピーを作成します。

実際のハードディスクの名前およびコピーに割り当てる名前を使用して、次のコマンドを入力します。

```
% cp C.diskimage C.diskimage.copy
```

複数の Microsoft Windows オペレーティングシステムの使用

SunPCi ソフトウェアで複数のバージョンの Microsoft Windows を使用する場合、各オペレーティングシステムを別々のエミュレートドライブファイルにインストールすることをお勧めします。複数のオペレーティングシステムを 1 つのドライブにロードすることはお勧めできません。オペレーティングシステムを変更するには、[オプション] メニューの [ハードドライブの接続] コマンドを使用してエミュレートドライブを変更します。

たとえば、Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT、または Windows 98 で、デュアルブート SunPCi III ソフトウェアを使用するには、別の C: ドライブを作成します。上記のオペレーティングシステムのいずれかを実行する場合、[オプション] メニューから [ハードドライブの接続] コマンドを使用し、対応するオペレーティングシステムがインストールされている C: ドライブファイルを選択します。その後、SunPCi III ソフトウェアをリセットします。

注 - パーティションごとにインストールされた複数のバージョンの Microsoft Windows を使用する場合は、起動ドライブパーティションユーティリティをインストールする必要があります。PartitionMagic に同梱された BootMagic、および ServerMagic は SunPCi III ソフトウェアで動作が確認されています。

起動パーティションの作成

起動パーティションとは、オペレーティングシステム (Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT、Windows 98 など) がインストールされたディスクパーティションです。起動パーティションの必要条件は、Microsoft Windows のバージョンごとに異なります。Microsoft Windows オペレーティングシステムのマニュアルおよび『PartitionMagic User Guide』には、各オペレーティングシステムの必要条件についての情報が含まれています。ディスクユーティリティに PartitionMagic を使用している場合、起動パーティションの詳細については、PartitionMagic のユーザーガイドやヘルプを参照してください。

Solaris の不要なリンクの問題

削除または移動したファイルやディレクトリへのシンボリックリンクなど、ワークステーションのファイルシステム内のファイルに対して不要なリンクがある場合、これらのリンクを更新するか削除してください。不要なリンクを更新または削除しない場合は、ファイルシステムを参照するときに Microsoft Windows がフリーズする可能性があります。

プリインストール機種で Master.ini ファイルが見つからない

SunPCi III 3.0 ソフトウェアをプリインストールした機種の場合、またはハードウェアのインストール前に SunPCi III 3.0 ソフトウェアをインストールした場合は、`/etc/Master.ini` ファイルが作成されず、SunPCi III を最初に起動した時に次のメッセージが表示されます。

```
ERROR, there are no cards specified in the Master.ini file.
```

SunPCi III 3.0 ソフトウェアを正しく実行するには、SunPCi の Solaris ドライバを強制的にリロードし、次の手順で `/etc/Master.ini` ファイルを作成します。

1. SunPCi III 3.0 ソフトウェアで `/opt/SUNWspci3/drivers/solaris` ディレクトリに移動します。
2. `sunpload` コマンドを入力します。

注 - `sunpload` コマンドを正しく実行するには、`root` としてログインする必要があります。

このコマンドを実行すると、SunPCi III 3.0 ソフトウェア用の Solaris ドライバがリロードされ、`/etc/Master.ini` ファイルが作成されます。このファイルには、SunPCi III 3.0 ソフトウェアを正しく実行するために必要な構成情報が含まれます。

Sun Blade ワークステーションと Sun Enterprise サーバーの問題

Sun Blade ワークステーションや Sun Enterprise サーバーに SunPCi III カードをプリインストールした場合や、ソフトウェアのバージョンが SunPCi III 3.0 ではない場合は、プリインストールされた Solaris イメージを構成した後で SunPCi III 3.0 ソフトウェアのインストールが必要となる可能性があります。

- SunPCi III ソフトウェアが既にインストールされているかどうかを確認するには、システムプロンプトに次のコマンドを入力します。

```
% pkginfo -l SUNWspci3
```

システムが次のようなメッセージを返す場合は、SunPCi III 3.0 ソフトウェアを CD からインストールする必要があります。

```
ERROR: information for "SUNWspci3"
```

複数のカードと Microsoft Windows の問題

複数のカードをインストールする場合は、`sunpci -p` コマンドオプションを使用して、必要なエミュレートドライブを参照する構成ファイル (.ini) のうち 1 つを選択します。詳細については、『SunPCi III ユーザーマニュアル』を参照してください。

SunPCi III ソフトウェアを使用した仮想ネットワークの構成

複数のネットワークインタフェースを備えた UltraSPARC システムに SunPCi III 3.0 ソフトウェアをインストールする場合は、SunPCi III 起動スクリプトに次のメッセージが表示されます。

```
SunPCi:This machine has multiple network interfaces.If you are
using SunPC networking, you need to set the environment variable
NVL_INTERFACE to indicate the desired network interface.Type
netstat -i for a list of interfaces on this machine.
```

スクリプトにインタフェース名を入力します。たとえば、`netstat -i` コマンドが、`hme0`、`hme1`、`eri0` などの名前を返す場合、その名前をスクリプトに入力します。特に仮想ネットワークを使用する場合は、確実に正しい Ethernet 名を使用してください。仮想ネットワークでは UltraSPARC システムの Ethernet ポートを共有します。

Xinerama ディスプレイの問題

Xinerama セッションで SunPCi III を使用する場合は、SunPCi III セッションがデフォルトでない右サイドのフレームバッファで表示するために設定されていると、マウスの動作が安定しない場合があります。この問題を回避するためには、Xinerama セッションで SunPCi III を使用する場合は、SunPCi III ディスプレイをデフォルトの左サイドのフレームバッファで設定します。

CD-ROM からの Microsoft Windows のインストール

Microsoft Windows を SunPCi III 製品にインストールする際に、[CD-ROM から実行] オプションを使用することはできません。他のオプションを使用してください。

Solaris ファイルシステムにアプリケーションをインストールする際の問題

Windows XP Professional、Windows 2000、および Windows NT では、Sun ファイルシステムドライバ (SunFSD) は DOS 形式のショートファイルネーム (SFN) 変換規則をサポートしません。SFN は 8.3 形式の DOS ファイル名変換規則とも呼ばれます。Microsoft Windows のアプリケーションをインストールしようとする、DOS ファイル名変換規則が原因となり、インストールが失敗する場合があります。

注 – SunPCi III プラットフォーム上に新しいアプリケーションをインストールする際は、Microsoft Windows CD を手元に用意してください。インストール中に、Microsoft Windows の CD 内のファイルが必要になる場合があります。

SFN 規則では、拡張子以外のファイル名が 9 文字以上の長いファイル名とディレクトリ名が、6 文字に変換され、末尾にチルド (~) と番号が追加されます。たとえば、THIS_IS_A_LONG_FILE_NAME.DAT というファイル名は、THIS_I~1.DAT (8.3 形式の SFN) に変換されます。

SunFSD では SFN 規則がサポートされていないので、この変換規則を使用する古い Microsoft Windows アプリケーションは正常にインストールできない場合があります。ほとんどの新しいアプリケーションは、ファイルシステムの 8.3 形式変換サポートに依存していないので、問題は発生しません。

ファイル番号の表示

古い Microsoft アプリケーション (「DOS コマンドプロンプト」ウィンドウなど) では、9 文字以上のファイル名が 8.3 形式に短縮され、末尾に番号 (~1 など) が追加されることがあります。この番号を**ファイル番号**と呼びます。Windows 98 ウィンドウ、DOS ウィンドウ、または Windows NT や Windows 2000 のコマンドプロンプトウィンドウで拡張ドライブ上の長いファイル名を読み取る際には、ファイル番号が 1 で終わるファイル名だけが表示されます。~2、~3 などは表示されません。

注 – 「DOS セッション」という用語は、Windows 98 からアクセスする DOS シェルウィンドウを指しています (Windows NT および Windows 2000 では「コマンドプロンプト」ウィンドウと呼ばれます)。OpenDOS 7.01 で実行される OpenDOS を指すものではありません。

システムクロックとサマータイムの問題

サマータイム (DST) の変更前に SunPCi III セッションをシャットダウンし、DST の変更後に再起動すると、時刻変更後の最初の SunPCi III セッションで 2 時間の誤差が表示されます。つまり夏から秋の場合、表示時刻は 1 時間ではなく 2 時間進み、春から夏の場合、表示時刻は 1 時間ではなく 2 時間遅れます。ただし 2 回目以降のセッションでは、時刻は正常に表示されます。

サマータイムの変更時に SunPCi III セッションを実行していた場合は、システムクロックは正しく変更されます。

日本語のコピーと貼り付け機能に関する問題

日本語のコピーと貼り付け機能をサポートするように \$HOME/pc/SunPCi.ini ファイルを編集した場合、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Warning, bad clipboard translation codeset specified in SunPC.ini  
file:codeset.Ignoring.
```

このメッセージは、編集したファイルにエラーがある可能性を示しています。詳細については 154 ページの『Microsoft Windows と Solaris 間で日本語コピーと貼り付けを可能にする方法』を参照してください。

ネットワークと SunFSD に関する問題

この項では、次の項目について説明します。

- 『SunFSD へのアプリケーションのインストール』 - 184 ページ
- 『拡張ドライブ (SunFSD) の問題』 - 185 ページ
- 『構成後のネットワークの起動が遅い』 - 185 ページ
- 『他のシステムに接続できない』 - 185 ページ
- 『SunFSD ソースディレクトリからのアプリケーションのインストール』 - 186 ページ
- 『SunFSD ターゲットディレクトリへのアプリケーションのインストール』 - 187 ページ
- 『ネットワークコンピュータの問題』 - 187 ページ
- 『ネットワークドライブを参照する際に、ソフトウェアがハングアップしたように見える』 - 188 ページ
- 『ネットワークドライブの問題』 - 189 ページ
- 『速度が遅いネットワークでのプリンタの追加インストール』 - 190 ページ

SunFSD へのアプリケーションのインストール

アプリケーションによっては、SunFSD を含むネットワークドライブにインストールできないものがあり、その場合はエミュレートディスクに直接インストールする必要があります。

注 - いくつかのソフトウェアのインストールと SunFSD に関する特定の問題については、213 ページの『Microsoft Windows アプリケーションと SunFSD の問題のトラブルシューティング』を参照してください。

拡張ドライブ (SunFSD) の問題

ファイルシステムドライブを使用する際に、次の問題が発生することがあります。

- ファイルの属性 (「読み取り専用」や「書き込み専用」など) が正常に機能しないことがある。
- ファイルリンクが、ファイルシステムドライブで機能しない。ファイルシステムドライブにあるファイルにリンクする必要がある場合は、そのファイルを C: または D: ドライブに移動してからリンクを作成します。
- デスクトップにファイルシステムドライブのファイルへのショートカットを作成する場合、ドライブ上でそのファイルの場所を変更しても、ショートカットは自動的に更新されません。この場合は、既存のショートカットを削除し、新しいショートカットを作成する必要があります。
- このバージョンのソフトウェアでは、UNC パス名 (¥¥localhost¥export¥home¥myfiles.doc など) を使用して、Office XP または Office 2000 のファイルを検索することができません。

構成後のネットワークの起動が遅い

ネットワークを構成した後 Microsoft Windows を初めて起動する際には、ネットワークが起動するまでに数分かかることがあります。特に SunPCi III カードとともに DHCP を使用している場合は時間がかかりますが、これは初回の起動時における正常な動作です。

他のシステムに接続できない

注 – この項の説明は、仮想 Ethernet ネットワーク構成にのみ該当します。物理 Ethernet 接続を使用している場合は、この項を省略してください。

SunPCi III ソフトウェアを使用してネットワーク上の他のシステムに接続できない場合は、問題を診断する前に、SunPCi III ソフトウェアとシステムが次のように構成されていることを確認してください。

- システムと SunPCi III ソフトウェアホストの IP アドレスが異なっていること。
- SunPCi III ソフトウェアホストとワークステーションが同じ物理的サブネットワーク上に存在すること。ただし、異なる仮想サブネットワーク上に存在してもかまいません。

- ワークステーションと SunPCi III ソフトウェアが同じネットワークマスクを持っていること。ネットワークマスクの値は使用しているネットワークの種類によって異なります。詳細については、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

注 – ワークステーションと同じサブネット上にある他のシステム、および異なるサブネット上にあるシステムの名前と IP アドレスを確認する必要があります。この情報がない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

SunFSD ソースディレクトリからのアプリケーションのインストール

SunFSD に割り当てられているドライブへのアプリケーションインストールが失敗する場合は、インストールソフトウェアが格納されているディレクトリパスを調べます。割り当てられているディレクトリパスの名前が、すべて 8 文字以下であることを確認してください。

たとえば、Q: というドライブ文字が

¥¥localhost¥¥WatchGuard¥¥AntiVirusSoftware に割り当てられているとします。

AntiVirusSoftware ディレクトリには、AntiVirusForEmmy および AV4KATY というサブディレクトリがあります。

AntiVirusForEmmy に格納されたソフトウェアのインストールが失敗する場合は、インストールプログラムで使用されたこのサブディレクトリ名が 9 文字以上あることが原因であると考えられます。この場合は、サブディレクトリ名を 8 文字以下 (たとえば、AV4EMM) に変更し、もう一度インストールを試行します。

AV4KATY ディレクトリの名前は 8 文字以下なので、このサブディレクトリからのアプリケーションインストールは正常に実行されます。

注 – 割り当てられたパス名が WatchGuard¥¥AntiVirusSoftware のように 9 文字以上の名前を含んでいる場合でも、パス名のこの部分はインストールプログラムに影響しません。制約が課されるのは、割り当てられたドライブ文字以下のファイル名のみです。

SunFSD ターゲットディレクトリへのアプリケーションのインストール

アプリケーションのインストールプログラムで SunFSD に割り当てられているドライブへのインストールが失敗し、Path Not Found または File Not Found という警告が表示される場合は、そのインストールプログラムが保存先ファイルシステムの 8.3 形式サポートに依存している可能性があります。この問題は特に、インストール先パスのファイル名にスペースが含まれている場合に発生します。

たとえば、Corel WordPerfect Office 2000 では、デフォルトのインストール先に WordPerfect Office 2000 というディレクトリを使用します。このディレクトリが SunFSD ドライブに作成されている場合、インストールプログラムの一部のプロセスは 8.3 ファイル名を使用しようとします。その結果、ファイル Q:WordPerfect が見つからないというダイアログボックスが表示されます。SunFSD では 8.3 形式がサポートされていないため、ファイル名にスペースが埋め込まれていると、インストールプログラムで混乱が生じます。

このような場合は、保存先ディレクトリ名を変更してスペースが含まれないようにすると、インストールが正常に続行されます。たとえば、WordPerfect Office 2000 というディレクトリを WordPerfect_Office_2000 に変更します。

この例ではファイル名が 9 文字以上になりますが、Corel WordPerfect Office 2000 は新しいアプリケーションなので、長いファイル名を使用することができます。このような問題が発生するのは、インストール手順で古い技術が使用されているためです。

ネットワークコンピュータの問題

注 - この項では、仮想 Ethernet ネットワークについて説明します。物理 Ethernet 接続には該当しません。

Microsoft Windows のデスクトップの [ネットワークコンピュータ] を開くと、「ネットワークコンピュータ」ウィンドウには [マイワークステーション] が表示されません。ワークステーションと SunPCi III カードは同じネットワークインタフェースを共有するため、ネットワーク上でお互いを「検出」することはできません。ただし、ネットワーク上で相互に通信することはできます。

仮想ネットワークを使用して SunPCi III ホストでワークステーションをネットワークする方法については、37 ページの『SunPCi III ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定』を参照してください。

ネットワークドライブを参照する際に、ソフトウェアがハングアップしたように見える

ネットワークドライブを参照する際に、非常に長い遅延が発生することがあります。ドライブの内容を検索するときには、SunPCi III ソフトウェアがハングアップしたように見えることもあります。これは、Solaris ソフトウェアに、ワークステーションのすべての自動マウントポイントを自動的に表示できる「参照」機能が含まれているためです。

この参照機能が有効になっていると、ワークステーションのファイルを参照する際に、Microsoft Windows アプリケーションの動作速度が極端に遅くなることがあります。また Windows エクスプローラで非常に大きなディレクトリを表示したり、これらの大きなディレクトリ内のサブディレクトリに保存しようとしたりすると、問題が発生することもあります。

この問題を解決するには、Solaris の auto_master ファイルを編集して、この機能を無効にします。このファイルを編集するには、次の手順を実行します。

1. テキストエディタを使用して /etc/auto_master ファイルを開きます。

ファイルには次のような文字列が含まれます。

```
# Master map for automounter
#
+auto_master
/net          -hosts          -nosuid,nobrowse
/home        auto_home       -nobrowse
/xfn         -xfn
```

2. ファイル内の +auto_master 行を、リストの最後に移動します。

-nosuid, nobrowse および -nobrowse キーワードがファイルに含まれていない場合は、+auto_master 行の前に追加してください。ファイルは次のようになります。

```
# Master map for automounter
#
/net          -hosts          -nosuid,nobrowse
/home        auto_home       -nobrowse
/xfn         -xfn
+auto_master
```

3. ファイルを保存し、テキストエディタを終了します。
4. システムを再起動します。
「参照」機能がオフになります。

ネットワークドライブの問題

Windows エクスプローラでネットワークドライブをマウントできない場合は、SunPCi III プラットフォームにネットワークがインストールされていない可能性があります。

まずネットワークへのログインを試行してください。Solaris からネットワークにアクセスできる場合は、SunPCi III ソフトウェアの [スタート] メニューから [コントロールパネル] を選択し、[ネットワーク] をダブルクリックします。ネットワークに SunPCi III インストールを設定します。詳細については、Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。

ログイン後もネットワークに接続できない場合は、Microsoft Windows を再インストールする必要があります。

ネットワークにログインするには、次の手順に従ってください。

- SunPCi III ソフトウェアを起動し、表示されるダイアログボックスにユーザー名とパスワードを入力して Microsoft ネットワークにログインします。

既に SunPCi III ソフトウェアを実行している場合、ネットワークにログインするには次の手順に従ってください。

1. [スタート] ボタンをクリックし、[Windows の終了] を選択します。
2. シャットダウンするか再起動するかを確認するダイアログボックスが表示されたら、[再起動する] をクリックします。
3. 「Microsoft ネットワーク」ダイアログボックスが表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。

これで、ネットワークドライブのマウントが可能になります。Windows エクスプローラを使用してネットワークドライブを割り当てる方法については、149 ページの『拡張ドライブおよび SunPCi III ソフトウェア』を参照してください。

速度が遅いネットワークでのプリンタの追加インストール

Windows NT を使用して、速度が遅いネットワークにプリンタを追加インストールしようとする、インストールの過程でフリーズする場合があります。

次のコマンドを入力して応答するまでに 1 分以上かかる場合は、ネットワークとインストールに問題があります。

```
% lpstat -v
```

ネットワークの動作が正常であればこの問題は発生せず、lpstat -v コマンドには数秒で応答があります。

これは既知の問題であり、現在原因を調査中です。

Windows XP Professional と Windows 2000 の問題

この項では、SunPCi III ソフトウェアの本リリースにおける Windows XP Professional および Windows 2000 の既知の問題について説明します。この項では、次の項目について説明します。

- 『カスタムディスプレイモードの問題』 - 191 ページ
- 『2つのマウスポインタの問題』 - 192 ページ
- 『ファイルシステムドライブの問題』 - 194 ページ
- 『Microsoft DirectDraw パフォーマンスの問題』 - 194 ページ
- 『Windows XP Professional および Windows 2000 の問題のトラブルシューティング』 - 195 ページ
- 『Easy CD Creator の問題』 - 196 ページ
- 『セーフモードで起動するとマウスが使用できない』 - 197 ページ
- 『D: ドライブ追加後の間違ったパス名』 - 197 ページ
- 『CD-ROM ドライブの問題』 - 197 ページ
- 『SunFSD ドライブの割り当てを解除できない』 - 198 ページ
- 『RealPlayer 6.0 が新しい CD-ROM ドライバのインストールを試行する』 - 198 ページ

- 『Windows Media Player 8 および 9 とオーディオ CD の問題』 - 198 ページ
- 『Windows Media Player 8 および 9 と仮想 CD-ROM の問題』 - 199 ページ

このリストに記載されたすべての問題は、特に説明のないかぎり、両方のオペレーティングシステムに関連するものです。

カスタムディスプレイモードの問題

Windows 2000 および Windows XP Professional では、カスタムディスプレイモードを設定することができます。ディスプレイモードでは、Microsoft Windows デスクトップで使用可能な新しいサイズとオプションの色深度を設定します。カスタムディスプレイモードでは、画面の幅と高さ（ピクセル値）およびオプションのビット深度（8、16、24 ビット）を指定します。

SunPC.ini ファイルの [Display] セクションに、次の書式で指定します。

タグ= 幅,高さ [,深度]

ここで幅、高さ、および深度 (オプション) はすべて十進数で指定し、タグは次のうちいずれかを選択します。

- CustomMode
- CustomMode1
- CustomMode2
- CustomMode3
- CustomMode4
- CustomMode5
- CustomMode6
- CustomMode7
- CustomMode8
- CustomMode9

タグの値を数字順またはアルファベット順に並べる必要はありません。たとえば、[Display] セクションに追加する項目は、次のような順番でかまいません。

```
[Display]
CustomMode=1280, 960, 16
CustomMode4=1000,800, 24
CustomMode2=1280, 960, 8
```

これにより、1280x960 16 ビット、1000x800 24 ビット、および 1280x960 8 ビットディスプレイモードが、使用可能なモードのリストに追加されます。

注 - ディスプレイが 8 ビットグラフィックをサポートしない場合は、上の CustomMode2 などの 8 ビットエントリは無視され、除外されたエントリが SunPCi ログファイルに記録されます。

幅と高さのパラメータは入力必須です。ただし、**深度**の値を指定しない場合は、ディスプレイがサポートする深度ごとにモードが作成されます。このため、16 ビットおよび 24 ビットグラフィックをサポートするシステムでは、次のエントリが [Display] セクションに追加されます。

```
CustomMode6=1200, 1000
```

この例では、1200x1000 16 ビットおよび 1200x1000 24 ビットという 2 つのモードが作成されます。

2 つのマウスポインタの問題

Windows XP Professional または Windows 2000 の実行中に Microsoft Windows のマウスポインタを SunPCi III ウィンドウの外に移動しようとする、デスクトップに 2 つのポインタが表示されます。1 つは Microsoft Windows のポインタが SunPCi III ウィンドウの境界に停止したもので、もう 1 つは SunPCi III ウィンドウの外に表示されたポインタです。

Microsoft Windows のポインタは SunPCi III ウィンドウの内側だけで動作します。もう 1 つのポインタは通常隠れていますが、SunPCi III ウィンドウから外に出た時だけ表示されます。

SunPCi III ウィンドウの内側に戻ると、通常隠れているポインタが消え、Microsoft Windows のポインタだけの動作が表示されます。この問題を解決するには、ディスプレイを 16 ビット/ピクセル (BPP) に変更するか、ポインタの影の設定を無効にします。

ディスプレイを 16 ビットに変更するには、次の手順に従います。

1. Windows デスクトップを右クリックします。
2. [プロパティ] を選択します。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. [設定] タブをクリックします。
4. [画面の色] ドロップダウンリストボックスで「中 (16 ビット)」をクリックします。
5. [適用] をクリックします。
新しい設定を適用している間、デスクトップがちらつきます。
6. 「画面のプロパティ」ダイアログボックスで [OK] をクリックします。
マウスポインタの影を無効にするには、次の手順に従います。
1. [マイコンピュータ] アイコンを右クリックします。
2. [プロパティ] を選択します。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. [詳細] タブをクリックします。
4. [パフォーマンス] グループボックスの [設定] をクリックします。
「パフォーマンスオプション」ダイアログボックスが表示されます。
5. [ポインタの影を有効にする] チェックボックスをオフにします。
6. [適用] をクリックします。
7. 「パフォーマンスオプション」ダイアログボックスで [OK] をクリックします。
8. [OK] をクリックして [システムのプロパティ] ダイアログボックスを閉じます。

ファイルシステムドライブの問題

ファイルシステムドライブを使用する際に、次の問題が発生することがあります。

- ファイルの属性 (「読み取り専用」や「書き込み専用」など) が正常に機能しないことがある。
- ファイルリンクが、ファイルシステムドライブで機能しない。ファイルシステムドライブにあるファイルにリンクする必要がある場合は、そのファイルを C: または D: ドライブに移動してからリンクを作成します。
- デスクトップにファイルシステムドライブのファイルへのショートカットを作成する場合、ドライブ上でそのファイルの場所を変更しても、ショートカットは自動的に更新されません。この場合は、既存のショートカットを削除し、新しいショートカットを作成する必要があります。
- ファイルシステムドライブ、または `¥¥localhost¥` パスを使用して割り当てられたドライブに保存されているオブジェクト (クリップアートファイルなど) は、Microsoft Office XP アプリケーションに正常に挿入できません。この場合は、オブジェクトをまず C: ドライブや D: ドライブに移動またはコピーしてから文書に挿入する必要があります。
- このバージョンのソフトウェアでは、Universal Naming Convention (UNC) パス名 (`¥¥localhost¥export¥home¥myfiles.doc` など) を使用して Office 97、Office 2000、または Office XP のファイルを検索することができません。これは既知の問題であり、現在原因を調査中です。

ファイルシステムドライブに関する詳細については、149 ページの『ファイルシステムドライブ』を参照してください。

Microsoft DirectDraw パフォーマンスの問題

Microsoft が新しく導入したグラフィックエンジンの集合体は DirectX と呼ばれ、そのコンポーネントの 1 つに DirectDraw があります。SunPCi の内部ディスプレイは X ウィンドウプロトコルに基づくもので、Solaris プラットフォームのグラフィックアダプタに直接アクセスしていません。このため、SunPCi ソフトウェアの古いバージョンでは、DirectDraw の機能はデフォルトで無効になっています。Office XP などの新しいソフトウェアの多くは、デフォルトで DirectDraw が有効になっています。

DirectDraw はデフォルトで有効です。ただし、DirectDraw を有効にした状態で Windows 2000 または Windows XP Professional の特定のアプリケーションや、3D スクリーンセーバーなどの基本オペレーティングシステムの特定のアプレットを使用すると、グラフィックパフォーマンスが低下する場合があります。

3D スクリーンセーバーで通常のパフォーマンスを必要とする場合や、SunPCi III 3.0 ソフトウェアをインストールした後にグラフィックパフォーマンスが低下した場合は、次の手順に従って DirectDraw を無効にすることができます。

1. SunPCi .ini ファイルの [Display] セクションに次の行を追加します。

```
[Display]
...
DirectDraw=off
```

2. SunPCi セッションを再起動します。

Windows XP Professional および Windows 2000 の問題のトラブルシューティング

次の表に、Windows XP Professional および Windows 2000 で発生する可能性のある問題とその原因、および推奨される解決方法を示します。

表 A-9 Windows XP Professional および Windows 2000 の問題

問題	原因	解決方法
Windows XP Professional または Windows 2000 にアップグレードすると、「ブルースクリーン」に「INACCESSIBLE_BOOT_DEVICE」というエラーメッセージが表示される。	45 ページの『Windows XP Professional へのアップグレード』で推奨されている手順ではなく、Windows XP Professional または Windows 2000 CD の Microsoft 標準アップグレード手順が使用されました。	C: ドライブのバックアップコピーを使用して、ドライブを修復します。 C: ドライブのバックアップを作成していない場合は、新しく C: ドライブを作成し、このマニュアルの手順に従って Windows XP Professional をインストールします。この場合、アプリケーションはすべて再インストールする必要があります。

表 A-9 Windows XP Professional および Windows 2000 の問題

問題	原因	解決方法
Windows XP Professional または Windows 2000 をインストールすると、「ブルースクリーン」に「INACCESSIBLE_BOOT_DEVICE」というエラーメッセージが表示される。	42 ページの『Windows XP Professionalのインストール』で推奨されている手順ではなく、Windows XP Professional または Windows 2000 CD の Microsoft 標準インストール手順が使用されました。	42 ページの『Windows XP Professional のインストール』のインストール手順を使用して、ソフトウェアを正しくインストールしてください。
Microsoft Office XP または Microsoft Office 2000 にファイルを挿入できない。	オブジェクトファイル (クリップアートや Excel スプレッドシートなど) が、ファイルシステムドライブまたは ¥¥localhost¥ パス を使用して割り当てられたドライブ上に保存されています。	オブジェクトファイルを C: ドライブや D: ドライブにコピーまたは移動してから、もう一度挿入してください。
[スタート] ボタンをクリックすると、マウスが機能しなくなる (16 ビットおよび 24 ビットディスプレイのみ)。	コントロールパネルの [画面] の画面フェード効果でソフトウェアの競合が発生しています。	コントロールパネルの [画面] でフェード効果をオフにします。[視覚効果] の最初のチェックボックスをオフにします。[OK] をクリックします。マウスは正常に動作するようになります。

Easy CD Creator の問題

Easy CD Creator は内部 CD-ROM ドライブをサポートしていません。このアプリケーションを使用するには、外付 CD-ROM ドライブを接続し、このドライブで CD の読み出しと書き込みを行います。CD をコピーするには、コピー元の CD を外付デバイスに挿入し、ディスクのコピーを行います。外付デバイスの CD を書き込み可能なメディアと交換し、元のディスクのファイルを外付ドライブのコピー先メディアにコピーします。

セーフモードで起動するとマウスが使用できない

セーフモードで起動すると、Sun マウスフィルタドライバは削除されます。このため、マウスを使用して操作することができません。

セーフモードで起動するには次の手順に従います。

1. Windows XP Professional の起動中に F8 キーを押します。
2. 「セーフモード」を選択して、Return キーを押します。
3. オペレーティングシステムがセーフモードで起動しますが、マウスは使用できません。

これは既知の問題であり、現在原因を調査中です。

D: ドライブ追加後の間違ったパス名

Windows XP Professional の使用中に、新規に割り当てた D: ドライブのパス名が正しく表示されない場合があります。

既存の SunFSD ドライブにドライブ文字 D: を割当て、その後別のエミュレートドライブを D: ドライブとして接続した場合に、この状況が発生します。再起動すると、接続したエミュレートドライブの D: には以前に割り当てられた SunFSD ドライブのパス名が表示されます。

パス名のリストが間違っている場合でも、D: ドライブと SunFSD ドライブには影響なく、正しい内容が保持されます。

これは既知の問題であり、現在原因を調査中です。

CD-ROM ドライブの問題

Windows 2000 Professional を使用中に、CD-ROM ドライブの表示に時間がかかったり、またはまったく更新されないことがあります。これには、CD に関するシステム情報や、Windows エクスプローラで表示する際の CD のタイトルなどが含まれます。これは既知の問題であり、現在原因を調査中です。

SunFSD ドライブの割り当てを解除できない

Windows 2000 Professional のインストール中に管理者権限のないユーザーアカウントを複数作成すると、管理者以外のユーザーによる SunFSD ドライバの割り当てと解除の問題が次の状況で発生します。

- 管理者は、別の管理者が割り当てた SunFSD ドライブを解除することはできるが、一般ユーザーが割り当てたものは解除できない。
- 管理者権限のないユーザーは、自分が割り当てた SunFSD ドライブを解除できない。

これは既知の問題であり、現在原因を調査中です。

RealPlayer 6.0 が新しい CD-ROM ドライバのインストールを試行する

Windows 2000 を使用中に CD-ROM のオーディオケーブルを SunPCi カードに接続すると、RealPlayer が更新されたドライバのインストールを要求する場合があります。ドライバを更新すると、CD-ROM ドライブで読み込みと音楽の再生ができなくなります。

この問題を回避するには、CD-ROM ドライブを SunPCi カードに接続してから RealPlayer が新しいドライバをインストールしないようにします。

Windows Media Player 8 および 9 とオーディオ CD の問題

Windows XP Professional を使用中に Windows Media Player 8 または 9 を起動すると、CD の再生で問題が発生する場合があります。

CD を挿入すると、CD をデジタルモードで読み取り中にエラーが発生したため、アナログモードに切り替えるかどうかを確認するダイアログボックスが表示される場合があります。[OK] をクリックします。その後、アナログモードに切り替え可能であると告げる別のダイアログボックスが表示される場合があります。[閉じる] をクリックします。その後も CD が正しく再生できない場合があります。

SunPCi III は CD-ROM デバイスからのデジタルオーディオ抽出機能をサポートしていません。この問題を回避するには、次の手順に従ってデジタルオーディオ抽出機能を無効にします。

1. Windows Media Player を起動します。
2. [ツール] メニューで [オプション] を選択します。
3. [デバイス] タブをクリックします。
4. オーディオ CD (D:) がハイライト表示されていない場合、これをハイライトします。
5. [プロパティ] をクリックします。
6. [再生] グループボックスの [アナログ] ラジオボタンをクリックします。
7. [OK] を選択して [プロパティ] ウィンドウを閉じます。
8. [OK] を選択して [オプション] ウィンドウを閉じます。
これで CD を正しく再生することができます。

Windows Media Player 8 および 9 と仮想 CD-ROM の問題

Windows XP Professional を使用中に Windows Media Player 8 または 9 を起動すると、新しいウィンドウが表示されてすぐに消える場合があります。この問題は通常、198 ページの『Windows Media Player 8 および 9 とオーディオ CD の問題』で説明した問題の解決を試行しているときに発生します。

この問題が発生するのは、1 回のセッションでこのメニューの選択を 2 回以上行う場合のみです。これは、Windows Media Player 8 または 9 が仮想 CD-ROM ドライブで正しく動作しないことがあるためです。

この問題を解決するには、Windows Media Player を終了し、もう一度起動すると正しく動作します。

Windows NT の問題

この項では、Windows NT を使用する際に発生する可能性がある、以下の問題について説明します。この項では、次の項目について説明します。

- 『外部ビデオの問題』 - 200 ページ
- 『ネットワークドライブへのアプリケーションのインストール』 - 200 ページ
- 『Windows NT の自動実行オプションからの回復』 - 201 ページ
- 『ファイルシステムドライブの問題』 - 201 ページ
- 『Windows NT 修復ディスクの作成』 - 202 ページ
- 『Windows NT 修復ディスクの使用』 - 204 ページ
- 『Service Pack とシリアルマウスのメッセージ』 - 205 ページ
- 『UNC パス名を使用したファイルの検索』 - 205 ページ
- 『ディレクトリ列挙の問題』 - 206 ページ
- 『Windows NT4 TS での Citrix MetaFrame のインストール』 - 206 ページ
- 『外付 CD-RW ドライブの問題』 - 206 ページ
- 『Windows NT4 TS エディションで Office 2000 のインストールがフリーズする』 - 207 ページ

外部ビデオの問題

外部ビデオの解像度として、モニタの実際の解像度を超える値を選択すると、Windows NT はフリーズすることがあります。詳細については 167 ページの『外部モニタと Windows NT』を参照してください。

ネットワークドライブへのアプリケーションのインストール

Windows NT アプリケーションをネットワークドライブにインストールできない場合は、C: ドライブまたは D: ドライブへのインストールを試行してください。アプリケーションは正常にインストールされます。

Windows NT の自動実行オプションからの回復

Windows NT のインストールおよび構成後に、Microsoft Windows オペレーティングシステム CD が必要となることがあります (ディスク上のマニュアルを参照する場合など)。Microsoft Windows CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、自動実行ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、[Microsoft Windows セットアップ] オプションがありますが、このオプションは**使用しない**でください。

誤って [Windows NT セットアップ] オプションを選択した場合は、SunPCi III ソフトウェアの再起動後に、OS Loader 画面で別のオペレーティングシステムを選択してください。たとえば、[Last Operating System on C:] を選択します。

ファイルシステムドライブの問題

ファイルシステムドライブを使用する際に、次の問題が発生することがあります。

- デスクトップにファイルシステムドライブのファイルへのショートカットを作成する場合、ドライブ上でそのファイルの場所を変更しても、ショートカットは自動的に更新されません。この場合は、既存のショートカットを削除し、新しいショートカットを作成する必要があります。
- ファイルシステムドライブ、または ¥¥localhost¥パスを使用して割り当てられたドライブに保存されているオブジェクト (クリップアートファイルなど) は、Microsoft Office 2000 アプリケーションに正常に挿入できません。この場合は、オブジェクトをまず C: ドライブや D: ドライブに移動またはコピーしてから文書に挿入する必要があります。
- このバージョンのソフトウェアでは、Universal Naming Convention (UNC) パス名 (¥¥localhost¥export¥home¥myfiles.doc など) を使用して Office 97 または Office 2000 のファイルを検索することができません。

Windows NT 修復ディスクの作成

Windows NT Workstation パッケージに付属している起動フロッピーディスクには、SunPCi III ソフトウェアドライバが含まれていません。これらの修復ディスクを使用して Microsoft Windows の問題を修復すると、SunPCi III ソフトウェアドライバがインストールされないの、ソフトウェアは正常に動作しません。

Microsoft Windows の SunPCi III 3.0 ソフトウェア用の修復ディスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. [スタート] メニューから [Windows の終了] を選択し、[再起動する] を選択します。

Windows NT では、選択肢がラジオボタンとして表示されます。

2. [OK] をクリックします。

Windows NT は終了し、再起動します。

3. OS Loader 画面で、下向き矢印キーを使用して [Previous Operating System on C:] を選択します。Return キーを押します。

SunPCi III ソフトウェアが DOS で起動します。起動が完了すると、DOS プロンプト (C:¥>) が表示されます。

4. ワークステーションのハードディスク内の別の領域またはフロッピーディスクに、次のファイルをバックアップします。

これらのファイルは、DOS 環境を初期化するために必要なファイルです。

```
C:¥winnt¥system32¥Autoexec.nt
```

```
C:¥winnt¥system32¥Config.nt
```

5. 次のファイルをフロッピーディスクにコピーします。

Windows NT Workstation 4.0 が起動しない場合は、このフロッピーディスクを使用して Windows NT を起動します。

```
C:¥Ntldr
```

```
C:¥Boot.ini
```

```
C:¥Ntdetect.com
```

```
C:¥bootsect.dos
```

```
C:¥Hal.dll
```

破損や紛失に備え、このフロッピーディスクのコピーを複数作成しておくことをお勧めします。

6. ワークステーションのハードディスク内のディレクトリ (\$HOME/temp など) に、次のレジストリファイルをコピーします。

これらのファイルは、Windows NT レジストリを復元するために必要なファイルです。

```
C:¥System32¥config¥Sam
C:¥System32¥config¥Sam.log
C:¥System32¥config¥Sam.sav
C:¥System32¥config¥Security
C:¥System32¥config¥Security.log
C:¥System32¥config¥Security.sav
C:¥System32¥config¥Software
C:¥System32¥config¥Software.log
C:¥System32¥config¥Software.sav
C:¥System32¥config¥System
C:¥System32¥config¥System.alt
C:¥System32¥config¥System.sav
C:¥System32¥config¥System.log
C:¥System32¥config¥Default
C:¥System32¥config¥Default.log
C:¥System32¥config¥Default.sav
C:¥System32¥config¥Userdiff
C:¥System32¥config¥Userdiff.log
```

注 - ディレクトリ内に .sav ファイルが存在しない場合もありますが、問題ありません。 .sav ファイルが存在する場合は、これらのファイルをバックアップすることをお勧めします。

7. デフォルトのユーザープロファイルを復元するため、次のファイルをフロッピーディスクにコピーします。

```
C:¥winnt¥profiles¥Default User¥Ntuser.dat
C:¥winnt¥profiles¥Default User¥NTuserdat.log
```

注 - DOS では、ディレクトリは C:¥winnt¥profiles¥Defaul~1¥ と表示されます。

Windows NT 修復ディスクの使用

Windows NT を修復する必要がある場合は、次の手順に従います。

1. DOS ファイルのコピーを保存したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、SunPCi III ソフトウェアを起動します。

SunPCi III ソフトウェアウィンドウが DOS プロンプトで起動します。

注 – DOS プロンプトで起動できない場合は、フロッピーディスクドライブに MS-DOS 6.22 フロッピーディスク (手元にある場合) を挿入して SunPCi III ソフトウェアをもう一度再起動します。

2. DOS プロンプトで、修復ディスクの作成時に指定されたディレクトリパスに、残りのフロッピーディスクのファイルをコピーします。
3. ワークステーションのハードディスクに保存したファイルを、指定されたディレクトリにコピーします。
4. 保存していたすべてのファイルを各ディレクトリにコピーしたら、[ファイル] メニューから [PC のリセット] を選択して SunPCi III ソフトウェアを再起動します。

SunPCi III ソフトウェアが Windows NT で起動します。

5. Windows NT で起動できない場合は、Windows NT の起動ファイルが保存されているフロッピーディスクを挿入して SunPCi III ソフトウェアをもう一度再起動します。

Windows NT がフロッピーディスクから起動します。F3 を押して DOS プロンプトを起動します。Windows NT の起動ファイルをフロッピーディスクから C: ドライブに再度コピーします。

注 – Windows NT システムのパスワードファイルのみを復元する場合には、次のファイルを復元します。

```
C:¥System32¥config¥Sam
C:¥System32¥config¥Sam.log
C:¥System32¥config¥Sam.sav
```

Service Pack とシリアルマウスのメッセージ

SunPCi III カードにシリアルマウスを接続している状態で Windows NT4 WS に Service Pack 6a をインストールすると、Service Pack のインストール中に 2 つの「新しいハードウェア」ダイアログボックスが開き、次のメッセージが表示される場合があります。

```
Microsoft Serial Mouse
Windows NT has found new hardware and is installing the software
for it.
```

```
Required files are already installed on your hard disk.Setup can
use these existing files, or Setup can recopy them from your
original Windows NT NT CD-ROM or from a network share.
```

```
Would you like to skip file copying and use the existing files?
(if you click No, you will be prompted to insert your Windows NT
CD-ROM or to supply an alternate location where the needed files
may be found).
```

- [はい] をクリックし、ファイルのコピーをスキップします。

注 – このメッセージが表示されるのは、SunPCi III カードのシリアルポートにシリアルマウスが接続されている場合のみです。SunPCi III 仮想マウスを使用している場合は、このメッセージは表示されません。

UNC パス名を使用したファイルの検索

このバージョンのソフトウェアでは、Universal Naming Convention (UNC) パス名 (¥¥localhost¥export¥home¥myfiles.doc など) を使用して Office XP または Office 2000 のファイルを検索することができません。

ディレクトリ列挙の問題

ファイル名にピリオド (.) を 6 個以上含むファイルが SunFSD ディレクトリにあると、ディレクトリの列挙に長い時間がかかる場合があります。

この問題を解決するには 2 つの方法があります。

- ピリオドの数が 5 個以下になるようにファイルの名前を変更する。
- ファイルを C: ドライブにコピーする。

Windows NT4 TS での Citrix MetaFrame のインストール

Windows NT4 TS に Citrix MetaFrame 1.8 ソフトウェアをインストールすると、Windows NT のワトソン博士の次のメッセージが表示されます。

```
An application error has occurred and an application error log is
being generated
PNSVC.exe
Exception violation (0xc0000005), Address 0x77f92fb6
```

下記の URL からダウンロードして、MetaFrame Service Pack 2 以降をインストールします。

<http://www.citrix.com>

外付 CD-RW ドライブの問題

SunPCi III カードに外付 CD-RW (書き換え可能 CD) ドライブを接続している際に、Windows NT から Windows XP Professional にアップグレードを行う場合は、アップグレードの実行前に Windows NT で外付 CD-RW を削除します。削除しなかった場合、アップグレードプログラムが次のメッセージを返します。

```
The file bp32drv4.sys is missing.Copy file from
c:¥$WIN_NT$.~LS.
```

Windows NT4 TS エディションで Office 2000 のインストールがフリーズする

Windows NT4 TS Service Pack 6 を実行しているシステムに Office 2000 ソフトウェアをインストールすると、インストール中にフリーズする場合があります。

「Microsoft Office 2000 セットアップを終了しています」ダイアログボックスが表示されていて、ステータスバーの進行状況が半分くらいのときに、この問題が発生します。インストールプロセスのこの段階でフリーズした場合は、システムを再起動する必要があります。

この問題を解決するには、SunPCi III ウィンドウの [ファイル] メニューから [PC のリセット] を選択し、システムを正しく終了します。

システムの再起動後 Windows NT4 TS が再起動し、Office 2000 のインストールが完了します。

注 - この問題が発生した場合に Microsoft Windows からシステムをシャットダウンすると、ソフトウェアのインストールは完了しません。

Windows 98 の問題

この項では、Windows 98 を使用するときが発生する可能性がある、以下の問題について説明します。この項では、次の項目について説明します。

- 『[スタンバイ] オプションが使用できない』 - 208 ページ
- 『インストール完了前の CD-ROM ドライブからの CD の取り出し』 - 208 ページ
- 『McAfee 6.0 のインストールの問題』 - 208 ページ
- 『Backspace キーの問題』 - 208 ページ
- 『クリーンインストール後に初期画面が表示されない』 - 209 ページ

[スタンバイ] オプションが使用できない

Microsoft Windows の [スタート] メニューから Windows 98 を終了する際には、ダイアログボックスに複数のオプション ([電源を切れる状態にする] や [再起動する] など) が表示されます。Windows 98 では [スタンバイ] オプションを使用しないでください。[スタンバイ] オプションは SunPCi III 3.0 ソフトウェアでは機能しません。

インストール完了前の CD-ROM ドライブからの CD の取り出し

Windows 98 をインストールする際には、ソフトウェアのインストールが完了し、かつ `F:\¥drivers¥win98¥setup` の終了処理が完了するまでは Windows 98 CD を取り出さないでください。CD を取り出すと、Windows 98 のインストールおよびドライバを設定する際に「File Not Found」のメッセージが表示されます。

McAfee 6.0 のインストールの問題

McAfee 6.0 を CD からインストールする際に、自動実行ウィンドウのメニューが読み取れない場合があります。ポインタを使用してメニューを下に移動すると、テキストが読めるようになります。

Backspace キーの問題

Windows 98 を使用中に、DOS で Backspace キーが機能しなくなる場合があります。Backspace キーには Delete キーを割り当てないでください。この割り当てを行うと、DOS アプリケーションで作業する際に Backspace キーを使用できなくなります。Backspace キーを押すと、カーソルの左にある文字ではなく、現在カーソルの右にある文字が削除されます。`.xinitrc` ファイルを変更してこれらの 2 つのキーを割り当てた場合は、このファイルに次の行が含まれています。

```
xmodmap -e keycode 50 = delete
```

テキストエディタを使用して `.xinitrc` を編集します。元のキーの割り当てに戻すには、この行を削除してください。

クリーンインストール後に初期画面が表示されない

Windows 98 のクリーンインストール後は、Windows をシャットダウンしても SunPCi の初期画面が表示されず、黒い画面にカーソルが点滅して表示されます。

この問題は Windows 98 の使用中に次の状況で発生します。

- Windows 98 を手動でクリーンインストールした後、Windows 98 のドライバを手動でインストールしなかった。
- 外部ディスプレイモニタを使用中に、-v オプションを使用して SunPCi ソフトウェアをシャットダウンした。
- Windows 98 のドライバをインストール後、「今すぐ再起動」ダイアログボックスで再起動を要求されたときに再起動しなかった。

この問題を解決するには、クリーンインストール後に Windows 98 のドライバを手動でインストールします。

Microsoft Windows アプリケーションの問題

以下の項目では、ソフトウェアの既知の問題および SunFSD の問題など、さまざまなソフトウェアについての既知の問題について詳細を示します。次のような問題があります。

- 『Microsoft Windows アプリケーションのトラブルシューティング』 - 210 ページ
- 『Microsoft Windows アプリケーションと SunFSD の問題のトラブルシューティング』 - 213 ページ

Microsoft Windows アプリケーションのトラブルシューティング

次の表に、Microsoft Windows アプリケーションで発生する可能性のある問題、その原因と推奨される解決方法を示します。

表 A-10 Microsoft Windows アプリケーションのトラブルシューティング

問題	原因	解決方法
Microsoft Office 2000 にファイルを挿入できない。	オブジェクトファイル (クリップアートや Excel スプレッドシートなど) が、ファイルシステムドライブまたは <code>¥¥localhost¥</code> パス を使用して割り当てられたドライブ上に保存されています。	オブジェクトファイルを C: ドライブや D: ドライブにコピーまたは移動してから、もう一度挿入してください。
ディスプレイ解像度が 1600 x 1200 の外部モニタを接続して起動すると、Windows 2000 がリセットする。	デフォルトの共有メモリの設定が低すぎます。	1600 x 1200 のディスプレイ解像度をサポートするために、BIOS 設定プログラムで共有メモリを 8 MB 以上に設定します。
Microsoft Windows に Corel Draw 10 をインストールすると、システムがハングアップしたように見える。	この時、CD が完全にマウントされてから OK をクリックしてください。	Corel Draw の以前のバージョンの CD を挿入した後、新しい CD が完全にマウントされて LED の点滅が終了してから OK をクリックします。CD がマウントされる前に OK をクリックすると、Corel のインストールはフリーズします。
以前のバージョンの Corel Draw がインストールされていないシステムに Corel Draw 10 アップグレード版をインストールすると、インストールプログラムがソフトウェアの以前のフルバージョンの CD を要求するメッセージが表示されます。		

表 A-10 Microsoft Windows アプリケーションのトラブルシューティング

問題	原因	解決方法
Windows XP Professional に Corel WordPerfect 2000 をインストール中に、インストールプログラムがハングアップしたように見える。	「インストールウィザード」ダイアログボックスがユーザー情報の入力待ちの間に、同時にユーザー登録のダイアログボックスがバックグラウンドで開き、別の「インストールウィザード」ダイアログボックスに隠れています。インストールは「待ち」状態にあります。	この問題を回避するには、Corel セットアップウィンドウを閉じて Corel WP Office 2000 の「白い」初期画面を消去します。その後「インストールウィザード」ダイアログボックスが表示され、正常に動作します。 この問題はインストール中に必ず発生するものではありませんが、高い頻度で発生します。
Norton Antivirus (全バージョン) でウィルススキャンを実行すると、システムがハングアップしたように見える。	Norton Antivirus の実行と同時に別のユーザーまたはプロセスが同じディレクトリにアクセスすると、ウィルススキャンが無限ループにおちいる場合があります。	そのディレクトリにアクセスするすべてのプロセスを停止し、スキャンするディレクトリの読み書きを行わないでください。 Norton Antivirus がスキャンを終了するまで、ドライブの使用を試行しないでください。
Norton Antivirus 2002 を使用するには、Solaris のファイル制限を大きくする必要があります場合があります。	Norton Antivirus が開いたファイルの多くを「開いたまま」にしているように見えます。その結果、ログファイルには次のメッセージが記録されます。 Too many open files.	Solaris ソフトウェアが同時に開くことが可能なファイル数を多くします。 現在の制限を調べるには、次のコマンドを使用します。 ulimit -Hn /etc/system に、次の行を追加します。 set rlim_fd_max=XXXX (XXXX は、ulimit -Hn コマンドで返された数値より大きい値を指定します。)
Windows 2000 または Windows XP Professional で Office XP ワードアートファイルを使用すると、画像のレンダリングに問題が発生する場合があります。	フレームバッファの色深度が 8ビットに設定されています。	グラフィックの設定を高い色深度 (16 ビットまたは 24 ビット) に変更します。

表 A-10 Microsoft Windows アプリケーションのトラブルシューティング

問題	原因	解決方法
Roxio Easy CD Creator 5 で Windows NT がブルースクリーン (BSOD) の KMODE_EXCEPTION_NOT_HANDLED メッセージとともにクラッシュする。	このソフトウェアのインストールでは、システムがサポートする CD パーナーを追加しません。	ソフトウェアをインストールする前に、サポートされる CD パーナーを確実にインストールします。
Windows XP Professional で実行する SunPCi III セッションが PC Anywhere のホストとして使用される場合に、リモートシステムのグラフィックディスプレイが更新されない。	マウスの動作が送信されてホストが応答し、ホストの画面が更新されても、更新された画面がリモートシステムに返信されません。	PC をホストに使用し、リモートシステムに SunPCi III セッションを使用している場合は、SunPCi III リモートシステムのディスプレイ画面が正しい状態です。 この「セッション共有」機能は Windows XP Professional の「リモートデスクトップ」としてデフォルトで使用可能です。詳細については Microsoft のマニュアルを参照してください。
Corel Office 2000 および Corel Office 2002 のインストーラが正しく動作せず、インストールできない。	ISO 9660 に準拠しない CD-ROM は Solaris システムで動作しない可能性があります。	ISO 9660 準拠の CD-ROM のみを使用してください。
以前のバージョンをインストールしていない場合に、Corel 10 (アップグレード) がインストールできない。 以前のバージョンがインストールされた状態で、CD からインストールするよう要求するエラーメッセージが表示されます。	ソフトウェアの以前のバージョンがインストールされていません。	Corel の以前のバージョンの CD を挿入します。 CD が完全にマウントされてから、[OK] をクリックします。CD がマウントされる前に OK をクリックすると、Corel のインストールはフリーズします。
Microsoft Office 文書を別の Office 文書に画像として挿入できず、「Drive Not Found」というエラーメッセージが表示される。	Microsoft Office 2000 または Office XP では、文書を画像として挿入できない場合があります。	この問題を回避するには、Microsoft Office の以前のバージョンを使用してください。 Microsoft Office 2000 または Office XP を使用する必要がある場合は、文書を画像 (.jpg) または Word 文書 (.doc) に変換します。

Microsoft Windows アプリケーションと SunFSD の問題のトラブルシューティング

次の項では、Microsoft Windows アプリケーションと SunFSD の問題、その原因と推奨される解決方法について説明します。

Windows XP Professional のインストールと SunFSD

アプリケーションによっては、SunFSD を含むネットワークドライブにインストールできないものがあり、その場合はエミュレートディスクに直接インストールする必要があります。これは、通常の PC が Windows XP Professional を実行中に Samba ドライブを使用する場合とまったく同じ現象です。

Windows XP Professional では、SunFSD ドライブにインストールできないソフトウェアがいくつかあります。次に示すのは現在わかっているソフトウェアのリストです。

- Adobe Photoshop 7
- Corel Draw 10
- Corel WordPerfect 2002
- Microsoft FrontPage 2002
- Microsoft Office XP
- Microsoft Project 2002
- Microsoft Visio 2002

注 – これは完全なリストではありませんが、現在 SunFSD にインストールできないことが確認されているアプリケーションを含んでいます。

Windows XP Professional を実行している場合は、これらのアプリケーションは SunPCi III エミュレートドライブにインストールする必要があります。

Windows 2000 Professional での Microsoft Office XP のインストールと SunFSD

Windows 2000 Professional では、DOS 8.3 形式より長いディレクトリ名をパスを含む SunFSD または Samba ドライブには Microsoft Office XP をインストールできません。たとえば、次のディレクトリに Office XP をインストールすることはできません。

¥longpathname¥name1¥name2 ただし、次の場所にはインストールできます。

¥shortname¥name1¥name2

この問題を回避するには 2 つの方法があります。

- Office XP をエミュレートドライブにインストールする。
- SunFSD または Samba ドライブのパス名に、8文字以下の短い名前だけが含まれるようにする。

Windows XP Professional での WordPerfect 9 のインストールと SunFSD

WordPerfect 9 は Corel WordPerfect Office 2000 ソフトウェアパッケージの一部です。

Windows XP Professional を使用中に、SunFSD にインストールした WordPerfect 9 を起動できない場合があります。Corel WordPerfect Office 2000 が 8 文字以上の名前のフォルダにインストールされている場合に、Microsoft Windows がエラーメッセージを表示する場合があります。

この問題を回避するには、Corel WordPerfect Office 2000 を 7 文字以下の名前のフォルダにインストールします。

Retrospect ソフトウェアと SunFSD

Microsoft Windows で Retrospect ソフトウェア (バージョン 5.6 または 6.0) を使用して SunFSD のデータをバックアップすると、ディスクの空き容量が十分なのに空き容量不足を示す誤ったメッセージが表示される場合があります。

この問題は、Retrospect が SunFSD がマウントされたルートパスの空き容量だけを確認するために発生します。

この問題を回避するには、保存先のパスディレクトリにバックアップ可能な空き容量が含まれていることを確認します。

Windows 2000、Windows XP Professional、および Windows NT での Norton Antivirus ソフトウェアのウィルススキャンと SunFSD

Norton Antivirus ソフトウェア、特に 2002 Consumer Edition および 7.60 Corporate Edition を使用中に、SunFSD ドライブにマウントしたファイルのスキャンに問題が発生する可能性があります。

2002 Consumer Edition を使用している場合は、スキャンが無限ループに陥り、完全にスキャンが終了しない場合があります。この状況に陥った場合は、スキャンを中止し、アプリケーションを終了します。

7.60 Corporate Edition を使用している場合は、特定のファイルおよびサブディレクトリのスキャンを繰り返す場合がありますが、最終的にはスキャンは終了します。

Symantec の情報によると、Norton Antivirus 2002 Consumer Edition はネットワークで割り当てられたドライブをスキャンすることを想定していません。

Windows XP Professional での Adobe Photoshop のインストールと SunFSD

Windows XP Professional で Photoshop 5.0、5.5、または 6.0 を SunFSD ドライブにインストールすると、「ディレクトリの選択」ダイアログボックスに SunFSD 割り当てドライブがリストされません。

ファイルの場所を検索せずに、ダイアログボックスの一番上付近にあるテキスト入力フィールドに、ドライブ文字とディレクトリを入力します。その後インストールは正常に進行します。

注 – この問題は Photoshop 6.0.1 では発生しません。

SunPCi III 各国語のサポート

この付録では、次の項目が扱われます。

- 『各国語のサポート』 - 217 ページ
- 『キーボード環境変数の使用』 - 218 ページ
- 『DOS 環境でのインターナショナルキーボードの使用』 - 221 ページ
- 『コードページの使用と SunPCi III ソフトウェア』 - 223 ページ

この付録では、次の手順を完了する方法が扱われます。

- 『環境変数の設定方法』 - 220 ページ
- 『環境変数をオフにする方法』 - 220 ページ
- 『Microsoft Windows 用にキーボードをセットアップする方法』 - 221 ページ

各国語のサポート

SunPCi III 3.0 ソフトウェアには、インターナショナルキーボードを使用してアプリケーションを実行できるよう必要な言語サポートが含まれています。SunPCi III プログラムの最初の起動時に、言語と国名のリストが表示されます。ユーザーは、キーボードがサポートする言語または国に対応する番号を入力します。こうした各国言語と国名を PC の用語でコードページと呼びます。コードページとキーボード言語テーブルを変更する場合は、この付録の説明に従ってください。

SunPCi III 3.0 ソフトウェアのインターナショナルキーボードサポートをセットアップするには、KBTYPE と KBCP の環境変数を使用して、インストールに適切なキーボード言語テーブルとコードページを選択します。詳細および Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT、または Windows 98 での使用の手順については、218 ページの『キーボード環境変数の使用』を参照してください。

注 - 日本語のコピーと貼り付け機能を使用できるように Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT を構成するには、154 ページの『Microsoft Windows と Solaris 間で日本語コピーと貼り付けを可能にする方法』を参照してください。

キーボード環境変数の使用

この項では、次の項目について説明します。

- 『KBTYPE 環境変数の設定』 - 218 ページ
- 『KBCP 環境変数の設定』 - 219 ページ
- 『環境変数の設定方法』 - 220 ページ
- 『環境変数をオフにする方法』 - 220 ページ

KBTYPE 環境変数の設定

KBTYPE 環境変数は、SunPCi III ソフトウェアで使用するキーボード言語テーブルを指定します。KBTYPE を設定するには、220 ページの『環境変数の設定方法』を参照してください。表 B-1 は、KBTYPE の値と対応する言語をリストしたものです。

表 B-1 KBTYPE 値

KBTYPE 値	キーボード言語
be	ベルギー語
cf	フランス語 (カナダ)
dk	デンマーク語
fr	フランス語
gf	ドイツ語 (スイス)
gr	ドイツ語
it	イタリア語
ja	日本語
ko	韓国語

表 B-1 KBTYPPE 値

KBTYPPE 値	キーボード言語
la	スペイン語 (ラテンアメリカ)
nl	オランダ語
no	ノルウェー語
po	ポルトガル語
sf	フランス語 (スイス)
sg	ドイツ語 (スイス)
sp	スペイン語
su	フィンランド語
sv	スウェーデン語
uk	英語 (英国)
us	英語 (米国)
zh	中国語
zh_TW	中国語 (台湾)

KBCP 環境変数の設定

KBCP 環境変数はキーボードのコードページを指定します。コードページは、キーボードで使用する文字セット (アクセント、通貨記号など) を指定します。KBCP を設定するには、220 ページの『環境変数の設定方法』を参照してください。コードページとその働きの詳細については、223 ページの『コードページテーブル』を参照してください。表 B-2 は、使用できる KBCP 環境変数の値をリストしたものです。

表 B-2 KBCP 値

KBCP 値	説明
437	米国のコードページ
850	複数言語のコードページ。ヨーロッパ、北米、南米のほとんどの言語で使用される文字が含まれています。
860	ポルトガルのコードページ
863	フランス語圏カナダのコードページ
865	北欧のコードページ。ノルウェー語とデンマーク語の文字すべてを含みます。

▼ 環境変数の設定方法

環境変数を使用するには、次の手順に従ってください。

1. SunPCi III ソフトウェアが実行されていないことを確認します。実行している場合は SunPCi III を終了します。
2. デスクトップで端末エミュレータを開きます。
3. % プロンプトで次のコマンドを入力します。変数名には環境変数の名前を入力し、値には変数の値 (必要な場合) を入力します。

C シェル:

```
% setenv 変数名 値
```

Bourne シェル:

```
% 変数名=値  
% export 変数名
```

4. SunPCi III ソフトウェアを起動します。

▼ 環境変数をオフにする方法

環境変数をオフにするには、次の手順に従ってください。

- 次のコマンドを入力します。変数名には環境変数の名前を入力します。

```
% unsetenv 変数名
```

▼ Microsoft Windows 用にキーボードをセットアップする方法

キーボードレイアウトが使用する言語で正しく動作するには、使用しているバージョンの Microsoft Windows 用にキーボードを構成する必要があります。キーボードをセットアップするには、次の手順を実行してください。

1. Solaris の `KBCP` と `KBTYPE` の各環境変数が同じ言語 (us、gr など) を使用するよう設定されていることを確認します。

環境変数が設定されていない場合は、218 ページの『`KBTYPE` 環境変数の設定』を参照して `KBTYPE` を設定し、219 ページの『`KBCP` 環境変数の設定』を参照して `KBCP` を設定してください。

2. Microsoft Windows の [スタート] メニューから [設定] を選択し、[コントロールパネル] を選択します。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3. Microsoft Windows のデフォルトのキーボードレイアウトを、`KBTYPE` と同じ値に設定します。

DOS 環境でのインターナショナルキーボードの使用

Sun インターナショナルキーボードは、各言語の DOS AT/102 キーボードを完全にエミュレートします。各キーボードでは、US-ASCII および各言語の AT/102 文字セットのすべての文字、さらにその国で日常的に使用されるその他の文字を入力できます。

インターナショナルキーボード

Sun インターナショナルキーボードの使用方法は、一般のキーボードの使用方法とほとんど同じです。キーを押すと、その文字が画面に表示されます。大文字を入力するには、Shift キーを押しながら入力するか、Caps Lock をオンにします。キーに文字が 3 つ表示されている場合、Alt-Graph キーを押しながらそのキーを押すと 3 番目の文字を入力できます。しかし、DOS 環境でキーボードを操作する場合、気を付けるべき点がいくつかあります。

- インターナショナルキーボードでは、各言語の DOS キーボードで使用できる文字より多くの文字にアクセスできます。
- DOS および Solaris オペレーティングシステムでは、キャラット (^) やチルド (~) など、1つの文字がアクセント文字と分離文字の両方に使用されることがあります。Solaris システムでは、別のキーを使用してアクセント文字と分離文字を入力しますが、DOS 環境では、1つのキーでこれら2つの文字を入力します。DOS 環境でアクセント文字を入力するには、該当するキーを押します。分離文字を入力するには、そのキーとスペースバーを同時に押します。
- その言語の DOS キーボードで使用できない文字を入力しようとしても無視されます。

DOS 文字セット

DOS 環境で、ユーザーまたはユーザーが使用するプログラムによってファイルが作成される場合は、常に DOS 文字セットが使用されます。Solaris システム上でファイルを作成する場合は、常に ISO 8859 Latin 1 文字セットが使用されます。Solaris 環境で DOS ファイルを使用したり、DOS 環境で Solaris ファイルを使用したりするのでない限り、これらの文字セットを考慮する必要はありません。一方の形式から他方の形式にファイルを変換するために、2つの変換ユーティリティ (`dos2unix` と `unix2dos`) が用意されています。DOS 文字セットと ISO 8859 Latin 1 文字セットの両方に存在する文字だけが形式を変換できます。一般的に使用される文字のほとんどは、両方の文字セットで使用できます。

ただし、テキストファイルに特殊文字が含まれている場合は、これらの特殊文字を変換できない場合があります。ほとんどのワードプロセッサ、およびテキストプロセッシングプログラムは、各ファイル内で文字スタイルやページレイアウトを示すために特殊コードが使用されています。ですが、これらほとんどのプログラムには、「テキストのみで保存」したり、「ファイルに出力」したりするオプションがあり、このオプションを使用して特殊コードを排除することにより、`dos2unix` および `unix2dos` コマンドでファイルを変換できます。

コードページの使用と SunPCi III ソフトウェア

DOS は、言語固有のコードページを使用して各言語をサポートしています。

コードページを変更する場合は、219 ページの『KBCP 環境変数の設定』の説明に従って、KBCP 環境変数を使用してください。

コードページテーブル

コードページとは使用する文字セットを定義するテーブルです。各文字セットには、その国または言語に固有の 256 のエントリが含まれています。文字はコードページテーブルから翻訳され、キーボード、画面、プリンタで使用されます。フランス語圏カナダで使用される文字、数字、記号 (アクセント記号など) のセットがその一例です。この文字セットを DOS で使用できるようにテーブルに挿入すると、そのテーブルはフランス語圏カナダのコードページになります。

コードページには、**ハードウェア**と**準備済**コードページの 2 つの種類があります。**ハードウェア**コードページは、デバイス内蔵のコードページです。たとえば、ポルトガルで使用するように設計されたプリンタには、ポルトガル語のハードウェアコードページが組み込まれています。多くのデバイスは、組み込まれたハードウェアコードページしか使用できません。

準備済コードページは、ソフトウェアのコードページ情報 (.CPI) ファイルに含まれています。OpenDOS には、次の**準備済**コードページがあります。

- 437 - 米国のコードページ
- 850 - 複数言語のコードページ。ヨーロッパ、北米、南米のほとんどの言語で使用される文字がすべて含まれています。
- 860 - ポルトガルのコードページ
- 863 - フランス語圏カナダのコードページ
- 865 - 北欧のコードページ。ノルウェー語とデンマーク語の文字すべてが含まれています。

言語サポートコード

フランス語圏スイスとドイツ語圏スイスの国コードは 041 です。国コードが 358 と 972 の国は、米国のコードページ 437 を前提条件とし、そこにその国固有の日時形式を含んでいます。たとえば、国コード 351 (ポルトガル) を使用する場合は、準備済コードページ 860 と 850 および po (ポルトガル) キーボードコードを使用できます。us (米国) キーボードコードは使用できません。

表 B-3 言語サポート

国、地域、または言語	国コード	準備済 コードページ	キーコード
米国	001	437, 850	us
フランス語 (カナダ)	002	863, 850	cf
ラテンアメリカ	003	437, 850	la
オランダ	031	437, 850	nl
ベルギー	032	437, 850	be
フランス	033	437, 850	fr
スペイン	034	437, 850	sp
イタリア	039	437, 850	it
スイス	041	437, 850	sf, sg
英国	044	437, 850	uk
デンマーク	045	865, 850	dk
スウェーデン	046	437, 850	sv
ノルウェー	047	865, 850	no
ドイツ	049	437, 850	gr
英語 (インターナショナル)	061	437, 850	-
ポルトガル	351	860, 850	po
フィンランド	358	437, 850	su
イスラエル	972	437	-
日本	081		ja
韓国	082		ko
中国	086		ch
台湾	088		tn

\$LANG 変数

コードページを指定するには、`/usr/bin/dos2unix` および `/usr/bin/unix2dos` の 2 つの Solaris コマンドが使用できます。たとえば、コードページ 850 で作成された `task_list` ファイルを DOS 形式から Solaris 形式に変換するには、`dos2unix` コマンドを使用して次の行を入力します。

```
C:¥> dos2unix -850 task_list task_list
```

コードページがコマンドラインで指定されていない場合は、`dos2unix` と `unix2dos` は `$LANG` 環境変数に基づいて使用するコードページを決定します。`$LANG` 変数が設定されているかどうかを確認するには、Solaris コマンドウィンドウに次の行を入力してください。

```
% env | grep LANG
```

`$LANG` 変数を設定していない場合、または表 B-4 にリストされていない設定がされている場合は、SunPCi III ソフトウェアではデフォルトの US コードページ 437 と `en_US` (英国-米国) `$LANG` 設定が使用されます。

表 B-4 \$LANG 変数設定

\$LANG 変数設定	言語/地域
C	デフォルト「C」ロケール
de	ドイツ語
de_AT	ドイツ語 (オーストリア)
de_CH	ドイツ語 (スイス)
en_AU	英語 (オーストラリア)
en_CA	英語 (カナダ)
en_IE	英語 (アイルランド)
en_GB	英語 (英国)
en_NZ	英語 (ニュージーランド)
en_US	英語 (米国)
es	スペイン語
es_BO	スペイン語 (ボリビア)

表 B-4 \$LANG 変数設定

\$LANG 変数設定	言語/地域
es_CL	スペイン語 (チリ)
es_CO	スペイン語 (コロンビア)
es_CR	スペイン語 (コスタリカ)
es_EC	スペイン語 (エクアドル)
es_GT	スペイン語 (グアテマラ)
es_MX	スペイン語 (メキシコ)
es_NI	スペイン語 (ニカラグア)
es_PA	スペイン語 (パナマ)
es_PE	スペイン語 (ペルー)
es_PY	スペイン語 (パラグアイ)
es_SV	スペイン語 (エルサルバドル)
es_UY	スペイン語 (ウルグアイ)
es_VE	スペイン語 (ベネズエラ)
fr	フランス語
fr_BE	フランス語 (ベルギー)
fr_CA	フランス語 (カナダ)
fr_CH	フランス語 (スイス)
it	イタリア語
ja	日本語
ko	韓国語
sv	スウェーデン語
zh	中国語
zh_CN	中国語 (広東語)
zh_HK	中国語 (香港)
zh_TW	中国語 (台湾)

表にリストされている設定は SunPCi III がサポートする設定で、Solaris がサポートする言語すべてを表示しているわけではありません。

Solaris 環境変数の使用については、Solaris のマニュアルを参照してください。

SunPCi III オンラインサポート

この付録では、SunPCi に関連したさまざまな Web サイトとオンラインリソースをリストしています。

この章では、次の項目について説明します。

- 『SunPCi III の製品 Web ページ』 - 227 ページ
- 『SunPCi III マニュアル』 - 228 ページ

SunPCi III の製品 Web ページ

SunPCi III の製品 Web サイトにも役に立つ情報が記載されています。この Web サイトには、SunPCi III 製品に関する最新情報や、ソフトウェアの更新およびパッチをダウンロードするためのリンクが含まれます。ソフトウェアの更新については、製品の Web サイトを定期的に確認してください。

Web サイトの URL は次のとおりです。

<http://www.sun.com/desktop/products/sunpci>

この Web サイトには、SunPCi のホワイトペーパーとその他の情報へのリンクも含まれています。

この Web サイトには SunPCi III に関する詳細情報への多くのリンクがありますが、その中で SunPCi III 製品に限定した項目は次の URL にあります。

<http://www.sun.com/desktop/products/sunpci/articles.html>

SunPCi III マニュアル

Web サイトの `docs.sun.com` を利用すると、インターネットから SunPCi のマニュアルにアクセスすることができます。次の URL で、特定の文書名またはテーマを検索することができます。

`http://docs.sun.com`

SunPCi のマニュアルだけを検索するには、`docs.sun.com` の検索オプションに「SunPCi」と入力します。HTML と PDF の両方の形式のマニュアルが検索されます。PDF 形式の SunPCi マニュアルは、次の URL で入手できます。

`http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/
docs/Workstation_Products/Interoperability_Products/
SunPCi/index.html`

付録D

SunPCi III パフォーマンス向上の ヒント

この付録では、SunPCi III システムと Microsoft Windows アプリケーションのパフォーマンスを向上させるための方法について説明します。

この付録では、次の項目が扱われます。

- 『SunPCi III 構成の調整』 - 230 ページ
- 『SunPCi III プラットフォームでのゲームソフトウェアの実行』 - 231 ページ
- 『SunPCi III ソフトウェアでの Palm Pilot の使用』 - 233 ページ

この付録では、次の手順を完了する方法が扱われます。

- 『システムメモリの増設』 - 230 ページ
- 『エミュレートドライブの指定』 - 230 ページ
- 『ビデオパフォーマンスの向上』 - 231 ページ
- 『ビデオメモリの増設方法』 - 232 ページ
- 『ビデオディスプレイの出力』 - 233 ページ

SunPCi III 構成の調整

次の項では、SunPCi III ソフトウェアのパフォーマンスを向上させるために変更することができる SunPCi III 構成について説明します。

システムメモリの増設

システムメモリの量が多いほど、SunPCi III プログラムのパフォーマンスは向上します。工場出荷時には、SunPCi III カードには 256 MB のメモリモジュールがインストールされています。

SunPCi III プラットフォームに割り当てるメモリの量を増やす場合は、追加のメモリを購入します。インストールの詳細については、『SunPCi III SODIMM インストールマニュアル』を参照してください。購入方法については販売店にお問い合わせください。



注意 – VGA ドライバにメモリを割り当てすぎないように注意してください。ビデオメモリの量を 1 MB 増やすと、Microsoft Windows のシステムメモリの量が 1 MB 減少します。Microsoft Windows のシステムメモリが少なすぎると、SunPCi III ソフトウェアで Microsoft Windows の「ブルースクリーン」が表示され、次のエラーメッセージが表示されます。SunPCi.VXD:Can't dvma_alloc xxx bytes.
The system is low on memory.

エミュレートドライブの指定

新しい C: または D: ドライブを作成するとき、ドライブのサイズをできるだけ大きく指定してください。ドライブは最大 40 GB まで指定できます。ただし、ドライブサイズを拡張してシステムを再起動するまでは、2 GB だけが表示されます。

エミュレートハードディスクドライブの使用については、13 ページの『エミュレートドライブおよび SunPCi III ソフトウェア』を参照してください。

ビデオパフォーマンスの向上

ワークステーションのビデオディスプレイが 8 ビットモードで実行されている場合、デスクトップの壁紙に単純な模様か [なし] を選択することによって、ビデオのパフォーマンスを向上させることができます。壁紙の模様を複雑にすると、作業中、頻繁に画面を再ペイントする必要が生じるため、ビデオのパフォーマンスが低下します。

注 - 24 ビットのビデオでは、デスクトップの壁紙を変更してもパフォーマンスには影響がありません。

SunPCi III プラットフォームでの ゲームソフトウェアの実行

注 - この手順は、SunPCi III カードで外部 VGA モニタを使用している場合にのみ該当します。外部 VGA モニタのインストールと構成方法については、第 10 章を参照してください。

この項では、SunPCi III プラットフォームでのゲームのパフォーマンスを調整する方法について説明します。SunPCi III カードのデフォルトの VGA メモリ設定は 8 MB で、ほとんどのゲームにおいて十分ですが、グラフィックがより重要な役割を果たすゲームでは、VGA メモリの量を増やすこともできます。

注 - ビデオメモリを増やすと使用可能なシステムメモリが減ることに注意してください。詳細については、230 ページの『システムメモリの増設』を参照してください。

▼ ビデオメモリの増設方法

SunPCi III で使用できる VGA メモリの量を増やすには、次の手順に従ってください。

1. SunPCi III ソフトウェアを起動します。

SunPCi III ソフトウェアを既に実行している場合は、[ファイル] メニューから [PC のリセット] を選択し、Microsoft Windows を終了します。

起動画面と RAM チェックルーチンが表示されます。

2. RAM チェックルーチンの実行中に、キーボードの Del (Delete) キーを押します。

起動ルーチンが停止し、セットアップ画面が表示されます。

3. [Integrated Peripherals] を選択します。

4. [System Shared Memory Size] パラメータを大きい値に変更します。

デフォルトは 8 MB です。このパラメータには、8、16、または 32 MB の値を入力できます。

5. セットアップウィンドウを終了します。

新しい VGA メモリ設定を使用して、SunPCi III 起動ルーチンがもう一度開始されます。

ビデオディスプレイの出力

次の表で、SunPCi III ソフトウェアにおける何種類かのビデオ出力について説明します。

表 D-1には使用しているオペレーティングシステム、インストールしているビデオドライバ、およびプロンプトに `sunpci -v` を入力したかどうかで分類したビデオ出力の種類について説明します。

表 D-1 ビデオに関するオプション

PC オペレーティングシステム	VGA モニタを接続した場合	VGA モニタを接続しない場合
DOS (-v スイッチ使用)	ビデオは VGA モニタに出力されます。	ビデオは使用できません。SunPCi III ウィンドウに <code>Video routed</code> というメッセージが表示されます。
DOS (-v スイッチ不使用)	ビデオはワークステーションの SunPCi III X ウィンドウに出力されます。	ビデオはワークステーションの SunPCi III ウィンドウに出力されます。
Windows 98 (VGA ドライバ使用)	ビデオは VGA モニタに出力されます。	ビデオは使用できません。
Windows 98 (SunPCi III ドライバがインストール済み)	ビデオはワークステーションの SunPCi III X ウィンドウに出力されます。	ビデオはワークステーションの SunPCi III ウィンドウに出力されます。
Windows XP/NT/2000 (SunPCi III ドライバが自動インストール済み)	ビデオはワークステーションの SunPCi III X ウィンドウに出力されます。外部モニタを使用するには、S3 Graphics ProSavage DDR ドライバをインストールしてください。	ビデオはワークステーションの SunPCi III ウィンドウに出力されます。

SunPCi III ソフトウェアでの Palm Pilot の使用

SunPCi III ソフトウェアは、Palm Pilot の「hotsync」機能をサポートします。最良の結果を得るため、特に Windows 98 を使用する場合は、Palm Pilot の hotsync 速度の設定を [As Fast As Possible] ではなく一定の速度に設定することをお勧めします。

索引

記号

[オプション] メニュー, 133

[ファイル] メニュー, 132

A

auto_master ファイル, 188

A ドライブ, 116

B

-B, 129

-b, 129

-bindmac, 129

Boot@Boot

SunPCi カード、サポートの構成, 143

SunPCi カード、サポートの準備, 142

SunPCi デーモンについて, 137

Virtual Network Computing (VNC) について, 138

VNC または SunPCi セッションを無効にする, 145

VNC、サポートの構成, 140

Xvnc 以外の X サーバーの使用, 148

サポートの構成, 140

手動による構成の変更, 147

セッションのリスト, 145

説明, 137

C

-C, 129

-c, 129

C および D ドライブ、トラブルシューティング, 172

C ドライブ

作成と構成, 14

説明, 13

CD-ROM ドライブ、手動マウント, 118

compliance documents

Declaration of Conformity, ix

Regulatory Compliance Statements, v

COM ポート, 125

C ドライブ

トラブルシューティング, 172

バックアップ, 177

D

-D, 129

D ドライブ

作成と構成, 14

説明, 13

Declaration of Conformity, ix

-depth, 129

-display, 130

DOS

短縮名, 182

ディレクトリ操作, 182

文字セット, 222

E

Ethernet

仮想, 55, 77, 95

Ethernet ネットワーク

Windows 2000 での構成, 77

Windows NT での構成, 95

Windows XP での構成, 55

F

-f, 130

H

-h, 130

-help, 130

I

Intel ドライバ

Windows 98 での手動更新, 136

手動更新, 135

自動更新, 134

更新, 134

L

-l, 130

LPT ポート, 124

M

man pages, 6

MANPATH 変数, 6

Meta キー, xxxii

Microsoft Windows

DOS, 182

サポートされているオペレーティングシステム, 1

Microsoft Windows アプリケーションの問題、トラ

ブルシューティング, 209

N

-n, 130

-new, 130

-nomac, 130

P

-p, 130

R

-R, 130

Regulatory Compliance Statements, v

S

Solaris

コマンドウィンドウ, xxx

必要なバージョン, 10

プリンタ、Windows で使用, 155

ボリュームマネージャー, 117

Solaris の参照機能, 188

Solaris を使用した印刷, 155

SunFSD ドライバ、有効と無効, 112

SunPCi

C または D ドライブの作成, 14

Windows 2000 のインストール, 68

Windows 98 のインストール, 104

Windows NT のインストール, 92

Windows XP のインストール, 42

起動, 11

機能, 2

システム必要条件, 10

シャットダウン, 12

終了, 12

シリアルポート, 125

セッション、シャットダウン, 146

ネットワーク, 35

ネットワーク、ソフトウェア, 35

ネットワーク、ハードウェア, 35

パラレルポート, 124

複数カード、構成, 24

- sunpci コマンドの title オプション, 31
- SunPCi ウィンドウのタイトル, 31
- SunPCi ウィンドウの名前, 31
- SunPCi および Microsoft Windows アプリケーションのトラブルシューティング
 - Corel 10, 212
 - Corel Draw 2000, 210
 - Corel Office 2000 および 2002, 212
 - Easy CD Creator, 212
 - Microsoft Office 2000, 210
 - Microsoft Windows 2000, 211
 - Microsoft Windows XP, 211
 - Microsoft Windows XP での WordPerfect 2000, 211
 - Norton Antivirus, 211
 - PC Anywhere, 212
- SunPCi デーモン
 - シャットダウン, 146
- SunPCi の既知の問題, 159
- SunPCi のシャットダウン, 12
- SunPCi の機能, 2
- sunpci コマンド, 129
- SunPCi デーモン
 - 説明, 137
- SunPCi、Microsoft Windows アプリケーション、および SunFSD の問題のトラブルシューティング, 213
 - Norton Antivirus, 215
 - Retrospect, 214
 - Windows 2000 Professional, 214
 - Windows XP Professional, 213
 - Windows XP Professional および Adobe Photoshop, 215
 - Windows XP Professional と WordPerfect, 214
- sunpci コマンド, 11, 12
- SunPCi の起動, 11
- SunPCi の終了, 12
- Windows XP
 - インストール, 42

T

- TCP/IP
 - NDIS ドライバと共に使用するためのプロパティの設定, 37
 - 構成, 37
 - 構成に必要な情報, 37
 - プロパティの設定, 37
- title, 131

U

- USB, 120, 122
- USB/Firewire 用背面板, 122

V

- v, 131
- VGA
 - Windows 2000 用ドライバ, 84
 - Windows XP 用ドライバ, 61
 - メモリ, 231
- vga, 131
- vga sunpci コマンドオプション, 63, 86
- Virtual Network Computing (VNC)
 - シャットダウン, 146
 - 説明, 138
 - リモートクライアント, 148
 - リモートクライアントからの操作, 148
- vold_floppy_disable script, 163
- vold、有効と無効, 117

W

- w, 131
- Windows 2000
 - NT4 TS から Windows 2000 Server へのアップグレード, 74
 - NT4 WS から Windows 2000 Professional へのアップグレード, 72
 - インストールに関する注意, 69
 - インストール, 68
 - カスタムインストール, 69

- 仮想 Ethernet ネットワークの構成, 77
 - 仮想ネットワークアダプタを追加する方法, 78
 - 外部ビデオドライバを構成する方法, 83
 - 外部ビデオを構成する方法, 86
 - 外部モニタをシステムモニタに戻す設定方法, 87
 - 再インストール, 71
 - 静的 IP アドレスを削除する方法, 77
 - トラブルシューティング, 190
 - ネットワークの構成方法, 81
 - 物理 Ethernet のネットワークアダプタを再構成する方法, 82
 - マウスキー機能の構成方法, 88
- Windows 98
- CD-ROM からの実行, 181
 - インストール, 104
 - インストールに関する注意, 104
 - 仮想 Ethernet ネットワークの構成方法, 106
 - 外部ビデオを構成する方法, 107
 - 外部モニタをシステムモニタに戻す設定方法, 108
 - 再インストール, 104
 - トラブルシューティング, 207
 - ネットワークの構成方法, 105
 - 物理 Ethernet ネットワークの構成方法, 105
- Windows NT
- setupnt スクリプト, 93
 - SunNDIS アダプタのインストール方法, 96
 - SunNDIS アダプタの削除方法, 97
 - インストール, 92
 - インストールに関する注意, 92
 - カスタムインストール, 93
 - 仮想 Ethernet ネットワークの構成, 95
 - 外部ビデオを構成する方法, 98
 - 外部モニタをシステムモニタに戻す設定方法, 101
 - 再インストール, 95
 - トラブルシューティング, 200
- Windows XP
- 2000 Professional から XP Professional へのアップグレード, 48
 - 98 から XP Professional へのアップグレード, 50
 - NT4 WS から XP Professional へのアップグレード, 46
 - アップグレード, 45
 - インストールに関する注意, 42
 - カスタムインストール, 43
 - 仮想 Ethernet ネットワークの構成, 55
 - 仮想ネットワークアダプタを追加する方法, 56
 - 外部ビデオドライバを構成する方法, 61
 - 外部ビデオを構成する方法, 63
 - 外部モニタをシステムモニタに戻す設定方法, 65
 - 再インストール, 45
 - 静的 IP アドレスを削除する方法, 55
 - トラブルシューティング, 190
 - 日本語版 Windows XP Professional のインストール, 52
 - 日本語版 Windows XP Professional のインストール、手動, 53
 - 日本語版 Windows XP Professional のインストール、自動, 52
 - ネットワークの構成方法, 58
 - 物理 Ethernet のネットワークアダプタの構成方法, 60
- Windows エクスプローラ
- ファイルシステムドライブの使用, 149
 - ネットワークドライブの割り当て, 189
- Windows ディスクドライブ、作成, 14
- Windows、ヘルプの表示, 7
- Windows エクスプローラ
- ネットワークドライブの割り当て, 149
- X
- xwait, 131
- あ
- 安全への準拠に関する情報, iii
- い
- インストール
 - システム必要条件, 10
 - ハードウェアのマニュアル, xxxiii
 - インターネット、Sun のマニュアル, 228

え

- エミュレートドライブ, 13
 - 拡張, 20
 - トラブルシューティング, 172
 - パフォーマンス向上のヒント, 230

お

- オペレーティングシステム、必要条件, 10

か

- カード、複数の構成, 23
- カードとイメージの再バインド, 32
- 拡張ドライブ, 149
 - アプリケーションのインストール, 152
 - 使用, 149
 - デフォルト, 152
 - ネットワークドライブ, 149
- カスタマーサポート, xxxii
- 仮想 Ethernet
 - 構成, 55, 77, 95, 106
 - 有効化, 55, 77, 95, 106
- 外部デバイスへの接続, 119

き

- 既存のハードドライブの拡張, 20
- 技術サポート, xxxii

け

- ゲーム、外部 VGA の実行, 231

こ

- コードページ
 - \$LANG 変数, 225
 - 定義, 223
- コピーコマンド, 154

- コピーと貼り付け, 154
 - 日本語、構成, 154

コマンドラインオプション

- B, 129
- b, 129
- bindmac, 129
- C, 129
- c, 129
- D, 129
- depth, 129
- display, 130
- f, 130
- h, 130
- help, 130
- l, 130
- n, 130
- new, 130
- nomac, 130
- p, 130
- R, 131
- sunpci, 128
- title, 131
- v, 131
- vga, 131
- w, 131
- xwait, 131

さ

- サポート, xxxii

し

- システム必要条件, 10
- 周辺装置, 119
- 手動で CD-ROM ドライブをマウントする, 118
- シリアル/パラレルポート用背面板
 - パラレルポート, 124
- 新規ハードドライブの作成, 18
- 自動マウントディレクトリ、参照, 188
- 準拠情報
 - 安全への準拠に関する情報, iii

す

スクリーンセーバー
回避, 157
使用, 157

て

ディスクイメージ、新しいカードの名前, 26
ディスクオペレーティングシステム、DOSを参照
、 222
デバイス、周辺装置, 119

と

トラブルシューティング, 159
CD-ROM ドライブの問題, 164
Microsoft Windows アプリケーションの問題
、 209
SunFSD の問題, 184
Windows 2000 の問題, 190
Windows 98 の問題, 207
Windows NT の問題, 200
Windows XP の問題, 190
エミュレートハードドライブ, 172
ソフトウェアインストールエラーメッセージ
、 170
ソフトウェア起動エラーメッセージ, 171
ソフトウェアの問題, 168
ネットワークの問題, 184
ハードウェアエラーメッセージ, 161
ハードウェアの問題, 160
マウスの問題, 162
問題のサポート, 159
ドライバ、Intel, 134

に

日本語のコピーと貼り付け、構成, 154

ね

ネットワーク
TCP/IP プロパティの設定, 37
トラブルシューティング, 184, 185
ドライブ、参照, 188
プリンタ, 155
ログイン, 189
ネットワークコンピュータ, 187
ネットワークドライブ, 149

は

ハードウェアのインストールマニュアル, xxxiii
ハードドライブ
新規作成, 18
接続, 18
トラブルシューティング, 172
ハングアップ, 188
背面板
USB/Firewire, 122
シリアル/パラレルポート, 124
メインカード背面板, 121
貼り付けコマンド, 154
パフォーマンス向上のヒント
SunPCi 構成, 230
エミュレートドライブ, 230
パラレルポート, 124

ふ

ファイルシステム
ドライバ, 112
ドライブ, 149
割り当て, 112
複数のカード
エミュレートドライブと共に起動, 31
エミュレートドライブの作成, 25
構成, 23, 24
構成の更新, 32
ソフトウェア手順, 24
名前, 26
名前の例, 25
MAC アドレスの変更, 32

複数のカードとドライブの起動, 31
複数のカードの構成, 22, 24
フロッピーディスクドライブ, 116
物理 Ethernet
 構成, 105
 無効化, 55, 77, 95
プリンタ、ローカルでの接続, 124

へ

ヘルプ, 6
 man pages ヘルプの表示, 7
 Solaris ヘルプの表示, 7
 Windows ヘルプの表示, 7

ほ

ボリュームマネージャー、有効と無効, 117

ま

マウス、問題のトラブルシューティング, 162
マニュアル、Sun の Web サイト, 228
マニュアルページ, 6

め

メインカード背面板, 121
メニュー
 [オプション] メニュー, 133
 [ファイル] メニュー, 132
メモリ
 調整, 230
 パフォーマンス向上のヒント, 230
メモリ、VGA, 231

も

文字セット, 222

ゆ

ユニバーサルシリアルバス (USB) サポート, 119

ろ

ローカルプリンタ、SunPCi への接続, 124
ログファイル、名前と場所, 160

わ

割り当て
 ファイルシステム, 112
 有効化, 113

